

4 市民意識調査に基づく 「指標の現状（値）」

4-1 指標の現状（値）

第1節 連携型地域社会の形成

第1項 市民と行政の協働を推進します

めざしたい将来像:

「市民の自立」「市民や事業者などと行政の対等な関係」をめざす協働のまちづくりを推進するため、地域拠点の機能(情報の開示と共有、組織の新たな連携など)を高め、地域活動(町会・自治会活動、地区社会福祉協議会の活動)、NPO活動、ボランティア活動のそれぞれの活性化や連携を通して、安全・安心な豊かで活力のある郷土愛に満ちた誇れる”ふるさとまつど”を実現する。

指標

市民活動(地域活動、NPO活動、ボランティア活動など)に参加している人の割合

① 指標の説明

市民が、企業、NPO法人、ボランティア団体、町会、自治会などの一員として社会に貢献するという意志をもち、積極的に地域活動に参加している状況を把握するため、市民活動に参加している人の割合を指標とします。

② 設問

この指標は、次の設問により地域を限定すると共に、積極性を加味し、直接的に聞いている。「社会・行動」

Q7 あなたは、市内で地域に貢献する活動を行っている団体、組織やグループの活動に、日頃積極的に参加していますか。(全てに○)

- | | | |
|--------------------|------------|-------------|
| 1 町会・自治会 | 2 ボランティア団体 | 3 PTA |
| 4 NPO法人(特定非営利活動法人) | 5 子ども会育成会 | 6 企業による奉仕活動 |
| 7 有志・仲間との奉仕活動 | 8 その他() | |
| 9 積極的に参加しているものはない | | |

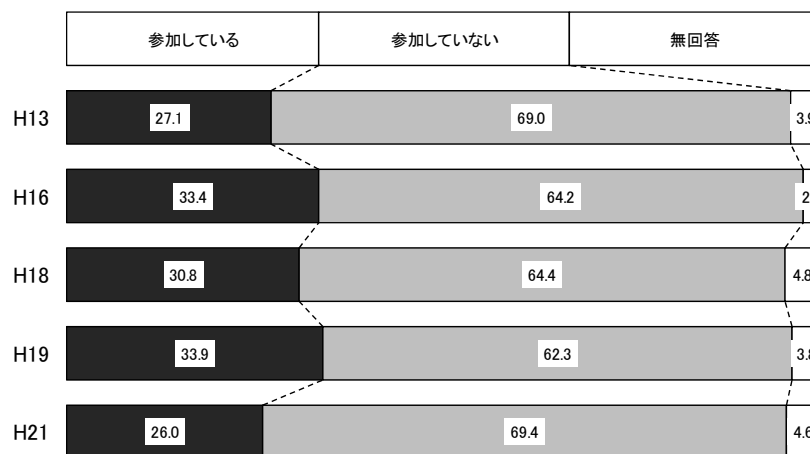
③ 指標の現状

カテゴリー	H13年度	H16年度	H18年度	H19年度	H21年度
参加している	27.1%	33.4%	30.8%	33.9%	26.0%

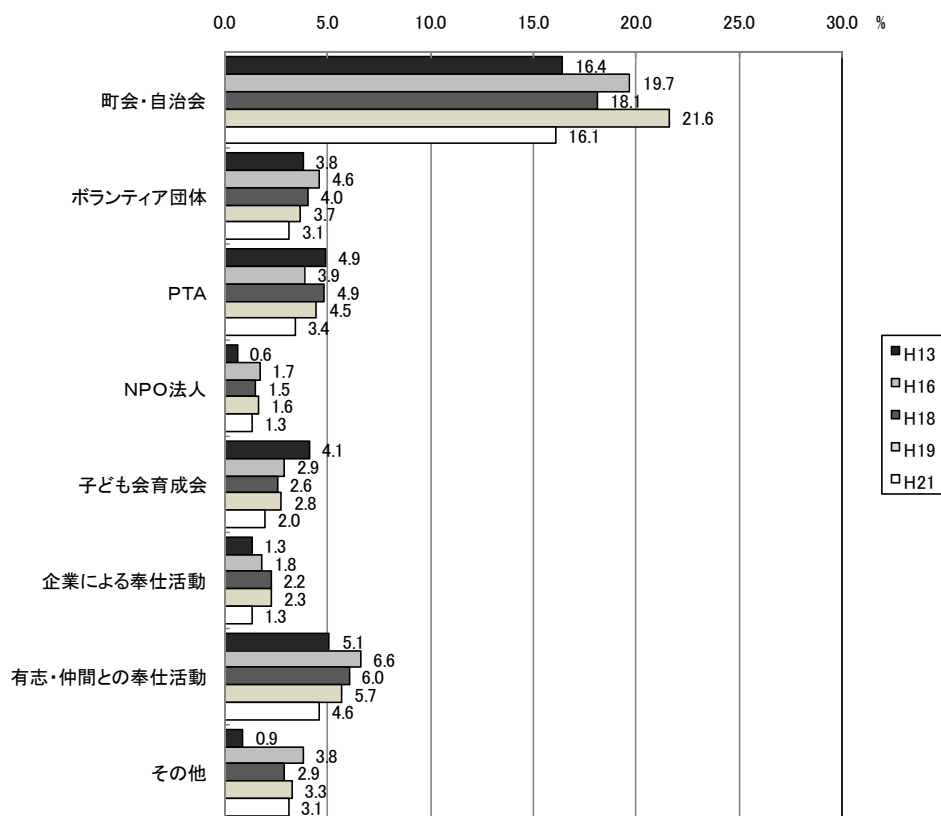
④ 指標の分析

◆ 地域活動への参加は前回に比べ減少

参加している人の割合は前回に比べ減少している。参加していない人の割合が、参加している人の 2 倍以上を占めている状況のなか、継続的に活動意欲を高めていく必要がある。

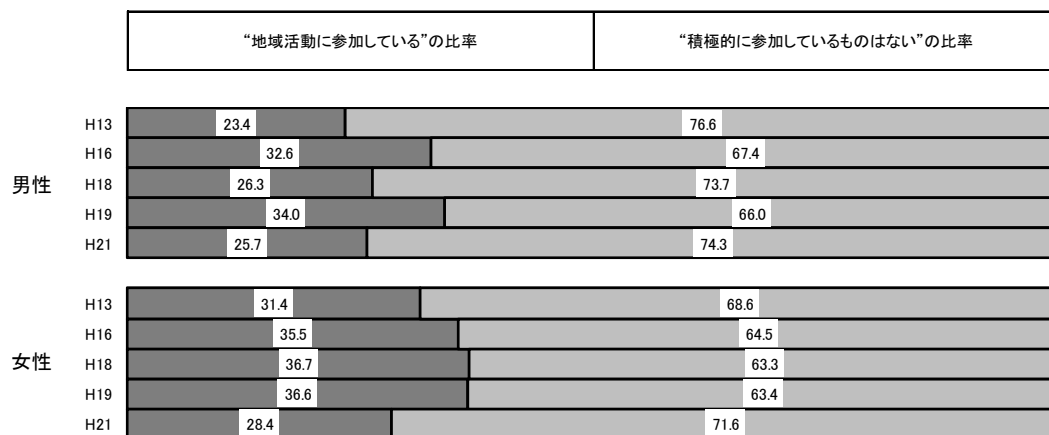


地域活動への参加の場・機会としては、過去の調査結果でも最も高かった“町会・自治会”が、今回も同様に最も高い結果であった。ほかの機会については、前回、前々回とほぼ横ばい、または、減少傾向にある。



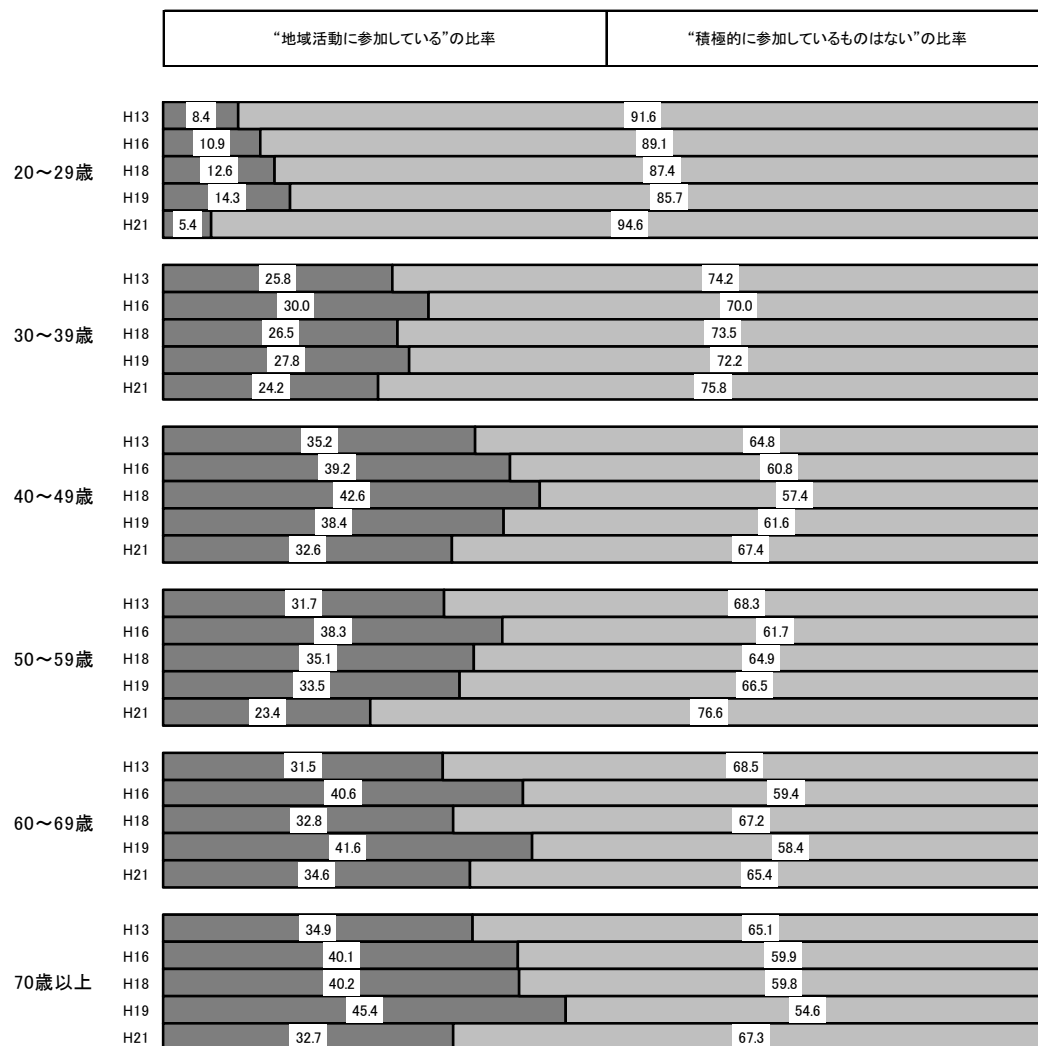
性別で見ると、女性の方が参加している割合が若干高くなっているが、男女とも前回に比べ、地域活動の参加割合が減少している。

【地域活動×性別】



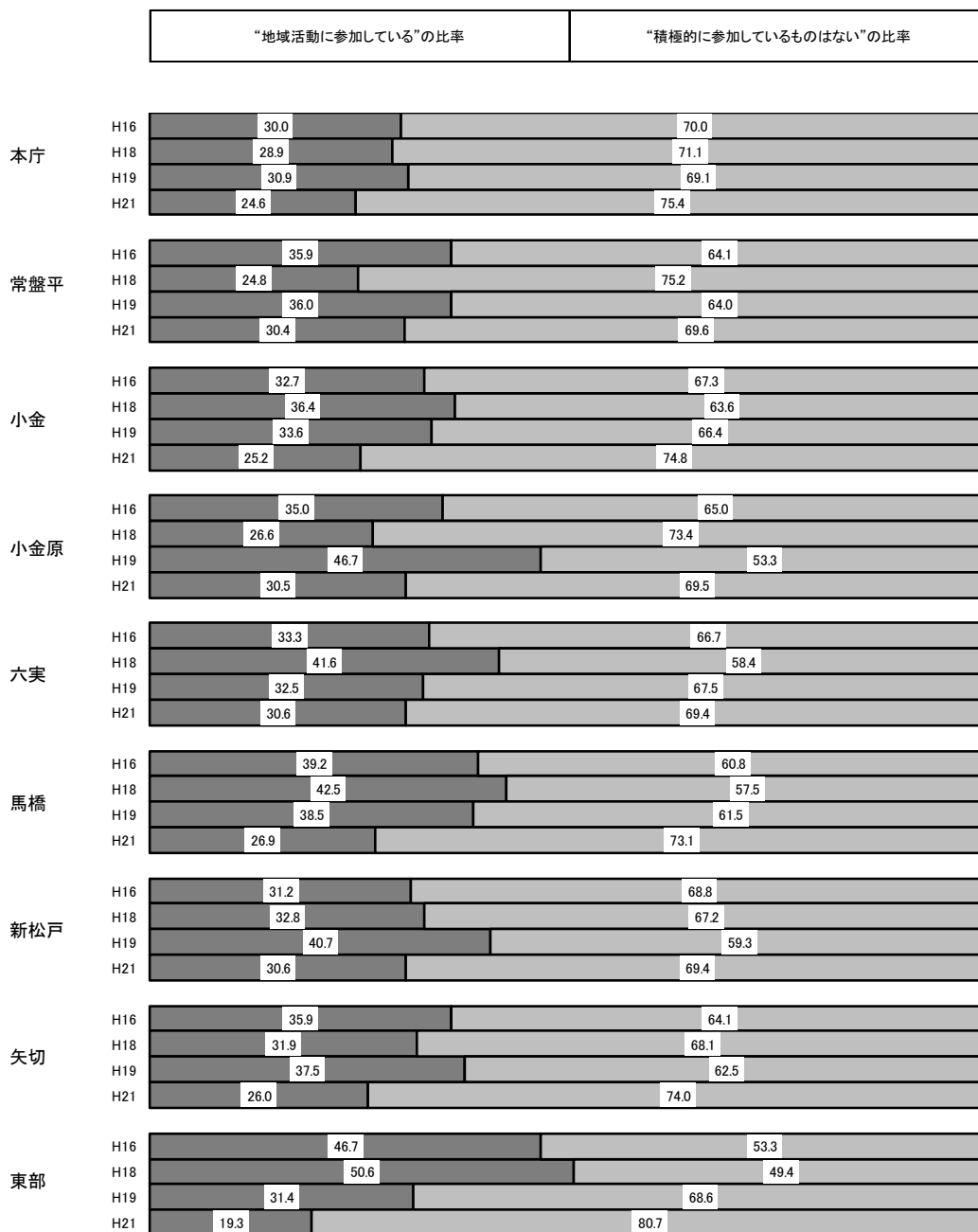
年齢別で見ると、前回に比べ全年齢層で参加割合が減少している。特に、20歳代の参加割合は1割を下回る結果となっている。

【地域活動×年齢】



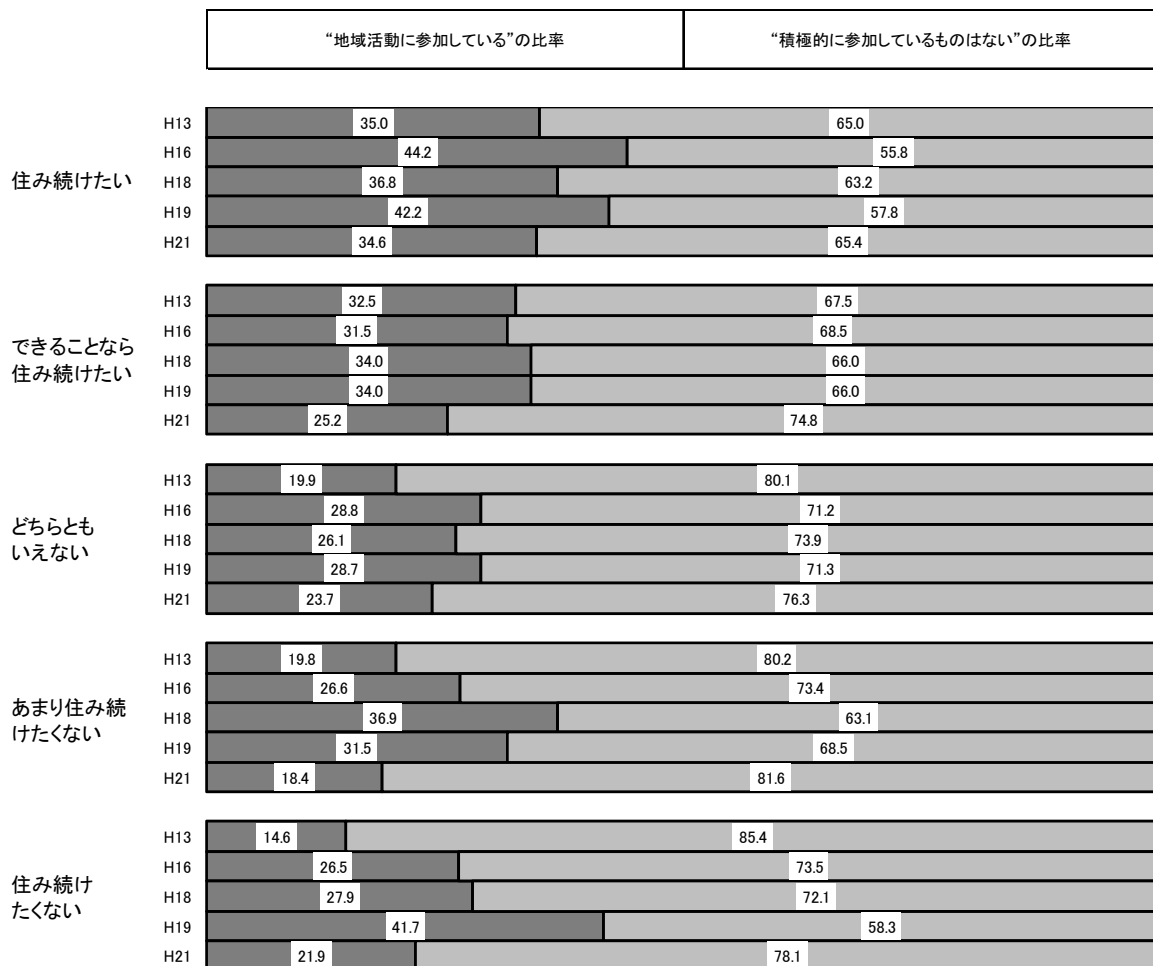
地区別でみると、前回に比べ、全地域で地域活動に参加している割合が減少している。地域活動に参加している割合が最も高い地域(六実、新松戸地区)でも30.6%となっている。

【地域活動×地区】



定住意向との関係においても、地域活動参加割合が前回に比べて減少している。住み続けたいと回答している人の参加割合のみ3割を上回る結果となっている。

【地域活動×定住意向】



第1節 連携型地域社会の形成

第2項 一人ひとりの人権が尊重され、参画しやすい地域社会をつくります

めざしたい将来像:

松戸に住まう全ての人が認め合い、関わり合える平等で差別の無い温かな地域社会に向けて、喜ばれる(心のこもった)活動・対話・教育を通して、自分たちで創り上げる安心できる豊かなまちを実現する。

指標

身の回りで人権が守られていると思っている人の割合

① 指標の説明

差別や偏見などに代表される人権問題は、問題を他人ごととして捉えられがちな傾向や、被害にあった方々が声を出しにくい環境などから、その実態を正確なデータとして捉えることは難しい状況にあります。このことから、身の回りで人権が守られていると思っている人の割合を指標とします。

② 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている。「社会・態度（認知）」

Q1 あなたの身の回りでは人権が守られていると思いますか。次の中で、人権が守られていないと日頃感じることがありますか。(全てに○)

- | | | |
|------------|------------|--------------|
| 1 女性の人権問題 | 2 子どもの人権問題 | 3 高齢者の人権問題 |
| 4 障害者の人権問題 | 5 同和問題 | 6 外国籍市民の人権問題 |
| 7 患者の人権問題 | 8 その他() | 9 人権問題は特にない |

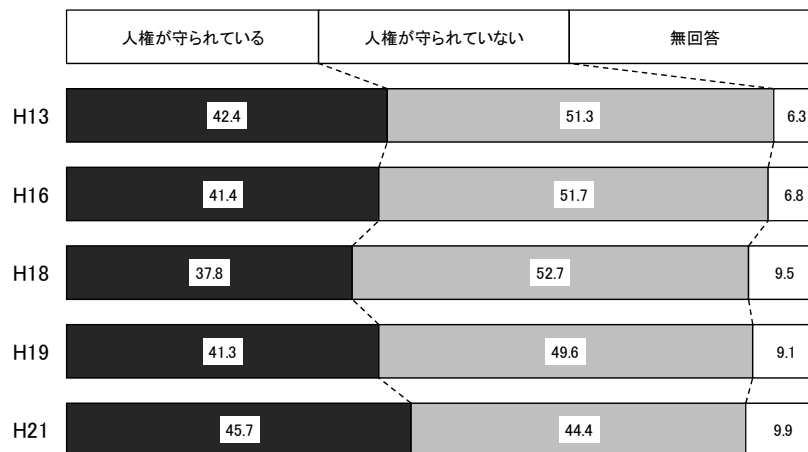
③ 指標の現状

カテゴリー	H13年度	H16年度	H18年度	H19年度	H21年度
人権問題は特にない	42.4%	41.4%	37.8%	41.3%	45.7%

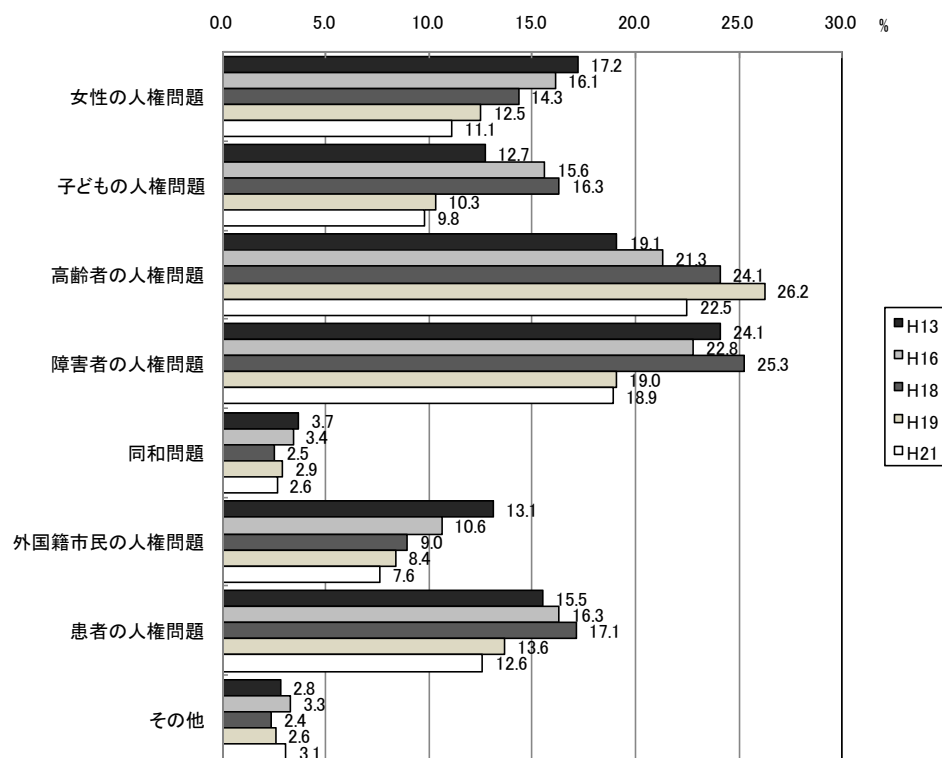
④ 指標の分析

◆ 人権が守られているが守られていないを上回る

“人権が守られている”が45.7%で“人権が守られていない”(44.4%)を上回っている。過去の調査では“人権が守られていない”が高かったのに対し、初めて“人権が守られている”が上回る結果であった。しかしながら、約半数程度の人
が人権が守られていないという傾向は変わらない。

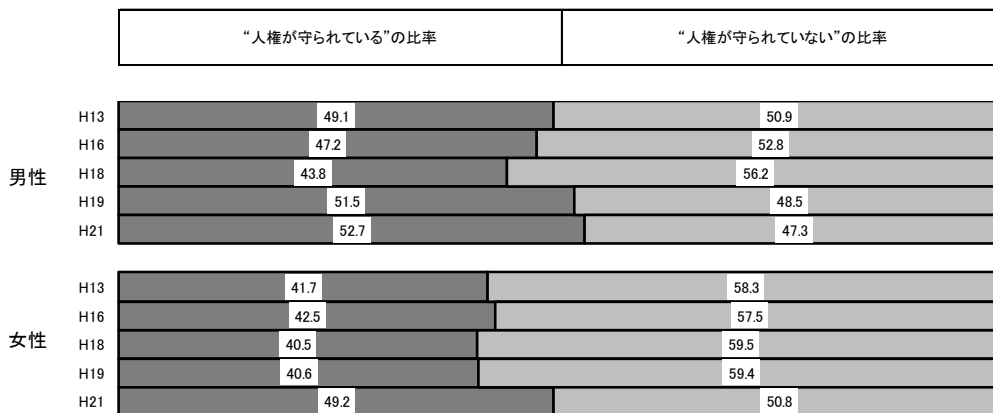


人権問題の存在については、“高齢者の人権問題”、“障害者の人権問題”で多くの回答が集まる結果となった。前回と比較すると、ほぼ全ての項目で割合の減少がみられる。



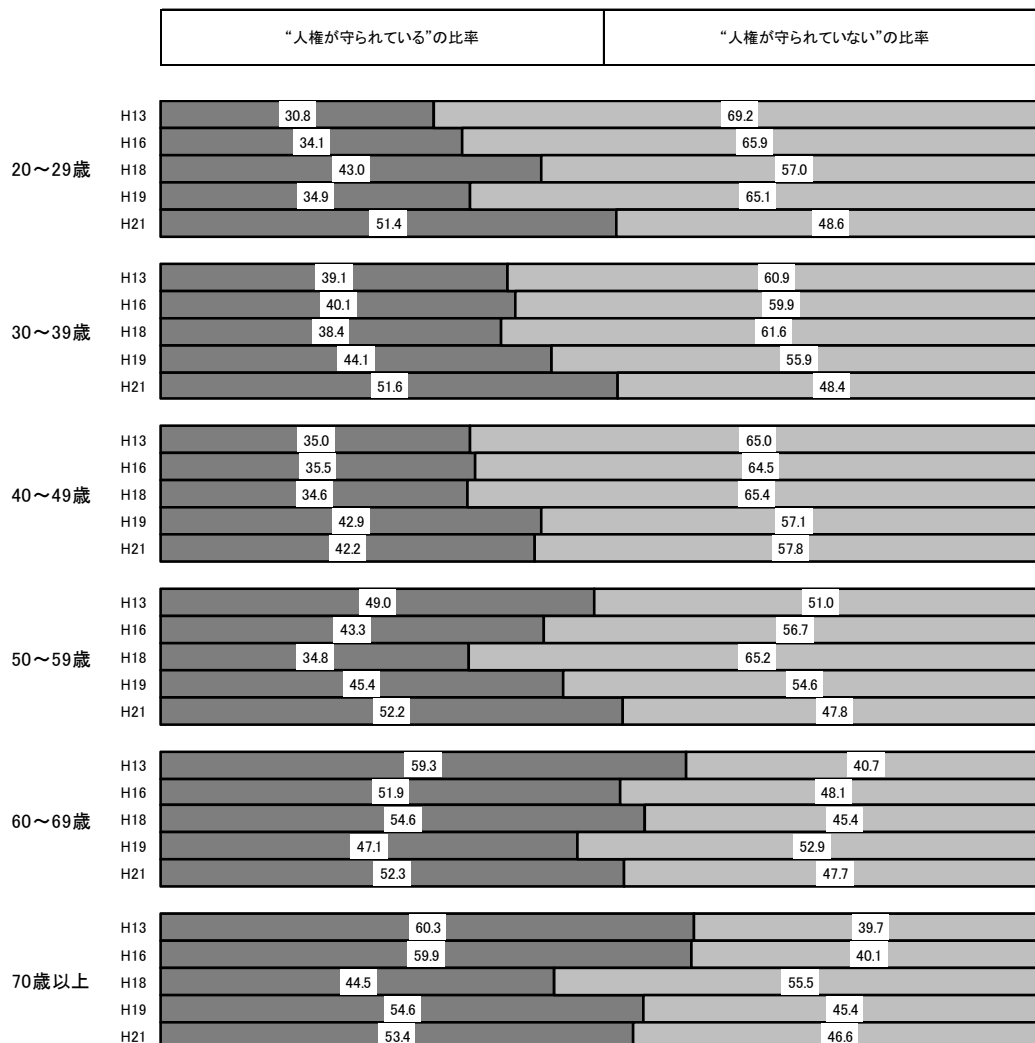
性別で見ると、“人権が守られている”との意識は、前回と同様に男性が高く、男性が 52.7%、女性が 49.2%となっている。前回と比べると、女性で 8.6 ポイントの増加がみられる。

【人権問題×性別】



年齢で見ると、“人権が守られている”との意識が、20 歳代、30 歳代、50 歳代、60 歳代、70 歳以上で 50%を上回っているのに対し、40 歳代で 42.2%と低くなっている。

【人権問題×年齢】



指標

最近、人権や差別について話し合いをした人の割合

① 指標の説明

一人ひとりが尊重されるまちになるには、人権や差別の問題について関心を持つ人が増えると考えられます。そこで、最近、人権や差別について話し合いをした人の割合を指標とします。

② 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている。「個人（行動）」

Q10 あなたは、人権や差別に関する問題について、身近な人と話し合いをすることがありますか。
(1つに〇)

1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 全くない

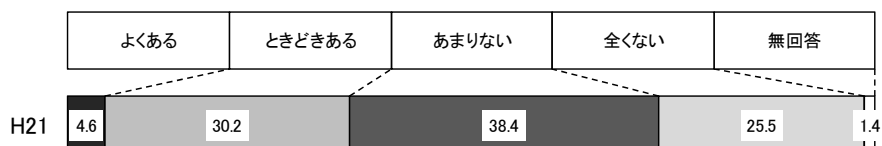
③ 指標の現状（値）

カテゴリー	H21年度
よくある	4.6%
ときどきある	30.2%
計	34.8%

④ 指標の分析

◆ 人権や差別に関する意識は3割以上

人権や差別に関する問題について、身近な人と話し合いをすることが“ある”人は、34.8%で全体の3割以上となっている。



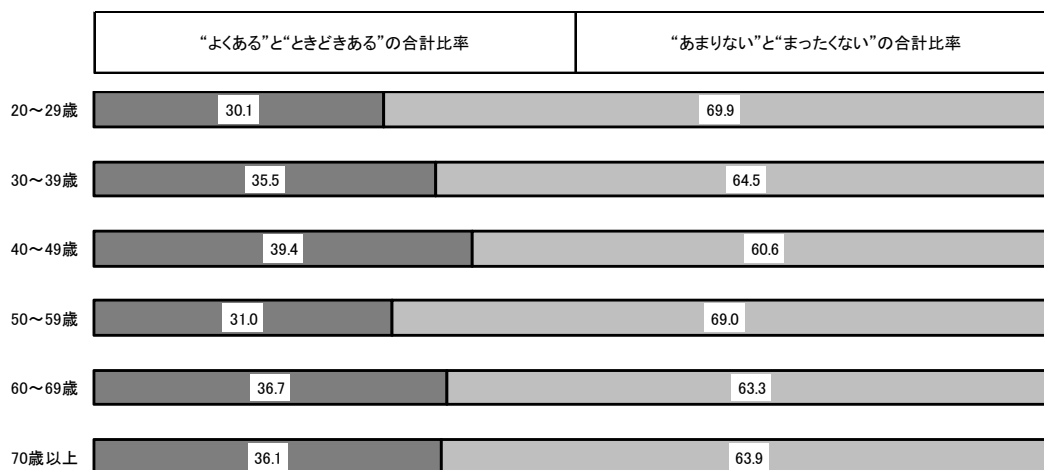
性別でみると、身近な人と話し合いをすることが“ある”人は、女性の方が男性より高い割合を示している。

【人権・差別問題の会話×性別】



年齢別にみると、どの年齢層も“ある”と回答した人が30～40%となっている。20歳代と50歳代がほかの年齢層に比べて低くなっている。

【人権・差別問題の会話×年齢】



指標

固定的性別役割分担を支持しない人の割合

① 指標の説明

固定的な男女の役割意識が払拭されていくことで、家庭環境、社会環境が改善され、性別に係わらず役割が今以上に選択できるようになると考えられます。そこで、固定的性別役割分担を支持しない人の割合を指標とします。

② 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている。「個人・態度（認知）」

Q2 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこの考え方に同感する方ですか、それとも同感しない方ですか。（1つに○）

1 同感する方 2 どちらともいえない 3 同感しない方 4 わからない

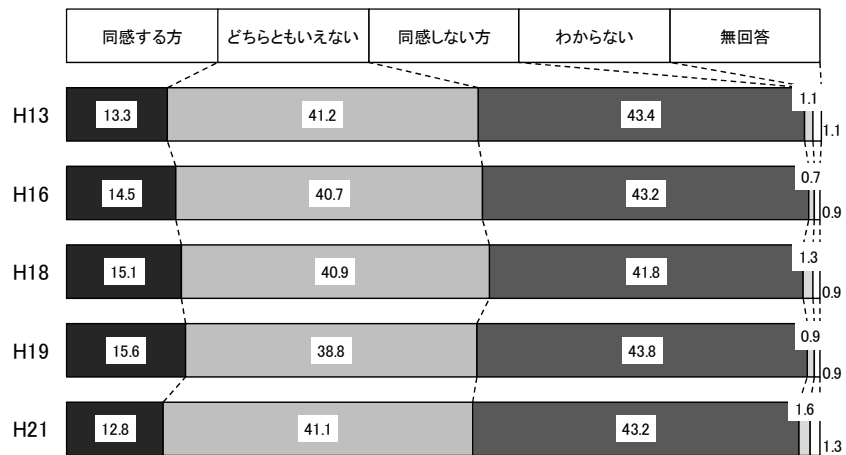
③ 指標の現状（値）

カテゴリー	H13年度	H16年度	H18年度	H19年度	H21年度
同感しない方	43.4%	43.2%	41.8%	43.8%	43.2%

④ 指標の分析

◆ 男女共同参画に関する意識は前回から僅かに減少

「男は仕事、女は家庭」という役割固定に“同感しない方”は、前回から僅かに減少する結果であった。一方、“同感する方”という回答についても減少がみられた。今後も意識啓発等を継続していくことが重要と考えられる。



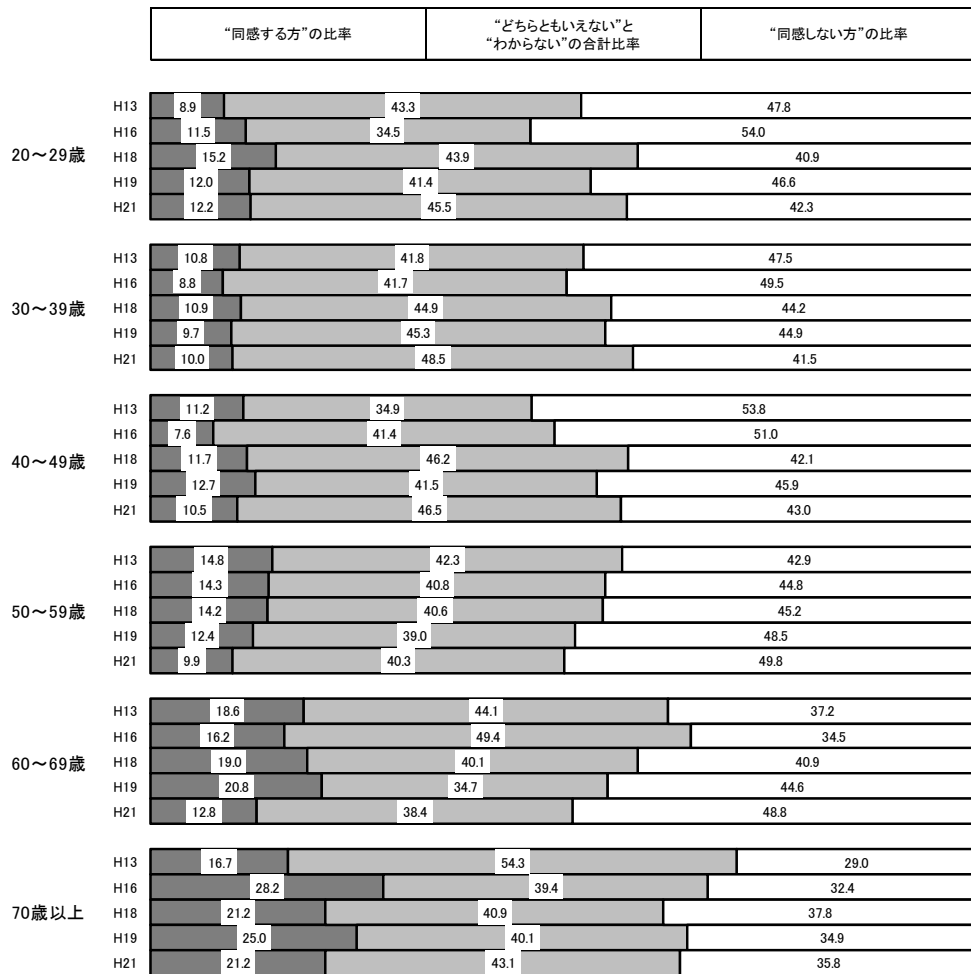
性別で見ると、役割固定に“同感しない方”は、女性の方が高い傾向にある。前回に比べると、女性が若干であるが増加している。一方、“同感する方”は前回同様男性の方が高い傾向が見られる。

【性別による役割×性別】

	“同意する方”の比率	“どちらともいえない”と “わからない”の合計比率	“同感しない方”の比率	
男性	H13	17.6	43.5	38.9
	H16	20.0	40.3	39.7
	H18	20.5	40.7	38.8
	H19	21.5	36.6	41.9
	H21	17.9	42.1	40.0
女性	H13	10.3	41.9	47.9
	H16	10.0	43.1	46.8
	H18	11.3	43.7	45.0
	H19	11.5	42.4	46.2
	H21	8.8	43.8	47.4

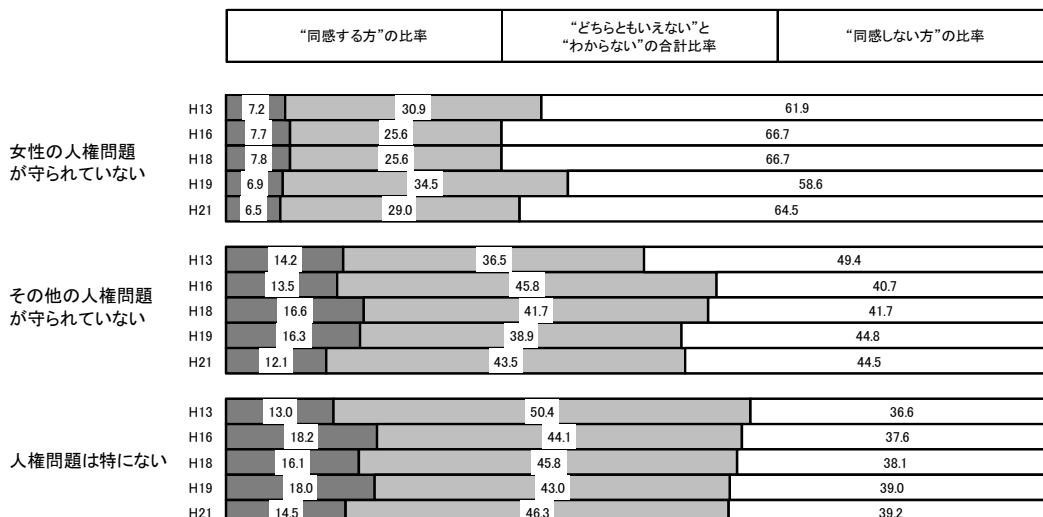
年齢別にみると、“同感しない方”について、50歳以上で前回と比べ増加しているのに対し、40歳代以下で減少が見られる。40歳代以下と70歳以上では“どちらともいえない”と“わからない”が最も高い割合を示している。

【性別による役割×年齢】



人権との関係をみると、前回同様女性の人権問題が守られていないと感じる人の方で、“同感しない方”の傾向が高く、“同感する方”の傾向が低くなっている。現在も、男女共同参画に関わる問題が、女性の人権と密接に結びついた問題として意識されている様子が見える。

【性別による役割×人権問題の認識】



指標

女性の就業割合

① 指標の説明

就労を希望する女性が働けるようになることで、男女が対等なパートナーとしてさまざまな分野に参画でき、能力を発揮できるまちになると考えられます。そこで、女性の就業割合を指標とします。

② 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている。

F3 あなたの職業をお答えください。(1つに○)

- 1 会社員 2 公務員(教員、団体職員などを含む。) 3 自営業(農業を含む。)
4 アルバイトやパートなどの臨時雇用 5 学生 6 その他()
7 専業主婦 8 無職

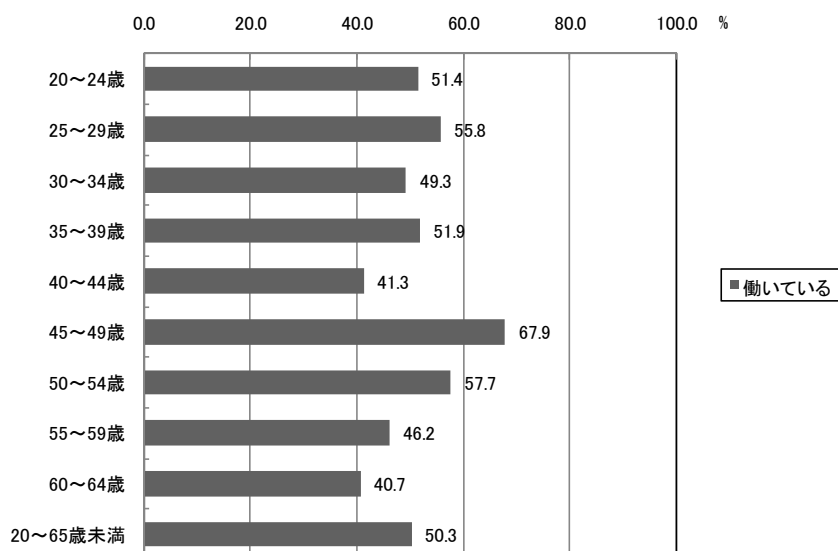
③ 指標の現状(値)

カテゴリー	H21年度
働いている女性の割合	50.3%

④ 指標の分析

◆ 20～65歳未満の女性の就業割合は50.3%

20～65歳未満の女性の就業割合は50.3%であった。年齢別でみると45～49歳が67.9%と最も高く、次いで50～54歳(57.7%)、25～29歳(55.8%)となっている。



第2節 豊かな人生を支える福祉社会の実現

第1項 健康に暮らすことができるようにします

めざしたい将来像:

自らの健康に関心を持ち社会参加することを通して、一人一人が目的を持った生きがいのある暮らしを生み出す。

指標

生きがい感を持っている人の割合

① 指標の説明

生涯にわたり、その意欲や能力に応じて地域活動や就労等の社会参加の機会をもち、年齢や身体状況に係わりなく、いつでも心のはりや生きがいを持ち続ける人を把握するため、生きがい感を持っている人の割合を指標とします。

② 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている。「個人・態度（認知）」

Q4 あなたは日頃、生活の中で生きがいを感じていますか。（1つに〇）

- 1 大変感じている 2 かなり感じている 3 ある程度感じている
4 あまり感じていない 5 ほとんど感じていない

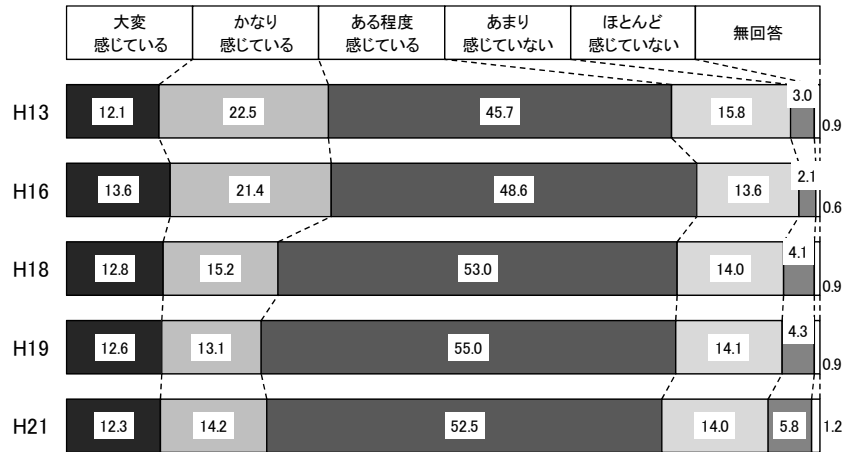
③ 指標の現状（値）

カテゴリー	H13年度	H16年度	H18年度	H19年度	H21年度
大変感じている	12.1%	13.6%	12.8%	12.6%	12.3%
かなり感じている	22.5%	21.4%	15.2%	13.1%	14.2%
ある程度感じている	45.7%	48.6%	53.0%	55.0%	52.5%
計	80.3%	83.6%	81.0%	80.7%	79.0%

④ 指標の分析

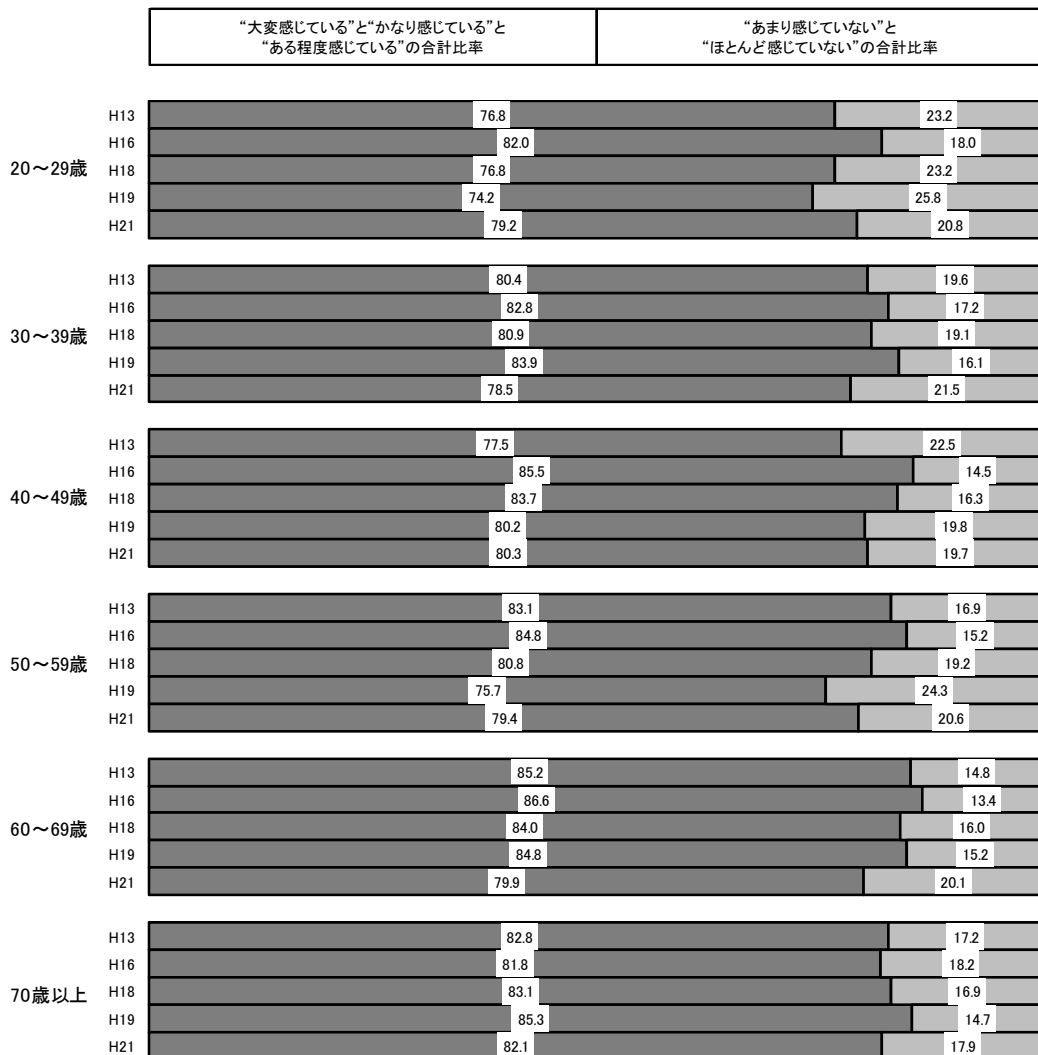
◆ 日頃、生きがいを感じる人は年々減少している

生きがいを感じている人の割合は、前回に比べ 1.7 ポイント減少がみられた。これまでの調査で最も低い割合であった。内訳は、“大変感じている”が 0.3 ポイント、“ある程度感じている”が 2.5 ポイント減少し、“かなり感じている”が 1.1 ポイント増加している。



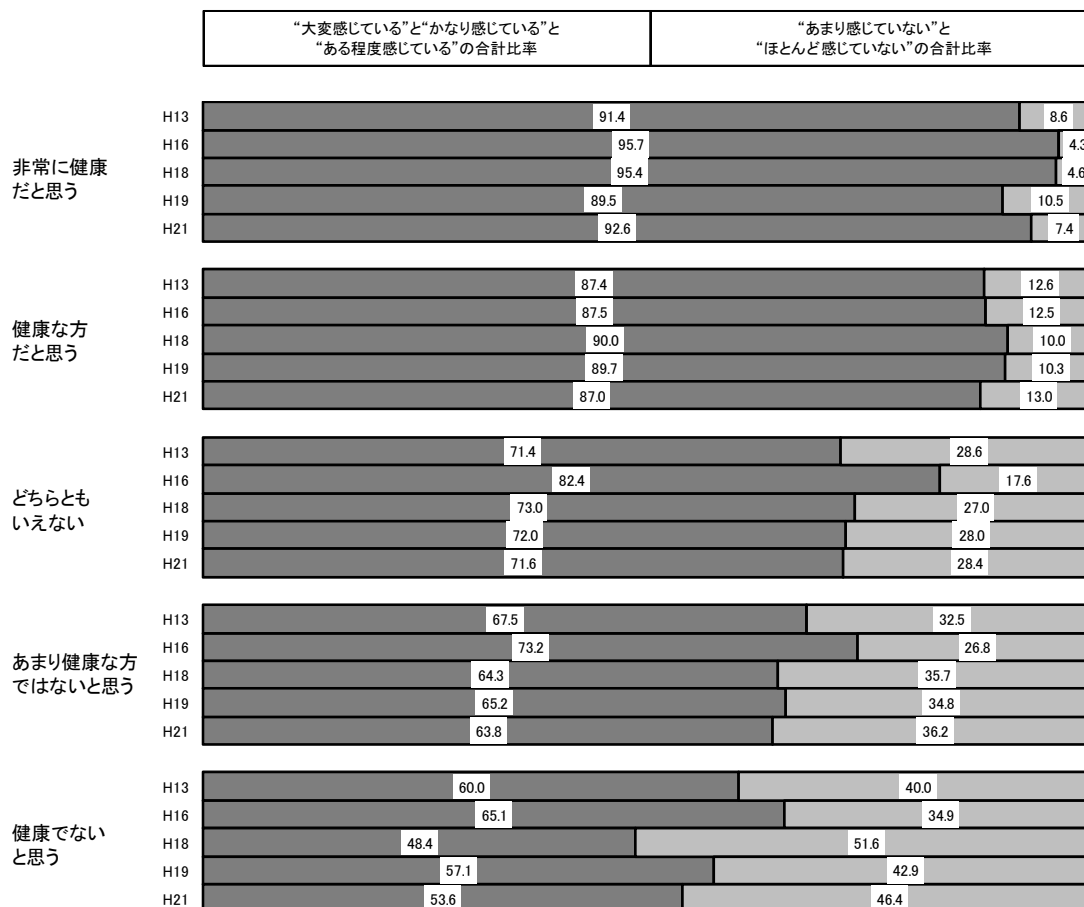
年齢別では、過去の結果と同様に、各年代とも生きがい感を持っている人の割合が圧倒的に高く 7 割以上を占める。前回と比べると、30 歳代、60 歳代、70 歳以上で生きがい感を持つ人の減少がみられる。

【生きがい感×年齢】



本人の健康感との関係を見ると、健康状況に比例して生きがい感が高まる傾向が前回と同様に顕著にみられる。前回と比較すると、非常に健康だと思う人以外、生きがい感の減少がみられる。

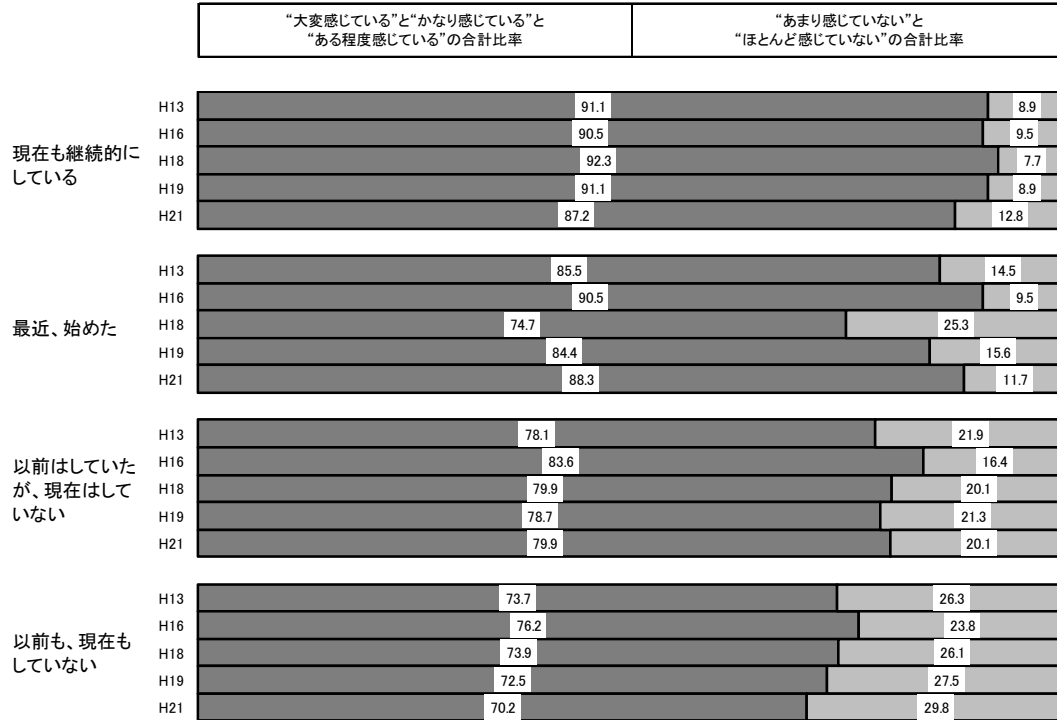
【生きがい感×本人の健康感】



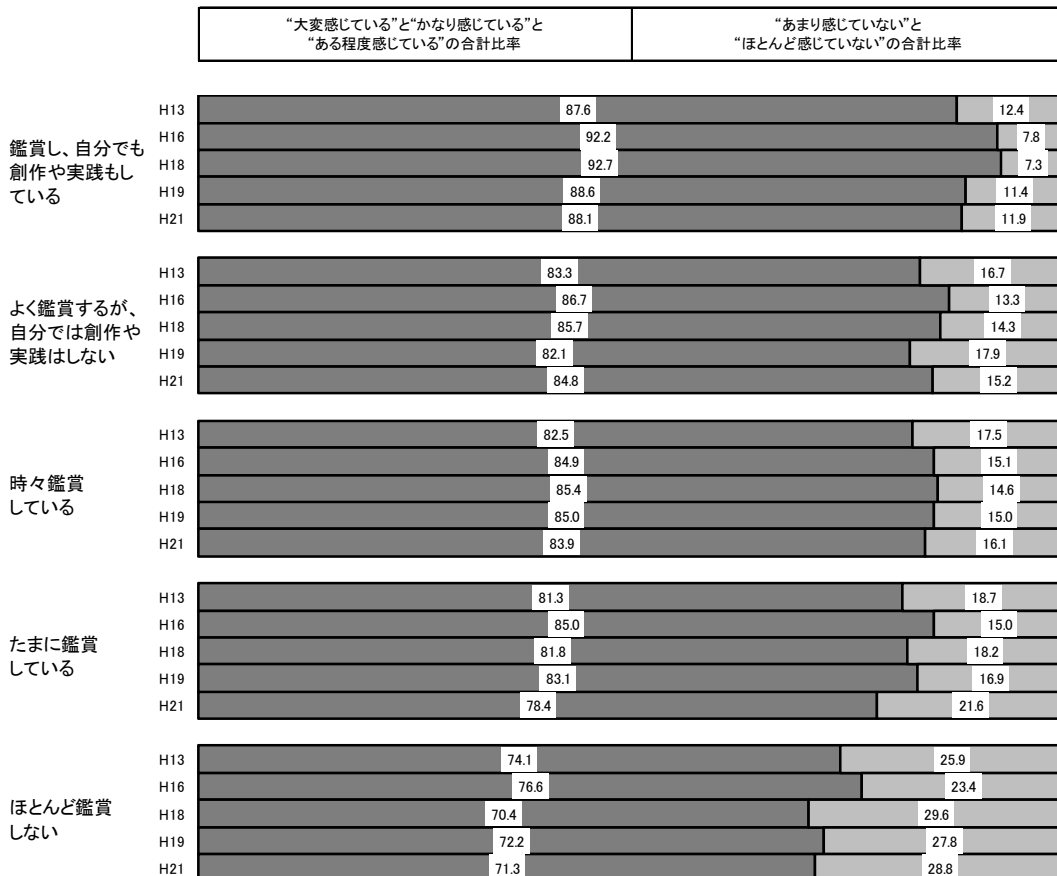
スポーツの実施状況との関係でみると、特に、最近スポーツを始めた人で、前回に比べ 3.9 ポイント増加がみられる。

芸術文化の実施状況との関係でも、鑑賞している人の生きがい感が鑑賞しない人に比べ高い割合を示している。

【生きがい感×スポーツの実施状況】



【生きがい感×芸術文化の実施状況】



指標

本人が健康であると思う人の割合

① 指標の説明

健康は、あらゆる社会活動と市民生活の基盤であり、病気や障害を持つことになっても、その人の置かれた状況に応じて健康な生活が送れることが必要となります。そこで、本人が健康であると思う人の割合を指標とします。

② 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている。「個人・態度（認知）」

Q5 あなたは今、健康だと思いますか。（1つに○）

- 1 非常に健康だと思う 2 健康な方だと思う 3 どちらとも言えない
4 あまり健康な方ではないと思う 5 健康でないと思う

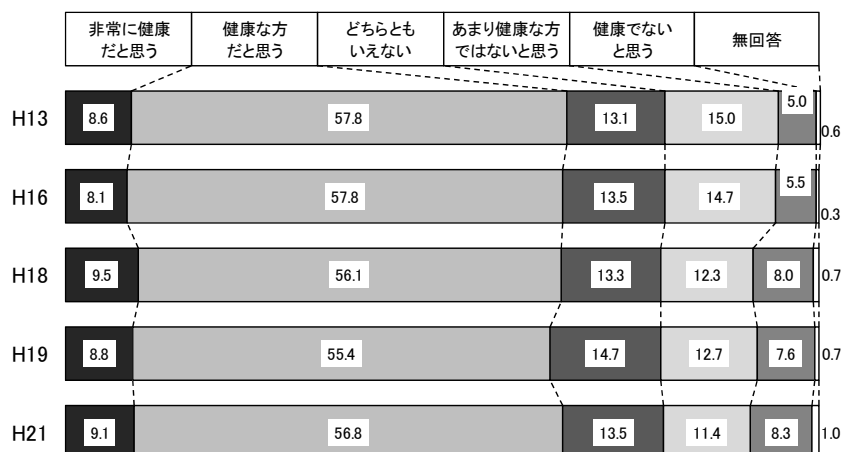
③ 指標の現状（値）

カテゴリー	H13年度	H16年度	H18年度	H19年度	H21年度
非常に健康だと思う	8.6%	8.1%	9.5%	8.8%	9.1%
健康な方だと思う	57.8%	57.8%	56.1%	55.4%	56.8%
計	66.4%	65.9%	65.7%	64.2%	65.9%

④ 指標の分析

◆ 「健康である」と思う人が前回同様、市民の3分の2を占める

健康であると思う人は市民の約3分の2を占めている。前回より1.7ポイントの増加がみられた。



性別で見ると、女性の方が健康であると思う人が僅かであるが高くなっている。前回と比べると、健康であると思う人が男女とも増加している。

【健康感×性別】

		“非常に健康だと思う”と “健康な方だと思う”の合計比率	“どちらともいえない”の比率	“あまり健康な方ではないと思う”と “健康でないと思う”の合計比率
男性	H13	66.2	13.0	20.8
	H16	63.1	14.7	22.2
	H18	63.0	14.3	22.7
	H19	63.1	15.5	21.4
	H21	64.5	14.9	20.6
女性	H13	67.0	13.3	19.6
	H16	68.7	12.9	18.4
	H18	68.3	13.0	18.7
	H19	66.4	14.4	19.2
	H21	68.6	12.6	18.8

年齢別にみると、70歳未満は健康であると思う人が6割を上回っているのに対し、70歳以上は56.7%と6割を下回っている。

前回と比較すると、20歳代、40歳代、50歳代、70歳以上で、健康であると思う人が増加しており、特に20歳代で、大きな増加がみられた。

【健康感×年齢】

		“非常に健康だと思う”と “健康な方だと思う”の合計比率	“どちらともいえない”の比率	“あまり健康な方ではないと思う”と “健康でないと思う”の合計比率
20～29歳	H13	72.4	12.9	14.7
	H16	71.2	13.7	15.1
	H18	68.9	9.8	21.3
	H19	65.2	15.9	18.9
	H21	80.8	5.8	13.5
30～39歳	H13	72.8	12.7	14.6
	H16	69.0	16.2	14.8
	H18	73.2	14.6	12.1
	H19	72.1	15.8	12.1
	H21	71.4	13.5	15.1
40～49歳	H13	65.7	16.7	17.5
	H16	68.3	13.1	18.6
	H18	67.6	13.0	19.4
	H19	65.8	19.9	14.3
	H21	68.6	17.0	14.4
50～59歳	H13	70.4	11.7	18.0
	H16	67.4	12.9	19.6
	H18	65.5	16.8	17.8
	H19	63.5	13.7	22.8
	H21	64.3	16.8	18.9
60～69歳	H13	62.6	13.1	24.2
	H16	63.8	15.0	21.3
	H18	64.6	11.8	23.6
	H19	66.3	11.6	22.1
	H21	64.0	13.6	22.4
70歳以上	H13	47.2	12.9	39.9
	H16	58.8	10.0	31.2
	H18	53.8	13.3	32.8
	H19	55.6	12.8	31.6
	H21	56.7	12.7	30.5

スポーツの実施状況との関係を見ると、前回同様、現在も継続的にスポーツをしているの方が健康であると思う割合が高い傾向となっている。前回との比較をみると、すべての項目で健康であると思う人の割合に増加がみられた。

【健康感×スポーツの実施状況】

		“非常に健康だと思う”と “健康な方だと思う”の合計比率	“どちらともいえない”の比率	“あまり健康な方ではないと思う”と “健康でないと思う”の合計比率
現在も継続的に している	H13	79.3	8.3	12.4
	H16	75.6	11.5	12.9
	H18	77.6	10.1	12.3
	H19	75.5	10.7	13.8
	H21	79.0	9.1	11.9
最近、始めた	H13	66.2	14.3	19.5
	H16	73.8	11.9	14.3
	H18	67.5	12.5	20.0
	H19	64.9	15.6	19.5
	H21	68.3	15.0	16.7
以前はしていた が、現在はして いない	H13	64.2	14.3	21.5
	H16	62.3	15.3	22.5
	H18	61.9	14.8	23.3
	H19	63.3	15.8	20.9
	H21	63.6	14.9	21.5
以前も、現在も していない	H13	57.3	16.5	26.2
	H16	60.9	14.1	24.9
	H18	60.6	14.9	24.5
	H19	53.8	18.7	27.5
	H21	55.9	17.2	26.9

指標

多様な世代と交流する機会のある人の割合

① 指標の説明

生きがいを持って暮らせるように、多様な世代と交流する機会のある人の割合を指標とします。

② 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている。「地域・態度（評価）」

Q21-タ 「多様な世代との交流」の項目

あなたが松戸市で生活する中で、次のことについてそれぞれどの程度満足していますか。（1つに○）

- | | | |
|------------|--------------|---------|
| 1 十分満足している | 2 まあまあ満足している | 3 普通である |
| 4 やや不満である | 5 きわめて不満である | 6 わからない |

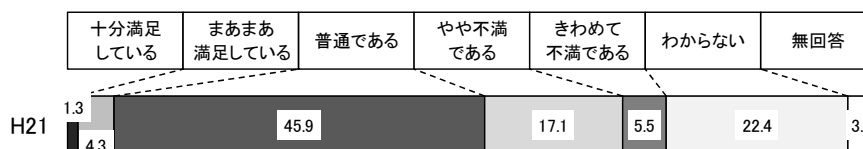
③ 指標の現状（値）

カテゴリー	H21年度
十分満足している	1. 3%
まあまあ満足している	4. 3%
計	5. 6%

④ 指標の分析

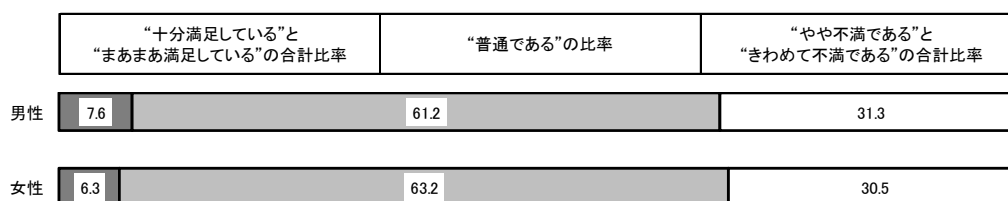
◆ 多様な世代との交流への満足度は1割未満

多様な世代との交流についての満足度は、5.6%と1割を下回る結果であった。内訳をみると、普通との回答が45.9%で最も高くなっている。



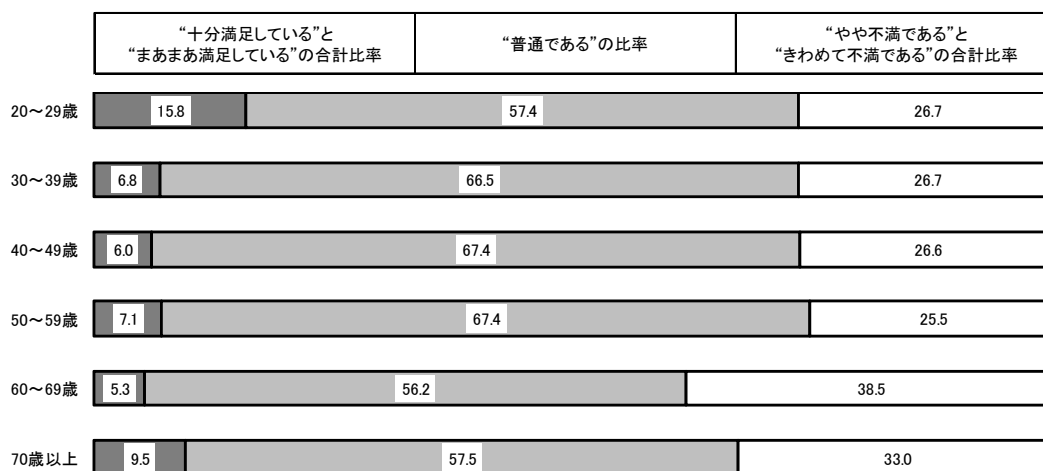
性別でみると、男性、女性ともに大きな変化はみられなかった。どちらも満足している割合が1割未満であった。

【多様な世代との交流×性別】



年齢別では、20歳代のみ満足している割合が1割を上回った。60歳代、70歳以上では、不満の割合が3割以上と、そのほかの年齢層に比べ高い割合を示している。

【多様な世代との交流×年齢】



第2節 豊かな人生を支える福祉社会の実現

第2項 病気や障害、高齢などを理由に生活に支障があっても、 自立した生活が送れるようにします

めざしたい将来像：

どう生きたいか、どう老いるかを考えて、個人の尊厳を保ちながら生きるために、誰もが不安なく自立した生活を送れるようにする。

指標

日常生活に対して不安を感じていない人の割合

① 指標の説明

社会的・経済的状況による生活保護世帯の増加、万が一のための救急医療体制、高齢化社会の進展による要介護者の増加等、市民を取り巻く社会環境のなかで、日常生活上のセーフティネット（安全網）を確立し、生活する上での安心感を把握する必要があると考えられます。そこで、日常生活に対して不安を感じていない人の割合を指標とします。

② 設問

この指標は、次の設問により逆説的に聞いている。「個人・態度（認知）」

Q6 あなたは今、生活の中で不安になったり、心配になったりすることがありますか。気になることがあれば、（全てに○）

- | | | |
|------------|------------|-----------------------|
| 1 自分の健康 | 2 家族の健康 | 3 将来自分や家族が必要になったときの介護 |
| 4 現在の生活や家計 | 5 将来の生活や家計 | 6 仕事 |
| 7 出産や子育て | 8 子どもの将来 | 9 住居や住まい |
| 10 財産や資産 | 11 人との付き合い | 12 生きがい |
| 13 その他（ ） | 14 特にない | |

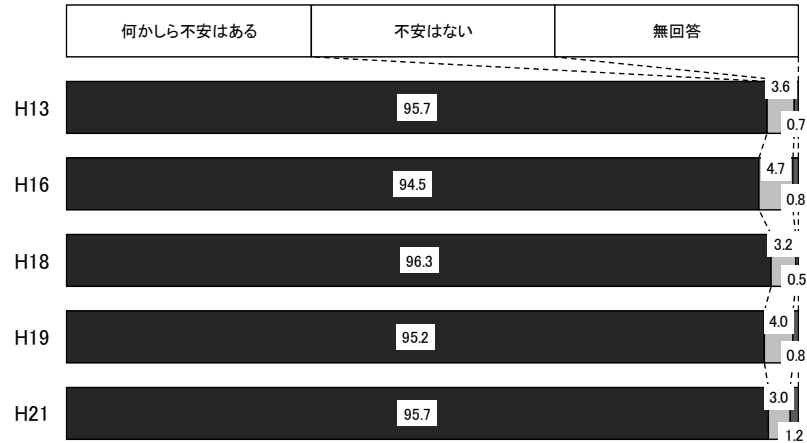
③ 指標の現状（値）

カテゴリー	H13年度	H16年度	H18年度	H19年度	H21年度
特にない	3.6%	4.7%	3.2%	4.0%	3.0%

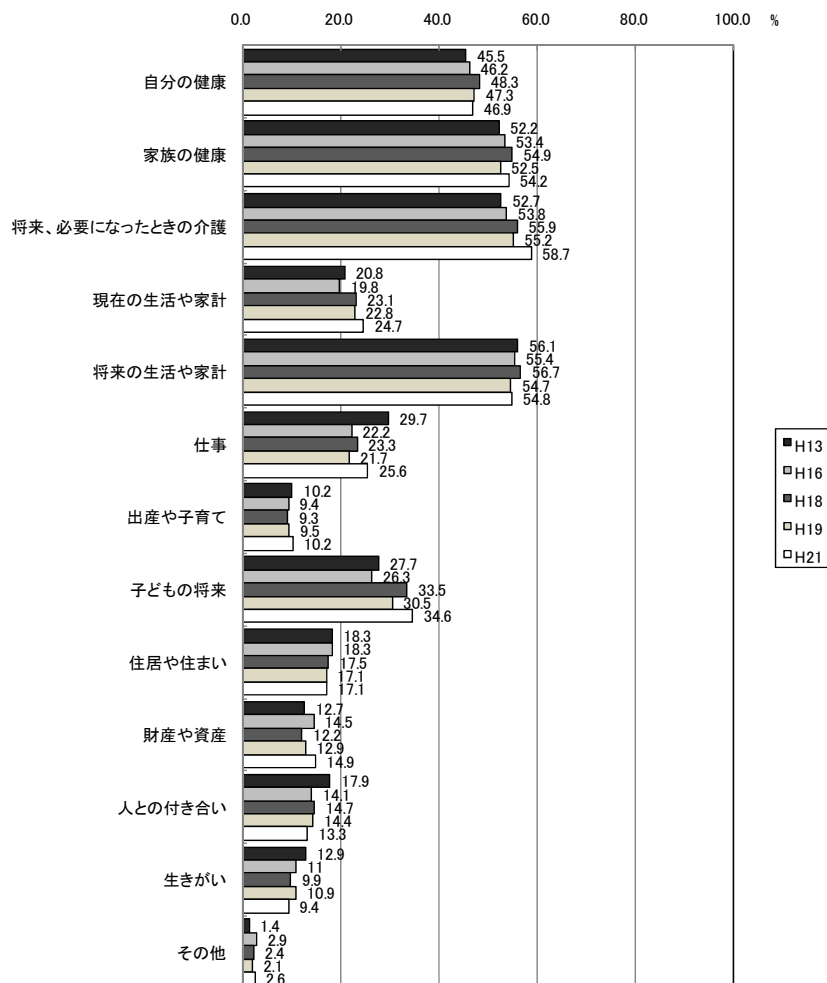
④ 指標の分析

◆ 特に不安を感じない人がこれまでで最も低い値を示す

前回同様、日常生活の中で、何らかの不安や心配事を感じている人がほとんどであった。不安はないとする人は、前年に比べ1.0ポイント減少がみられた。健康や生活・家計、仕事、子どもなど、さまざまな不安要素が関係していると考えられる。不安解消のため、今後も多様な取り組みを継続していくことが必要である。

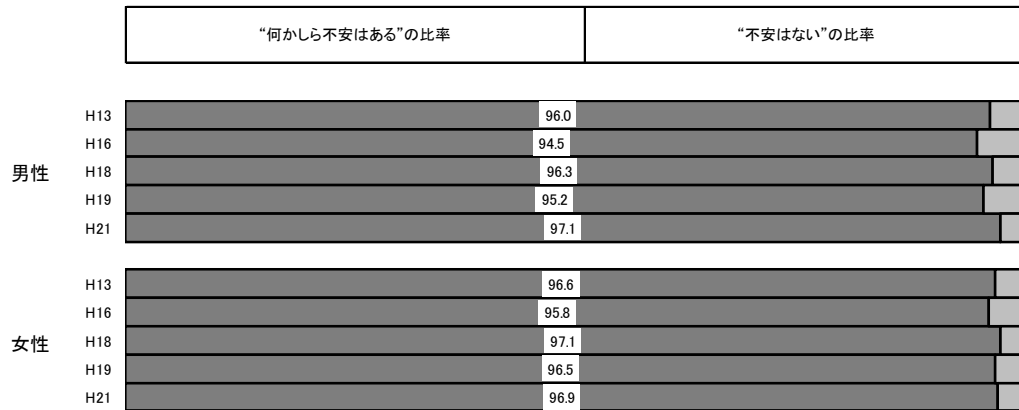


不安や心配事の内容としては、“将来、必要になったときの介護”(58.7%)が最も高く、これに“将来の生活や家計”(54.8%)、“家族の健康”(54.2%)の順が続いている。前回同様、経済的な面も含めた生活全般、健康や福祉の面などが、不安な点の多くを占めている。

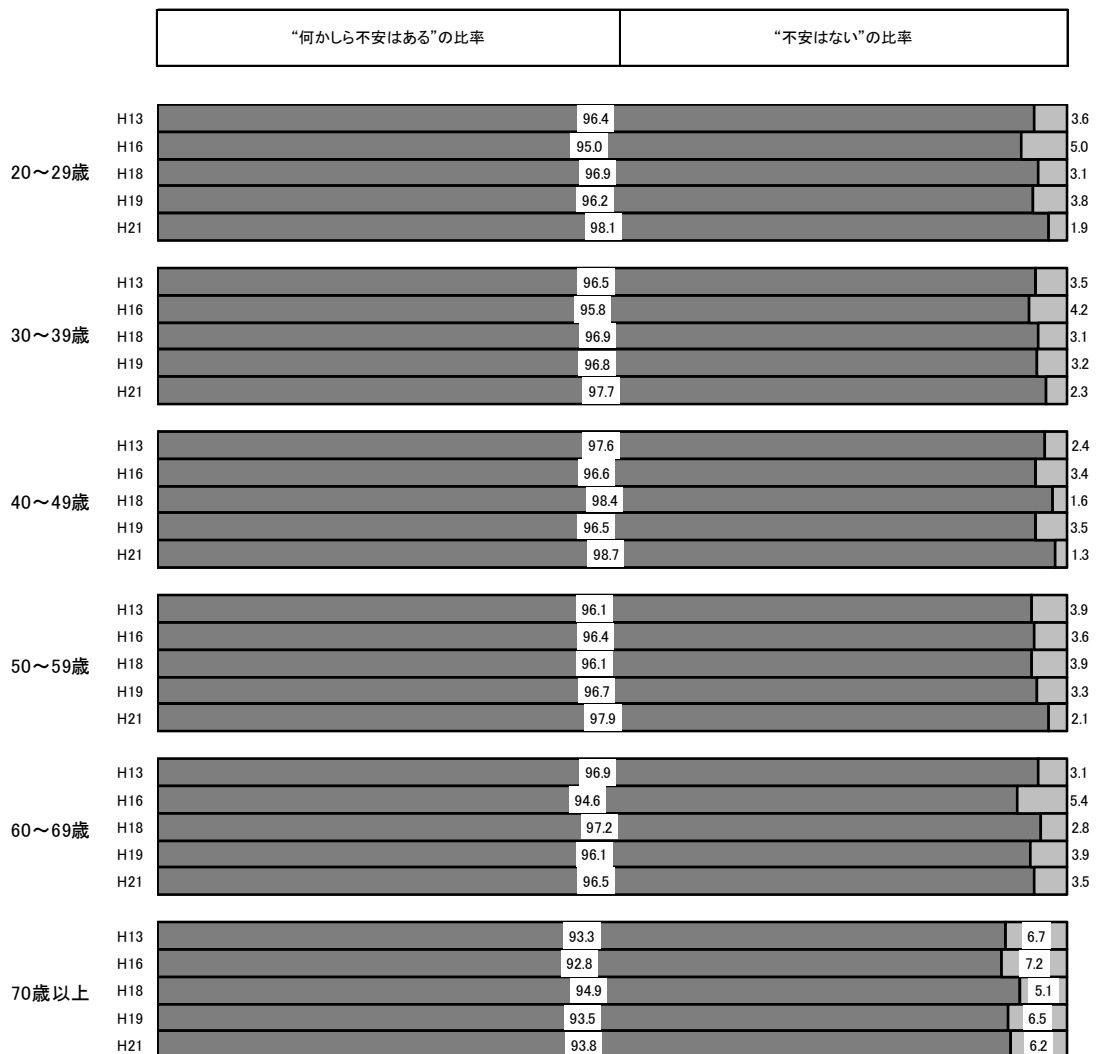


性別や年齢別でみても、多くの人が何らかの不安を持っている傾向は変わらない結果となっている。前回と比べてもほぼ同様の傾向となっている。

【安心感×性別】



【安心感×年齢】



第2節 豊かな人生を支える福祉社会の実現

第3項 安心して子どもを生み、健やかに育てることができるようにします

めざしたい将来像:

子どもの笑顔があふれる街にするために、生活スタイルにあわせて選択できる様々なサービスや地域ぐ
みで支援する環境を整え、子育てできる松戸を実現する。

指標

子育ての満足度

① 指標の説明

子育てしやすく、子どもの笑顔があふれる街にするには、子育て支援体制の充実が最も重要な課題のひとつとなっています。そこで、子育ての満足度を指標とします。

② 設問

この指標は、次の設問により出産や子育てに不安や心配がない人の割合を逆説的に取得している。「個人・
態度（認知）」

Q6 あなたは今、生活の中で不安になったり、心配になったりすることがありますか。気になる
ことがあれば、(全てに○)

- | | | |
|------------|------------|-----------------------|
| 1 自分の健康 | 2 家族の健康 | 3 将来自分や家族が必要になったときの介護 |
| 4 現在の生活や家計 | 5 将来の生活や家計 | 6 仕事 |
| 7 出産や子育て | 8 子どもの将来 | 9 住居や住まい |
| 10 財産や資産 | 11 人との付き合い | 12 生きがい |
| 13 その他() | 14 特になし | |

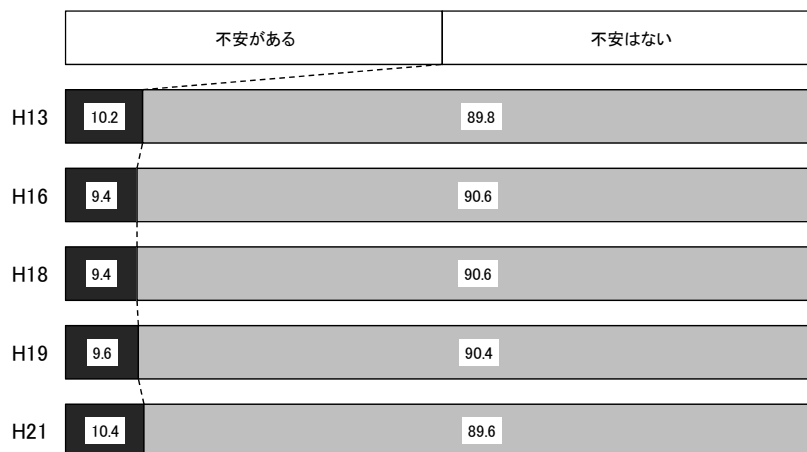
③ 指標の現状(値)

カテゴリー	H13年度	H16年度	H18年度	H19年度	H21年度
出産や子育てに不安や心配がない	89.8%	90.6%	90.6%	90.4%	89.6%

④ 指標の分析

◆ 不安を感じない人が大多数を占める

出産や子育てについて、不安や心配を感じていない人は 89.6%で、全体の約 9 割を占めている。ただし、前回から 0.8 ポイント減少がみられる



第3節 次代を育む文化・教育環境の創造

第2項 生涯学習やスポーツを楽しむことができるようにします

めざしたい将来像：

生涯を通じて学び続ける楽しさを味わうために、自主的に参加しやすい場所や機会を増やすことで、年齢に関わらず心身ともにいきいきと暮らせるようにする。

指標

学習活動を行っている市民の割合

① 指標の説明

地域づくりの基盤となる生涯学習社会の実現に向けて、学習活動を行っている市民の割合を指標とします。

② 設問

この指標は、次の設問により期間を限定して直接的に聞いている。「個人・行動」

Q8 あなたは日頃、特定の関心があるテーマについて、自主的に学習活動をしていることがありますか。過去1年間を振り返って、学習活動に取り組んだ日数は平均するとどのくらいですか。(1つに○)

- 1 ほぼ毎日 2 週に数日ほど 3 月に数日ほど
4 年に数日ほど 5 全くない

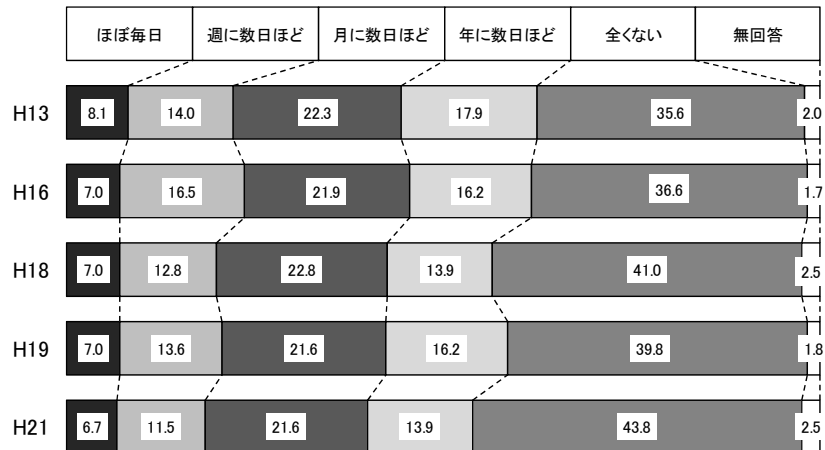
③ 指標の現状

カテゴリー	H13年度	H16年度	H18年度	H19年度	H21年度
ほぼ毎日	8.1%	7.0%	7.0%	7.0%	6.7%
週に数日ほど	14.0%	16.5%	12.8%	13.6%	11.5%
月に数日ほど	22.3%	21.9%	22.8%	21.6%	21.6%
計	44.4%	45.4%	42.6%	42.2%	39.8%

④ 指標の分析

◆ 学習活動に取り組む人は、全体の約4割

過去一年間に“月に数日以上”学習活動に取り組んでいる人は 39.8%で、前回に比べ減少がみられ、“全くない”が増加している。



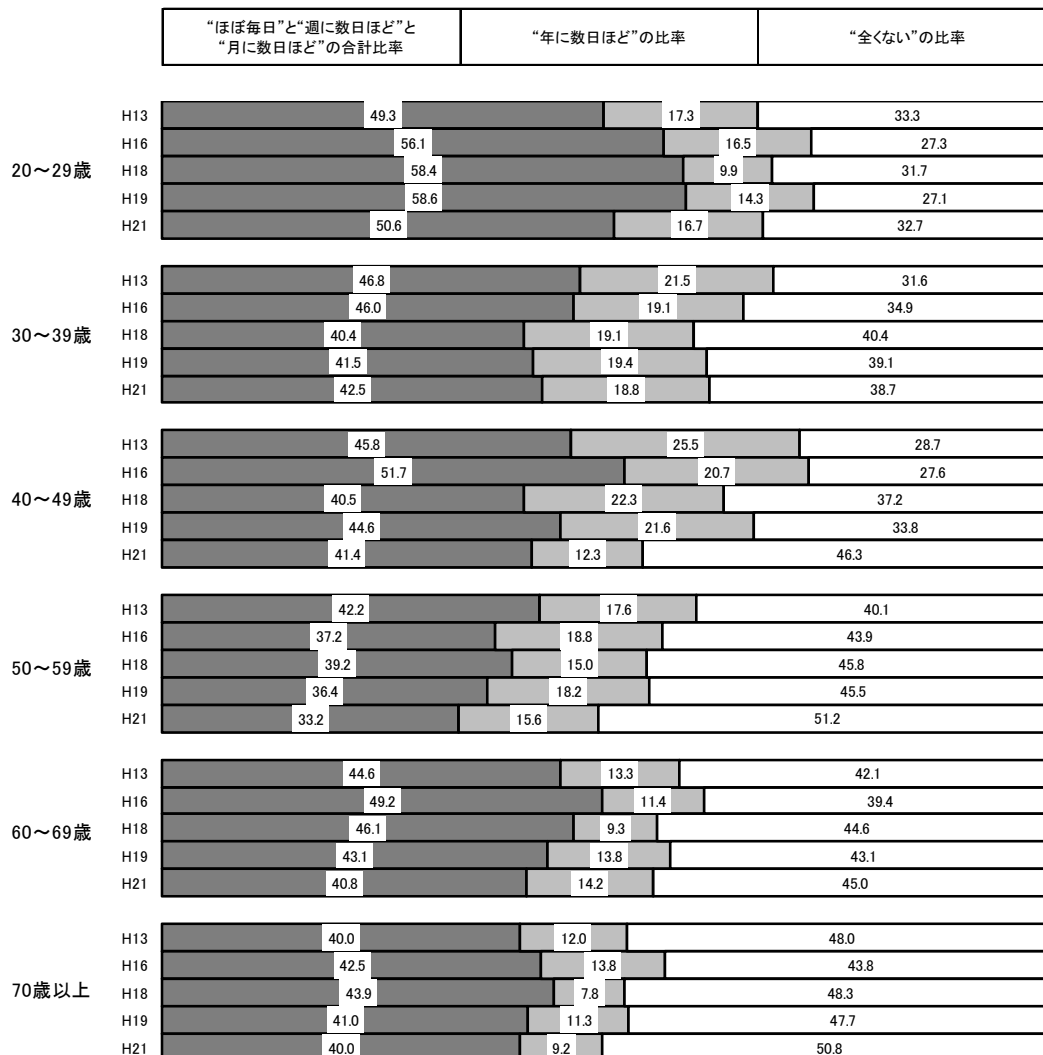
性別で見ると、定期的に学習活動を行っている人は女性より男性の方が僅かに高くなっている。女性は、“全くない”が年々増加し、定期的に学習活動を行っている人の割合が減少している。

【学習活動×性別】

	“ほぼ毎日”と“週に数日ほど”と “月に数日ほど”の合計比率	“年に数日ほど”の比率	“全くない”の比率	
男性	H13	46.7	18.2	35.1
	H16	49.2	15.6	35.2
	H18	45.1	13.1	41.9
	H19	45.6	16.9	37.5
	H21	43.8	15.1	41.1
女性	H13	43.7	18.6	37.7
	H16	44.3	17.3	38.4
	H18	42.8	15.3	41.9
	H19	41.1	16.1	42.8
	H21	38.5	14.2	47.4

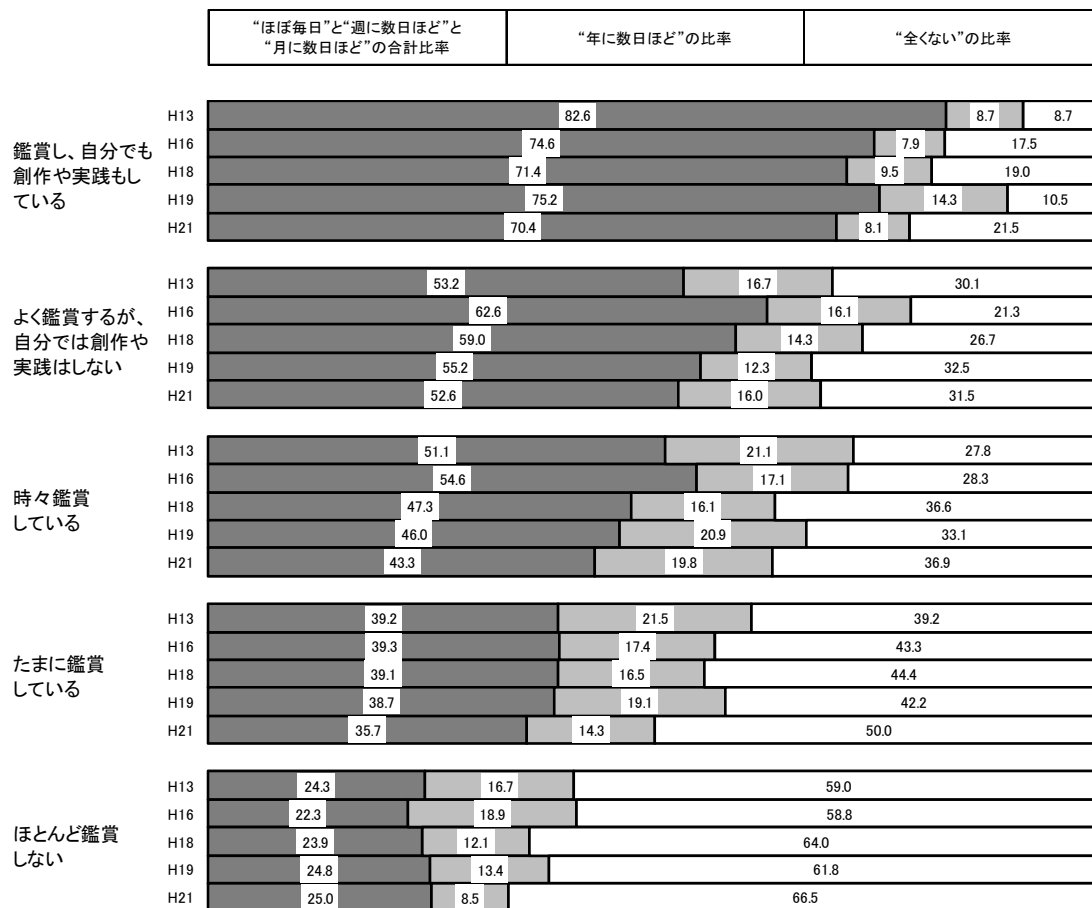
年齢別にみると、定期的に学習活動を行っている人は20歳代(50.6%)が最も高く、そのほかの年齢層は3～4割であった。前回と比べると、30歳代のみ増加がみられ、そのほかの年齢層は減少がみられる。特に、40歳以上では、“全くない”の割合が定期的に学習活動を行っている人の割合を上回る結果となっている。

【学習活動×年齢】



芸術文化活動との関係を見ると、芸術文化活動を行っている人の方が学習活動も定期的に行っている割合が前回同様高い傾向にあり、特に、“鑑賞し、自分でも創作や実践もしている”人では7割を占めている。総じて、芸術文化活動を行っている割合と学習活動を定期的に行っている割合は比例しているといえる。

【学習活動×芸術文化の実施状況】



指標

学習活動の成果を地域社会で活かしている市民の割合

① 指標の説明

地域づくりの基盤となる生涯学習社会の実現に向けて、学習活動の成果を地域社会で活かしている市民の割合を指標とします。

② 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている。「個人・態度（認知）」

Q9 あなたがこれまでに、自主的に取り組んだ学習活動の成果が活かされていると思いますか。
(全てに○)

- | | |
|-------------------------------|---------------------|
| 1 仕事、職業に活かされている | 2 自分自身の向上に活かされている |
| 3 家庭や家族に活かされている | 4 地域活動や社会活動に活かされている |
| 5 親睦を深めたり、友人を得るときに活かされている | |
| 6 その他（ ） | |
| 7 活かされていない | |

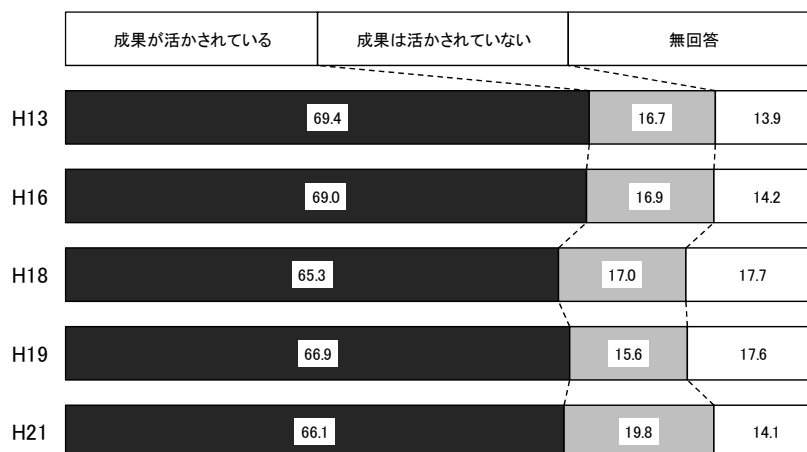
③ 指標の現状（値）

カテゴリー	H13年度	H16年度	H18年度	H19年度	H21年度
成果が活かされている	69.4%	69.0%	65.3%	66.9%	66.1%

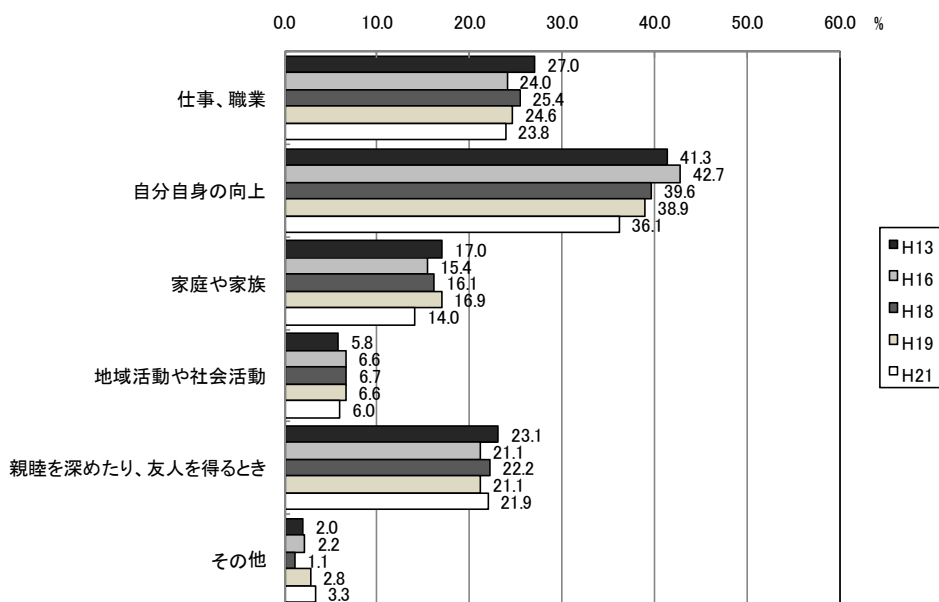
④ 指標の分析

◆ 学習活動の成果を活かす人の割合は僅かに減少

これまでに、自主的に取り組んだ学習活動の成果を、何らかの形・方面で活かしていると考える人の割合は、66.1%で、前回に比べ僅かな減少がみられた。

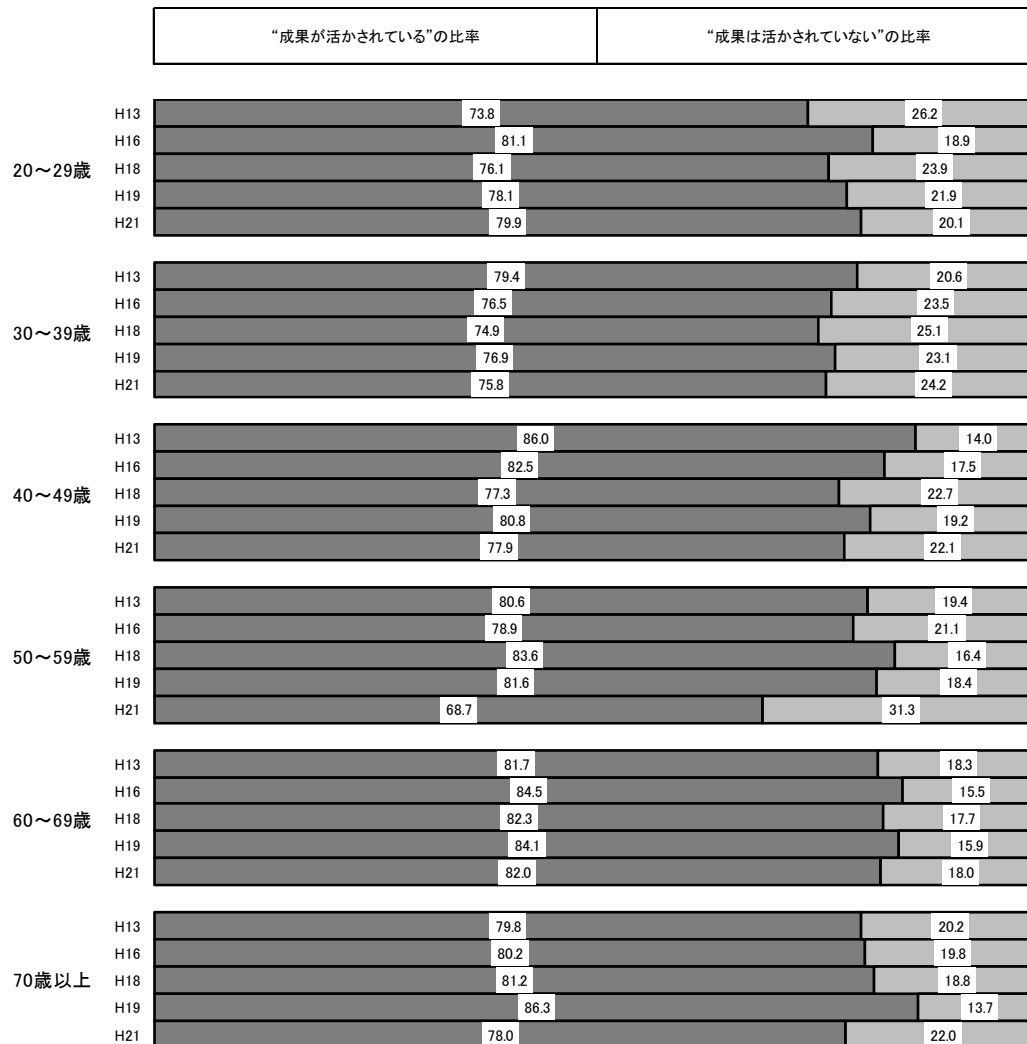


成果を活かしている対象は、前回と同様、“自分自身の向上”(36.1%)が最も高く、次いで“仕事、職業”(23.8%)、“親睦を深めたり、友人を得るとき”(21.9%)となっている。



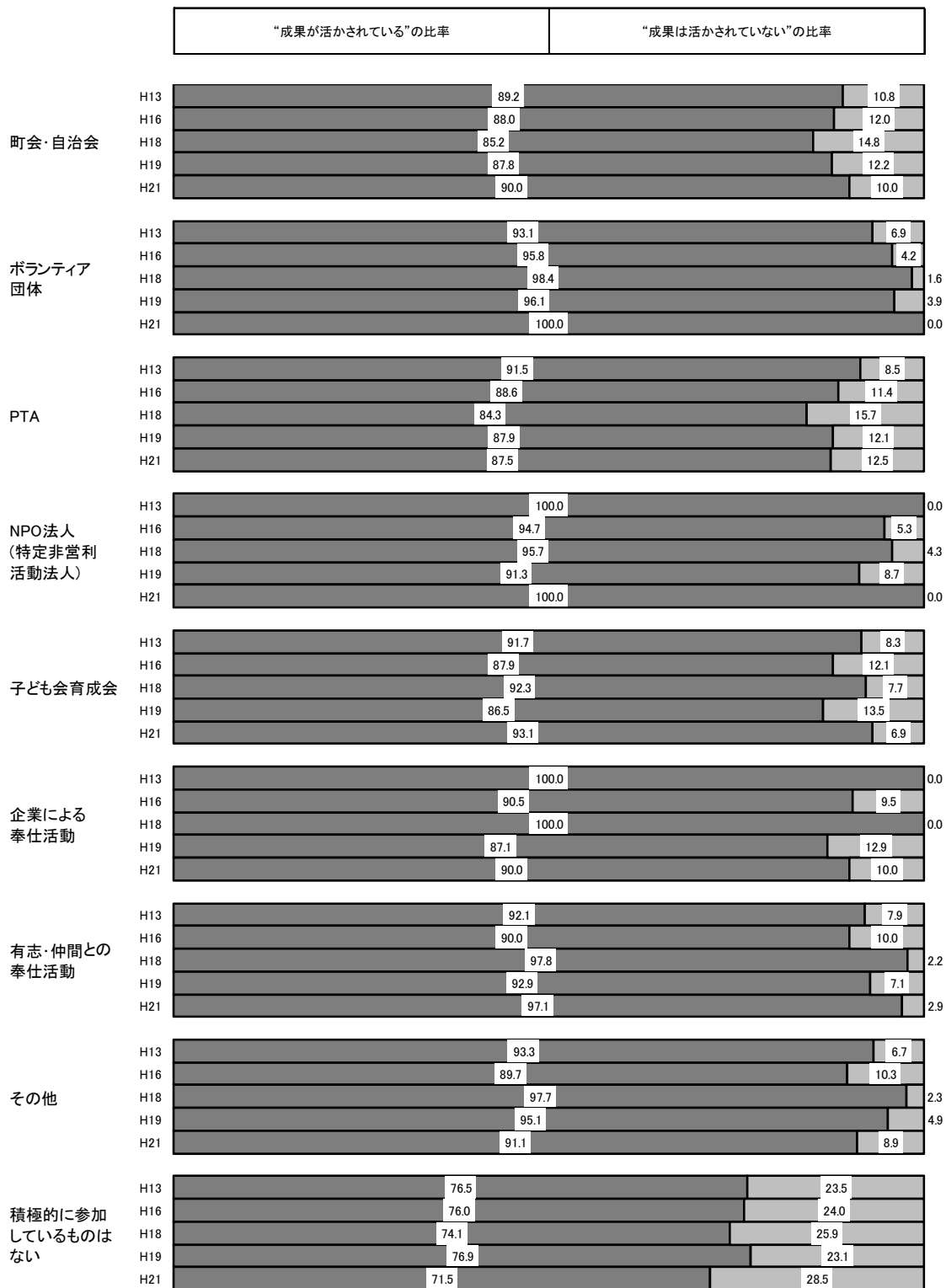
年齢別にみると、いずれの年代でも成果が活かされている人の割合が高くなっている。前回と比較すると、20 歳代以外の年齢層で減少がみられ、その中でも特に 50 歳代で、12.9 ポイントと大きく減少している。

【学習活動の成果×年齢】



地域活動への参加との関係を見ると、ばらつきはあるものの、何らかの地域活動に参加している人の方が、学習成果が活かされていると感じる割合が高い傾向にある。参加しているものがない人は、学習成果が活かされていると感じる割合が7割程度にとどまっている。

【学習活動の成果×地域活動への参加】



指標

スポーツを行なっている市民の割合

① 指標の説明

スポーツをすることで、身体・精神の両面に良好な影響を与え、ストレスの多い現代社会において人生をより豊かにします。そこで、スポーツの振興度合を把握するため、スポーツを行なっている市民の割合を指標とします。

② 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている。「個人・行動」

Q14 あなたは日頃、運動・スポーツをしていますか。(1つに○)

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1 現在も継続的にしている | 2 最近、始めた |
| 3 以前はしていたが、現在はしていない | 4 以前も、現在もしていない |

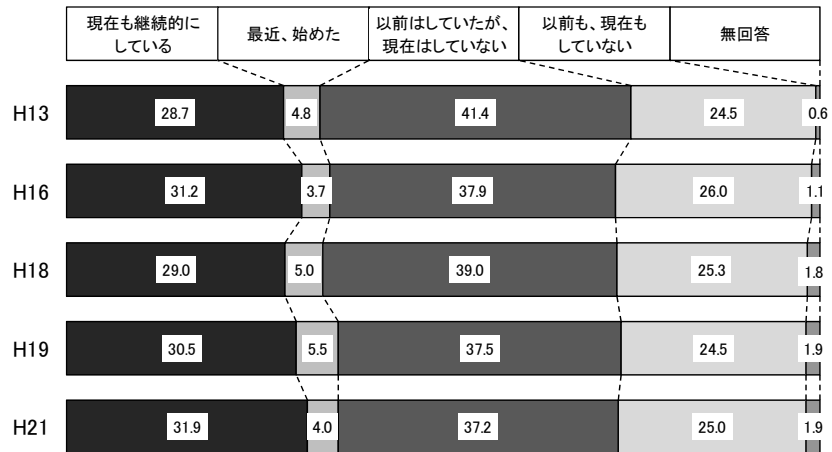
③ 指標の現状(値)

カテゴリー	H13年度	H16年度	H18年度	H19年度	H21年度
現在も継続的にしている	28.7%	31.2%	29.0%	30.5%	31.9%
最近、始めた	4.8%	3.7%	5.0%	5.5%	4.0%
計	33.4%	34.9%	34.0%	36.0%	35.9%

④ 指標の分析

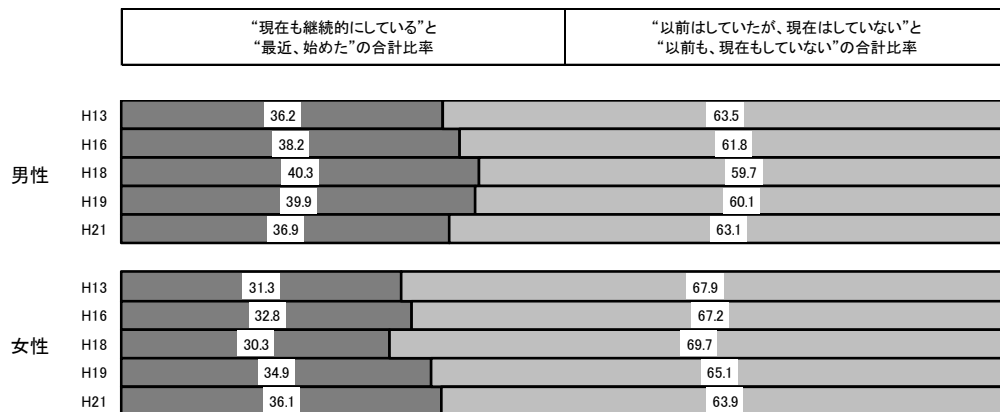
◆ 日頃スポーツをしている人の割合はほぼ横ばい

日ごろ、運動・スポーツをしている人は、前回とほぼ横ばいとなっている。“現在も継続的にしている”が1.4ポイント増加し、“最近始めた”人が1.5ポイント減少している。継続的に行っている人が増加したことがわかる。



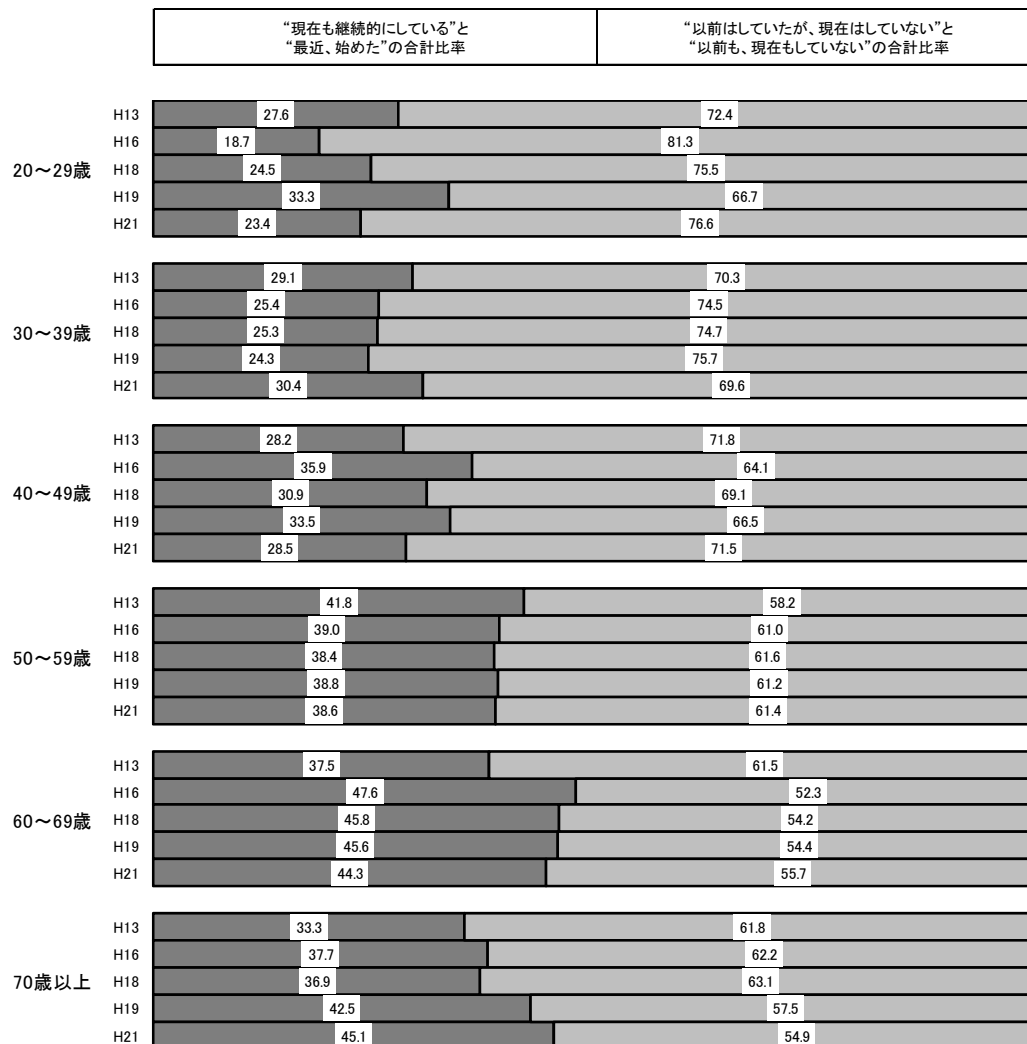
性別で見ると、前回と同様、男性の方が僅かにスポーツ活動を行っている人が多い。しかしながら、前回と比べると、スポーツ活動を行っている人が、男性は減少し、女性は増加している。

【スポーツ活動×性別】



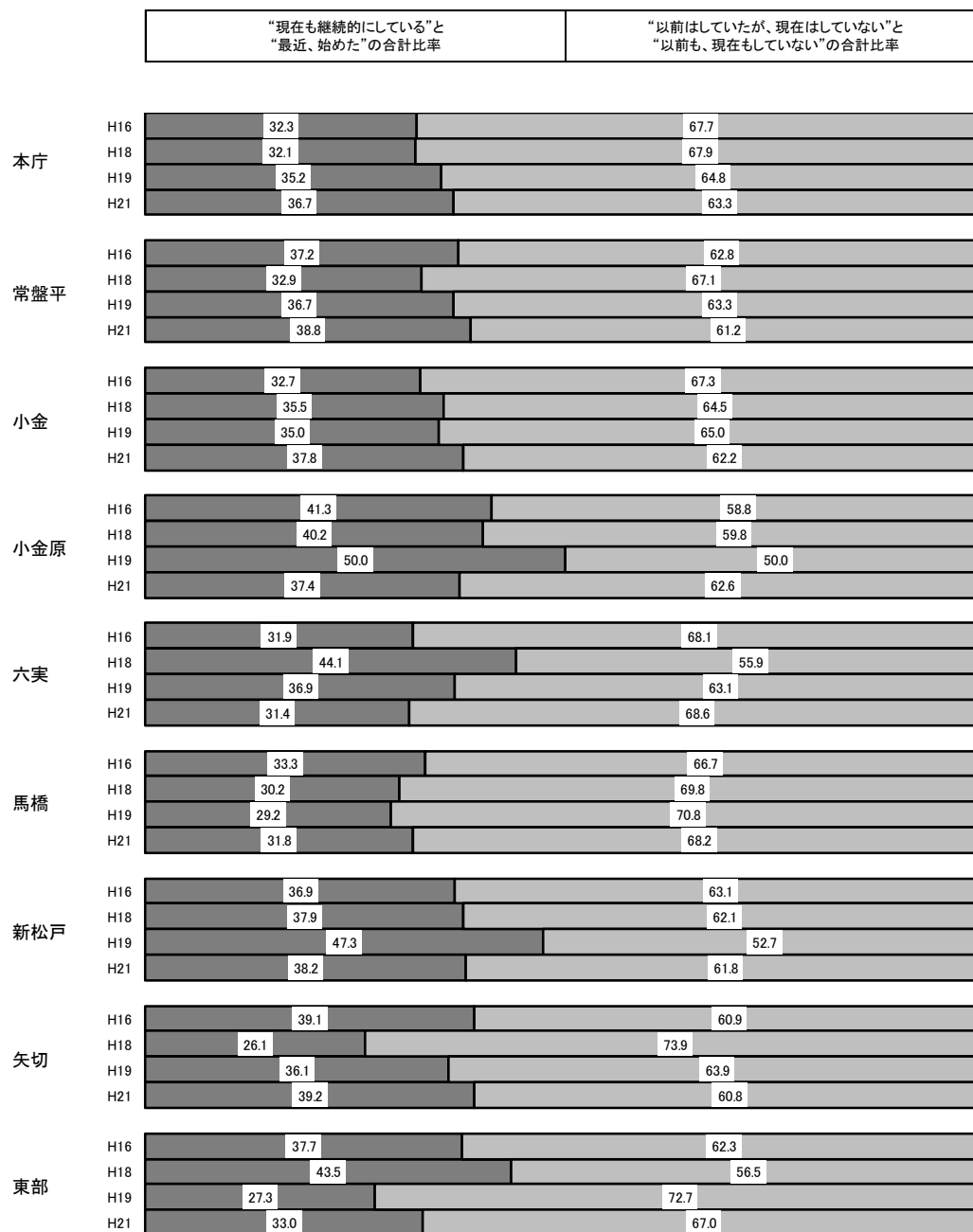
年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがい、スポーツ活動を行っている人の割合も高まる傾向にある。前回と比べると、30歳代と70歳以上でスポーツ活動を行っている人の増加がみられ、20歳代、40歳代、50歳代、60歳代で減少し、特に20歳代では10ポイント近く減っている。

【スポーツ活動×年齢】



地区別でみると、スポーツ活動を行っている人は、どの地域も 4 割未満となっている。前回と比べると、小金原、新松戸地区で 10 ポイント前後の減少がみられる一方、本庁、常盤平、小金、馬橋、矢切、東部地区で増加がみられた。

【スポーツ活動×地区】



第3節 次代を育む文化・教育環境の創造

第3項 国際的な広い視野と平和を愛する心が育まれ、松戸の歴史や文化・伝統が保持され、後世に伝えられるようにします

めざしたい将来像:

誰もが誇りのもてる”ふるさと松戸”に向けて、皆が松戸の歴史や文化・伝統が身近に感じられる工夫をこらして、松戸を愛する人を増やす。

指標

史跡や神社、仏閣など歴史・伝統文化遺産の満足度

① 指標の説明

松戸の歴史、文化を身近に感じ、満足している人の割合を把握するため、史跡や神社、仏閣など歴史・伝統文化遺産の満足度を指標にします。

② 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている。「地域・態度（評価）」

Q21-セ 「史跡や神社仏閣など歴史・伝統文化遺産」の項目

あなたが松戸市で生活する中で、次のことについてそれぞれどの程度満足していますか。(1つに○)

- | | | |
|------------|--------------|---------|
| 1 十分満足している | 2 まあまあ満足している | 3 普通である |
| 4 やや不満である | 5 きわめて不満である | 6 わからない |

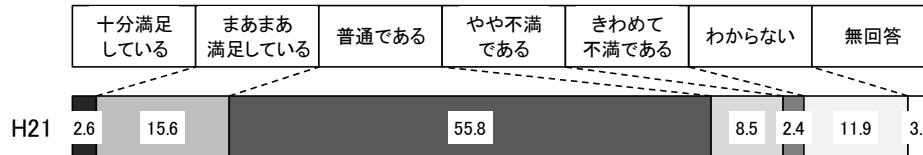
③ 指標の現状（値）

カテゴリー	H21年度
十分満足している	2.6%
まあまあ満足している	15.6%
計	18.2%

④ 指標の分析

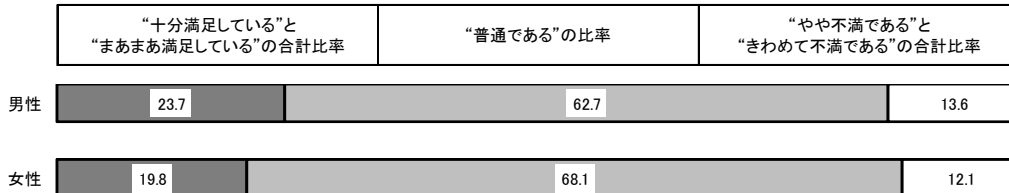
◆ 史跡や神社、仏閣など歴史・伝統文化遺産の満足度は2割程度

史跡や神社、仏閣など歴史・伝統文化遺産の満足度は、18.2%であった。内訳をみると、普通との回答が55.8%で最も高くなっている。



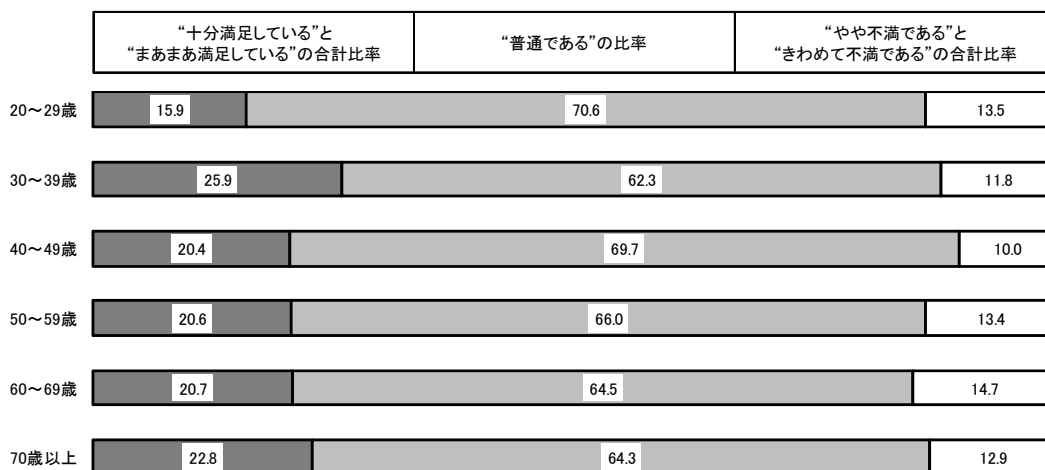
性別でみると、男性、女性ともに大きな変化はみられなかった。どちらも満足している割合が2割程度となっている。

【史跡や神社仏閣など歴史・伝統文化遺産×性別】



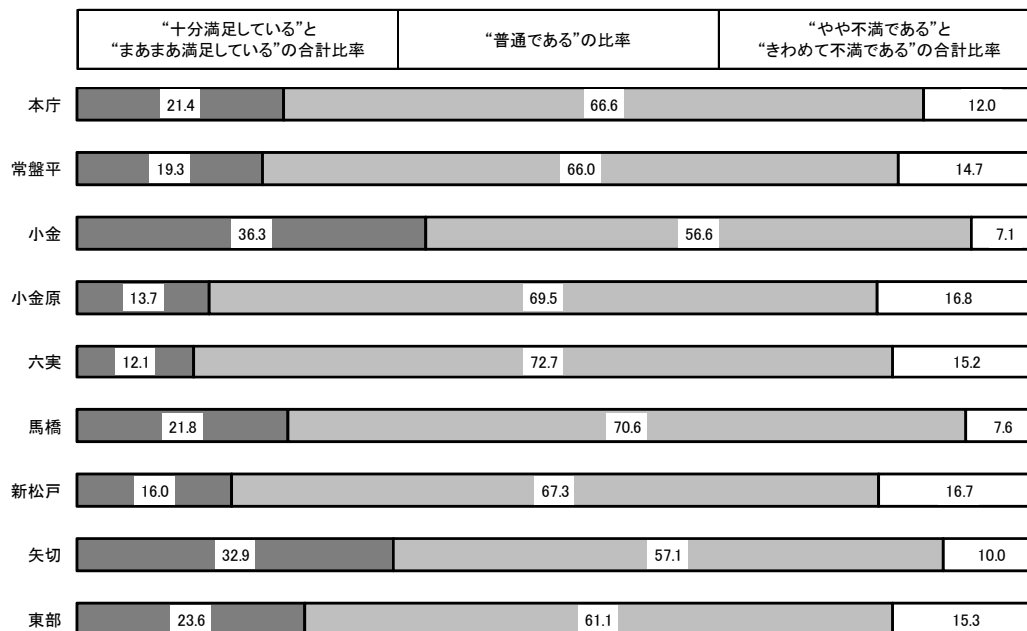
年齢別では、20歳代で2割を下回っている。30歳代が25.9%で最も高く、その他の年齢層は2割程度であった。

【史跡や神社仏閣など歴史・伝統文化遺産×年齢】



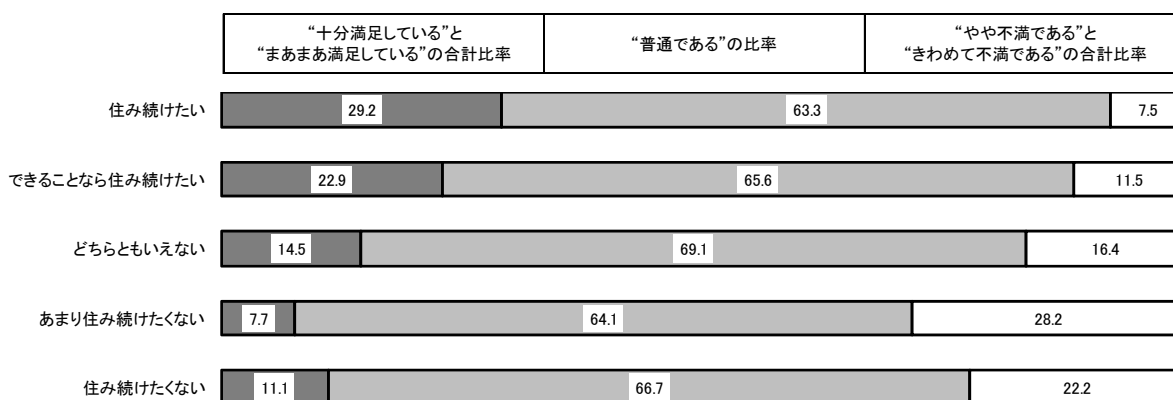
地区別にみると、小金、矢切地区で満足している割合が3割以上と高く、常盤平、小金原、六実、新松戸地区で2割を下回っている。どの地区も“普通である”が最も高くなっている。

【史跡や神社仏閣など歴史・伝統文化遺産×地区】



定住意向との関係では、住み続けたいと回答している人で満足している割合が29.2%で最も高く、定住意向が低くなるにしたがい、満足している人の割合が低くなる傾向がある。また、あまり住み続けたくないと回答している人では、不満の割合が28.2%と高い。

【史跡や神社仏閣など歴史・伝統文化遺産×定住意向】



指標

文化・芸術に親しむ市民の割合

① 指標の説明

市民が親しんだり活動したりしている文化や芸術には様々なものがありますが、市民の自主的活動や自ら創造的な活動をする市民が増えていくことを目指します。そこで文化・芸術に親しむ市民の割合を指標とします。

② 設問

この指標は、次の設問により創作や実践と鑑賞を区分して直接的に聞いている。「個人・行動」

Q15 あなたは日頃、絵画、音楽、映像、演劇などの芸術文化を鑑賞したり、創作や実践することがありますか。(1つに○)

- | | |
|-------------------------|-------------|
| 1 鑑賞し、自分でも創作や実践もしている | 3 時々鑑賞している |
| 2 よく鑑賞するが、自分では創作や実践はしない | 5 ほとんど鑑賞しない |
| 4 たまに鑑賞している | |

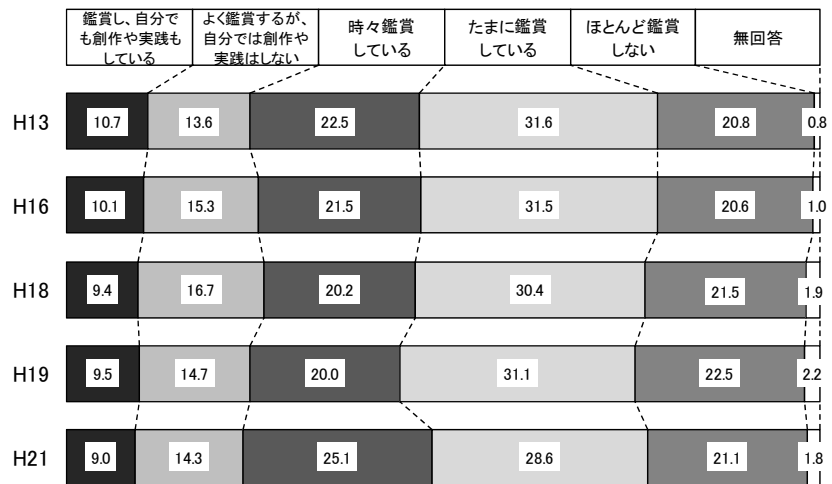
③ 指標の現状(値)

カテゴリー	H13年度	H16年度	H18年度	H19年度	H21年度
鑑賞し、自分でも創作や実践もしている	10.7%	10.1%	9.4%	9.5%	9.0%
よく鑑賞するが、自分では創作や実践はしない	13.6%	15.3%	16.7%	14.7%	14.3%
時々鑑賞している	22.5%	21.5%	20.2%	20.0%	25.1%
計	46.8%	46.9%	46.2%	44.2%	48.4%

④ 指標の分析

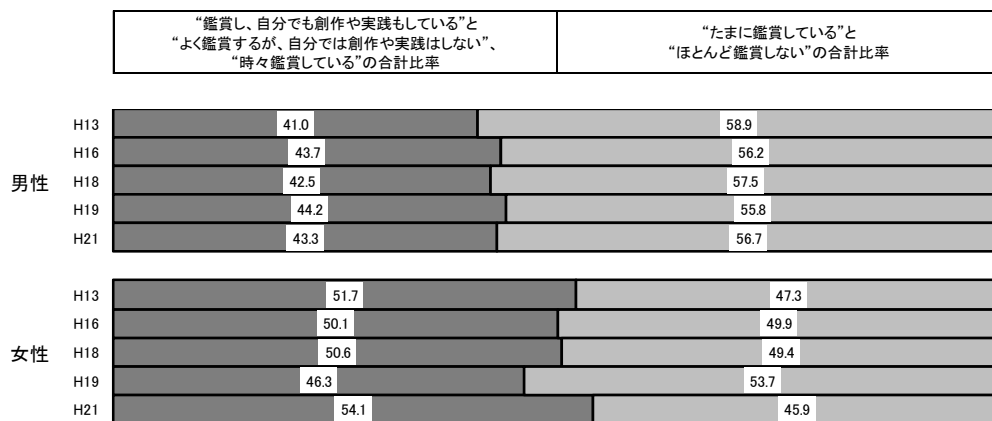
◆ 芸術文化に親しむ人は増加

芸術文化に親しむ人の割合は、48.4%と前回に比べ 4.2 ポイント増加している。増減の内訳は、鑑賞、創作・実践とも行う人は 0.5 ポイント減少、よく鑑賞するが、創作・実践しない人は 0.4 ポイント減少、時々鑑賞する人は 5.1 ポイント増加となっている。



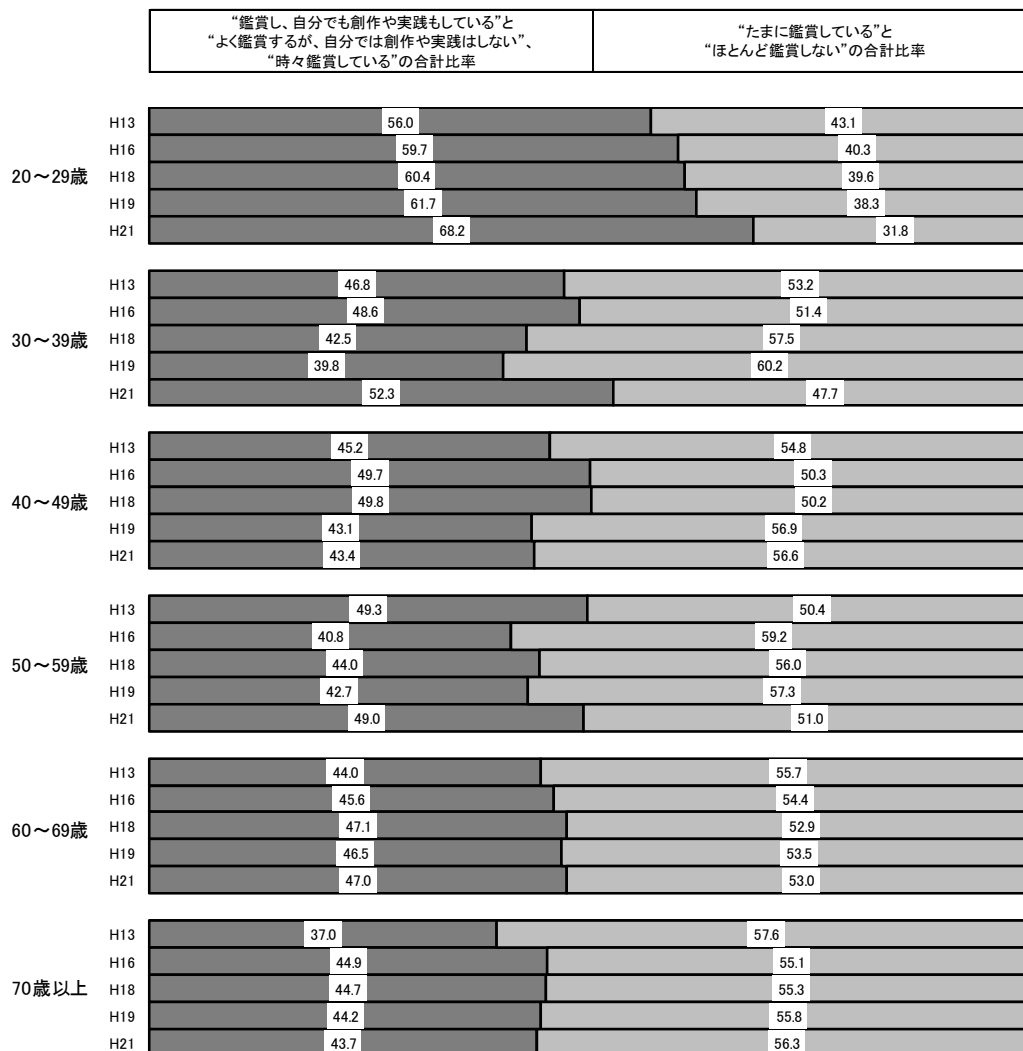
性別で見ると、女性の方が芸術文化活動に対する割合は高く、男性に比べ 10.8 ポイント高かった。前回と比べると、男性は僅かに減少し、女性は増加している。

【文化・芸術活動×性別】



年齢別にみると、“鑑賞し、自分でも創作や実践もしている”と“よく鑑賞するが、自分では創作や実践はしない”、“時々鑑賞している”を合わせた芸術活動に積極的な人は、20歳代で68.2%と、そのほかの年齢層に比べ高い割合を示している。前回と比べると、70歳以上のみ減少がみられ、そのほかの年齢層は増加している。

【文化・芸術活動×年齢】



指標

外国籍市民と交流している人の割合

① 指標の説明

外国籍市民と交流する人達がより増えることにより、日常生活の中で様々な不安やトラブルが減少すると考えられます。そこで、外国籍市民と交流している人の割合を指標とします。

② 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている。「個人・行動」

Q16 あなたは日頃、松戸市に在住したり、滞在したりしている外国の方達と親しく接することがどのくらいありますか。(1つに○)

- 1 大変よくある 2 しばしばある 3 ときどきある 4 あまりない
5 ほとんどない

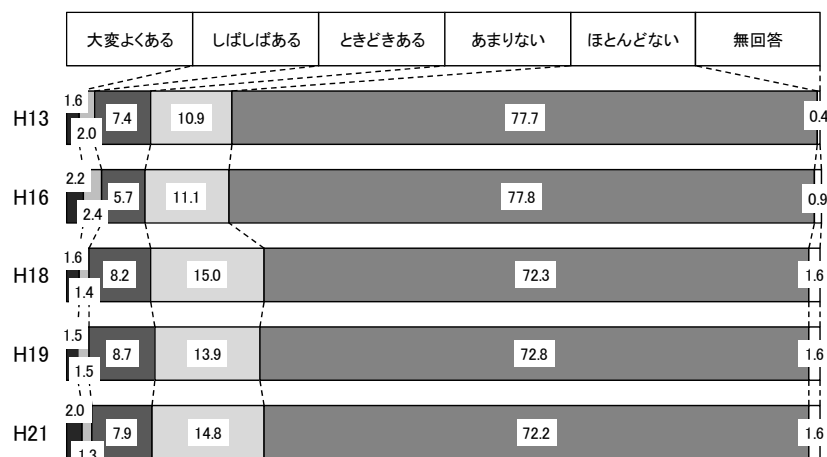
③ 指標の現状(値)

カテゴリー	H13年度	H16年度	H18年度	H19年度	H21年度
大変よくある	1.6%	2.2%	1.6%	1.5%	2.0%
しばしばある	2.0%	2.4%	1.4%	1.5%	1.3%
計	3.6%	4.5%	2.9%	3.0%	3.3%

④ 指標の分析

◆ 外国籍市民との交流は僅かに増加

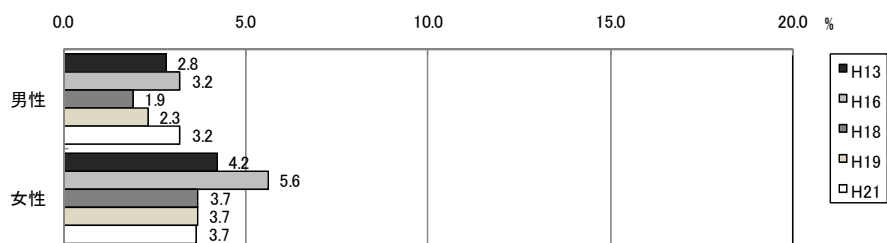
外国籍市民との交流が一定程度ある人は3.3%で、前回より0.3ポイントの増加がみられた。



性別でみると、女性の方が交流する人の割合が僅かであるが高くなっている。

【外国籍市民との交流×性別】

〔“大変よくある”と“しばしばある”の合計比率〕

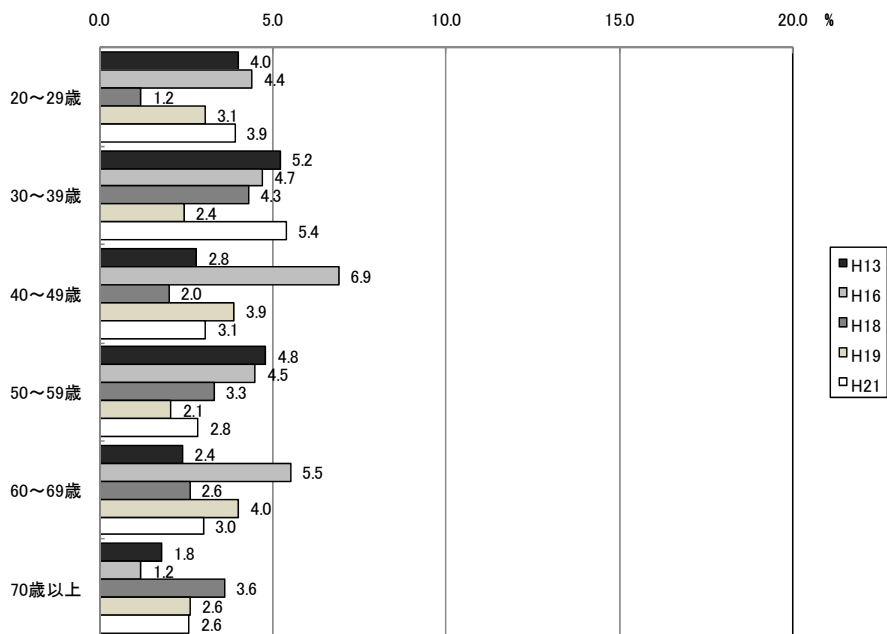


平成 21 年度	n 数	“大変よくある”と“しばしばある”の合計比率	“ときどきある”の比率	“あまりない”の比率	“ほとんどない”の比率
全体	1,524	3.4	8.1	15.1	73.4
男性	667	3.2	6.9	17.1	72.9
女性	800	3.7	9.3	13.6	73.4

年齢別にみると、30歳代で、交流している人の割合が5.4%と若干高かった。前回と比べても、倍以上増加している。そのほかの年齢層では、僅かな増減はあるが、大きな変化はみられない。

【外国籍市民との交流×年齢】

〔“大変よくある”と“しばしばある”の合計比率〕



平成 21 年度	n 数	“大変よくある”と“しばしばある”の合計比率	“ときどきある”の比率	“あまりない”の比率	“ほとんどない”の比率
全体	1,524	3.4	8.1	15.1	73.4
20～29歳	156	3.9	5.2	14.9	76.0
30～39歳	262	5.4	10.4	14.6	69.6
40～49歳	229	3.1	11.0	14.9	71.1
50～59歳	247	2.8	7.3	16.3	73.6
60～69歳	341	3.0	8.4	15.0	73.7
70歳以上	279	2.6	5.6	14.4	77.4

第4節 安全で快適な生活環境の実現

第1項 災害に対する不安を減らすようにします

めざしたい将来像:

防災意識を高めることを通して、自助・共助・公助の体制を推進することで、災害に強く命を大切にする社会を実現する。

指標

災害に対して自ら対策を講じている人の割合

① 指標の説明

ひとたび大地震が起これば建物の倒壊、火災、ライフライン等への多大な被害が発生し、人的被害が拡大する危険が潜んでいます。これらの被害を最小限に抑えるためには、行政による防災体制の確立を図るとともに、地域住民の防火防災意識の高揚や自主的な訓練など、日ごろからの備えが極めて重要です。そこで、災害に対して自ら対策を講じている人の割合を指標とします。

② 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている。「個人・行動」

Q17 あなたは日頃、防災のための準備をしていますか。(全てに○)

- | | | |
|----------------|---------------|---------------|
| 1 消火器の設置 | 2 住宅用火災警報器の設置 | 3 家具などの転倒防止 |
| 4 水や食糧の備蓄 | 5 非常持ち出し用品の確保 | 6 身内との連絡方法の確立 |
| 7 避難経路や避難場所の確認 | 8 防災訓練などへの参加 | 9 その他() |
| 10 特に準備はしていない | | |

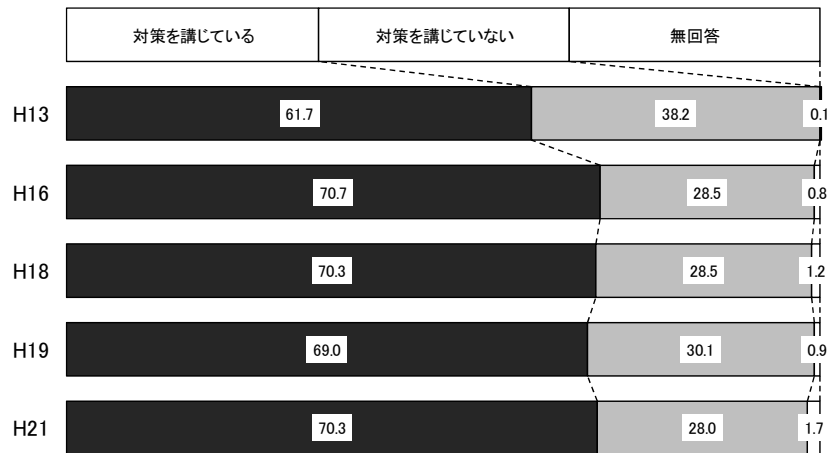
③ 指標の現状(値)

カテゴリー	H13年度	H16年度	H18年度	H19年度	H21年度
対策を講じている	61.7%	70.7%	70.3%	69.0%	70.3%

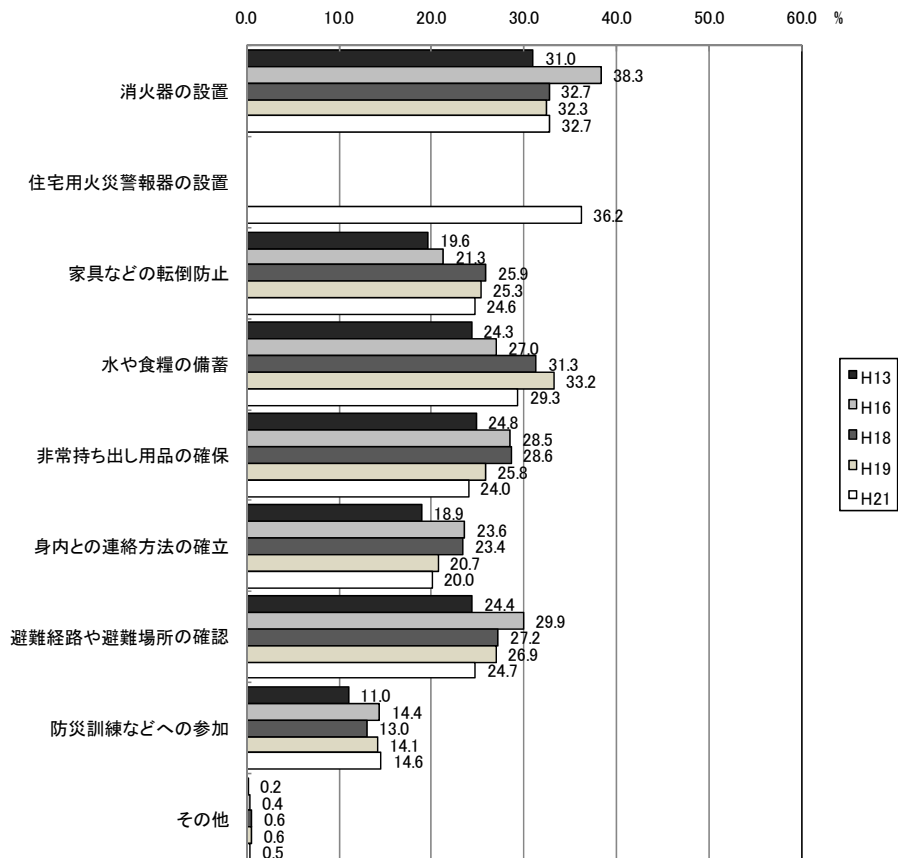
④ 指標の分析

◆ 災害に対する備えをする人は、僅かに増加

災害に対して何らかの対策を講じている人は 70.3%と、前回より 1.3 ポイントの増加がみられた。国内における地震や台風、大雨などによるさまざまな大災害が発生している昨今、市民一人ひとりの防災に対する関心は高いことがうかがえる。

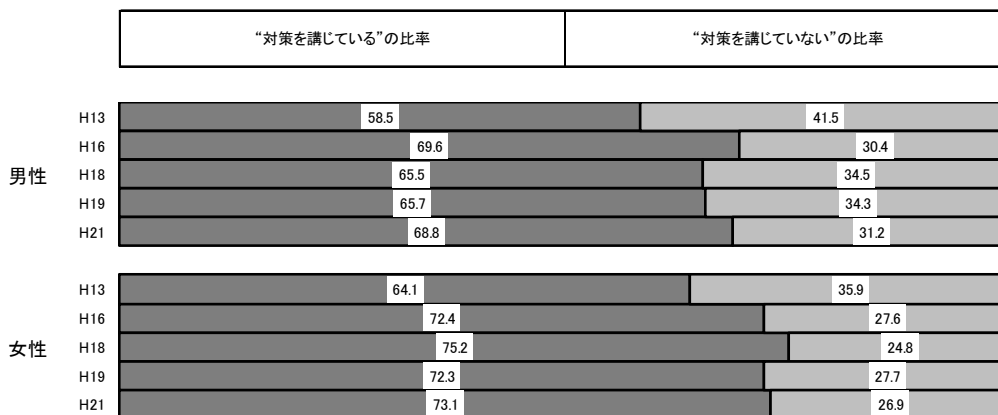


対策を講じている内容としては、今回新たに追加した“住宅用火災警報器の設置”が 36.2%で最も高く、これに“消火器の設置”(32.7%)、“水や食料の備蓄”(29.3%)が続いている。前回から増加している内容は、“消火器の設置”、“防災訓練などへの参加”で、そのほかの内容は減少している。



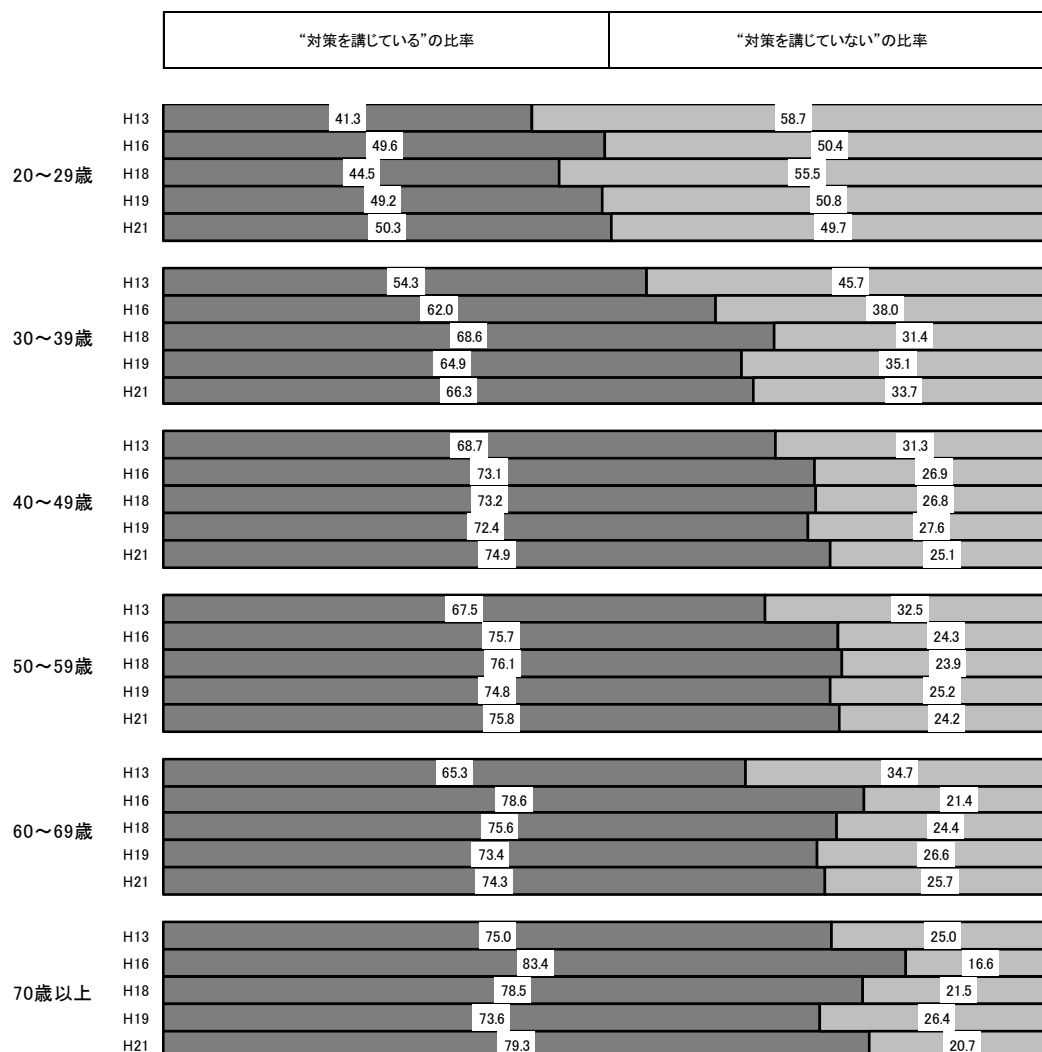
性別で見ると、女性の方が対策を講じている人の割合が高くなっている。また、男性、女性ともに、対策を講じている人の割合が前回より増加している。

【防災意識×性別】



年齢別にみると、年齢層が高くなるにしたがい、対策を講じている人の割合も高く、70 歳以上では約 8 割を占めている。また、すべての年齢層で、前回より、対策を講じている人の割合が増加している。

【防災意識×年齢】



第4節 安全で快適な生活環境の実現

第5項 犯罪や事故のない安全で快適な市民社会をつくります

めざしたい将来像:

犯罪や事故のない安全・安心のまちづくりに向けて、地域の見守りと自らの責任により、お互いに助け合える社会を実現する。

指標

消費者トラブルに巻き込まれた人の割合

① 指標の説明

自立した消費行動をとれるよう支援するため、消費者トラブルに巻き込まれた人の割合を指標とします。

② 設問

この指標は、次の設問により期間を限定して直接的に聞いている。「個人・行動」

Q18 あなたは、この1年間に買い物などの消費の際にトラブルや被害にあったことがありますか。(全てに○)

- 1 店舗で購入した商品やサービスでのトラブルや被害
- 2 訪問販売で購入した商品やサービスでのトラブルや被害
- 3 通信販売で購入した商品やサービスでのトラブルや被害
- 4 電話勧誘販売で購入した商品やサービスでのトラブルや被害
- 5 その他()
- 6 トラブルや被害にあっていない

③ 指標の現状(値)

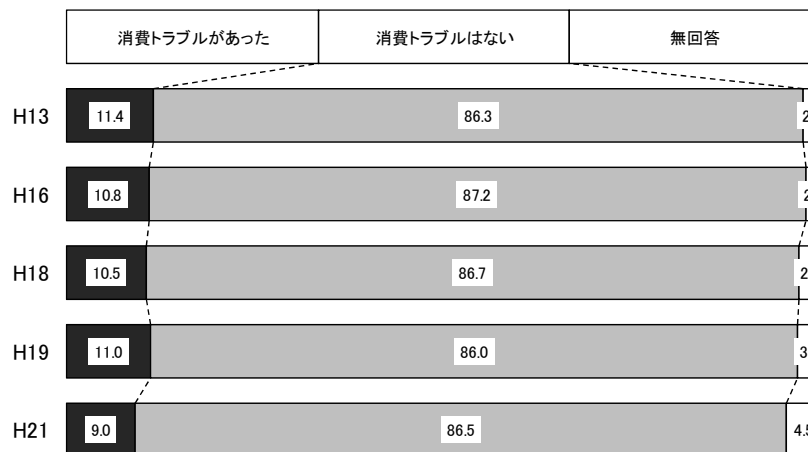
カテゴリー	H13年度	H16年度	H18年度	H19年度	H21年度
トラブルや被害に巻き込まれた	11.4%	10.8%	10.5%	11.0%	9.0%

※減少したほうが良い指標です。

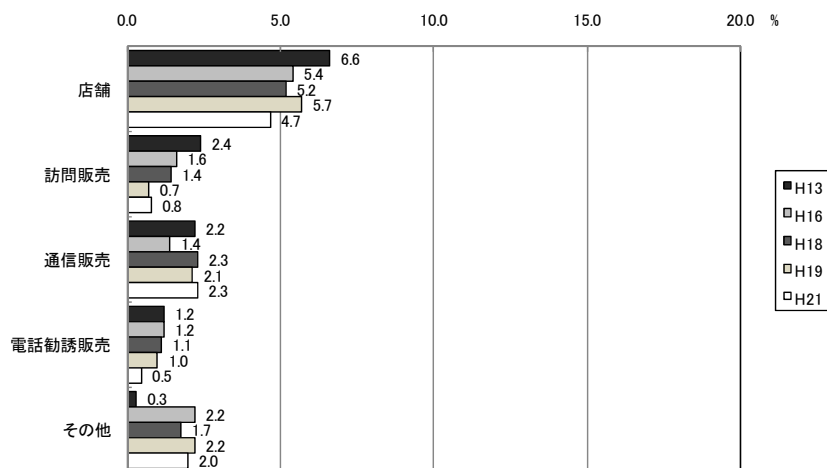
④ 指標の分析

◆ 消費者トラブルにあう人は減少

消費者トラブルにあったことのある人の割合は 9.0%と、前回に比べ減少がみられた。回答者全体に占める割合は 1割未満と少ないものの、消費者トラブルの多様化、複雑化が進む今日、未然防止に向けた消費者保護対策にさらに取り組んでいく必要がある。

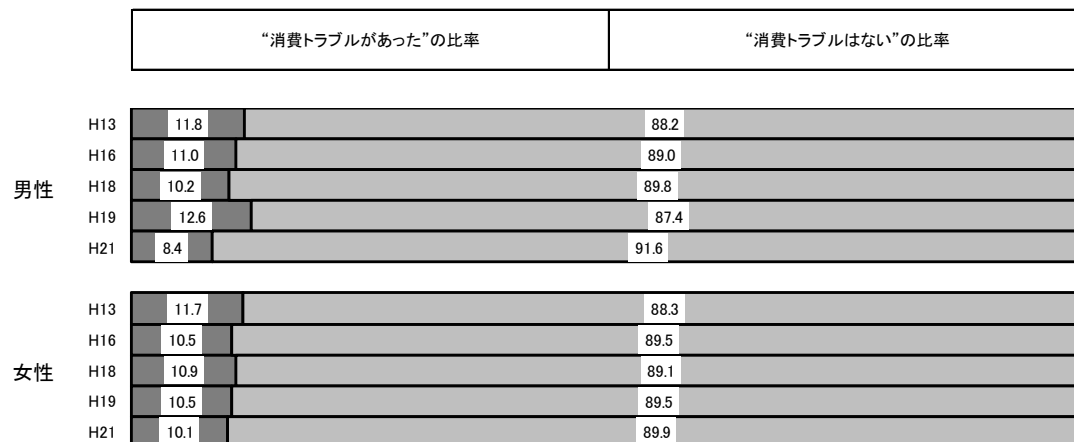


トラブルや被害の内容は、前回、前々回と同様、“店舗”によるものが 4.7%と最も高く、そのほかの内容の 2 倍以上となっている。



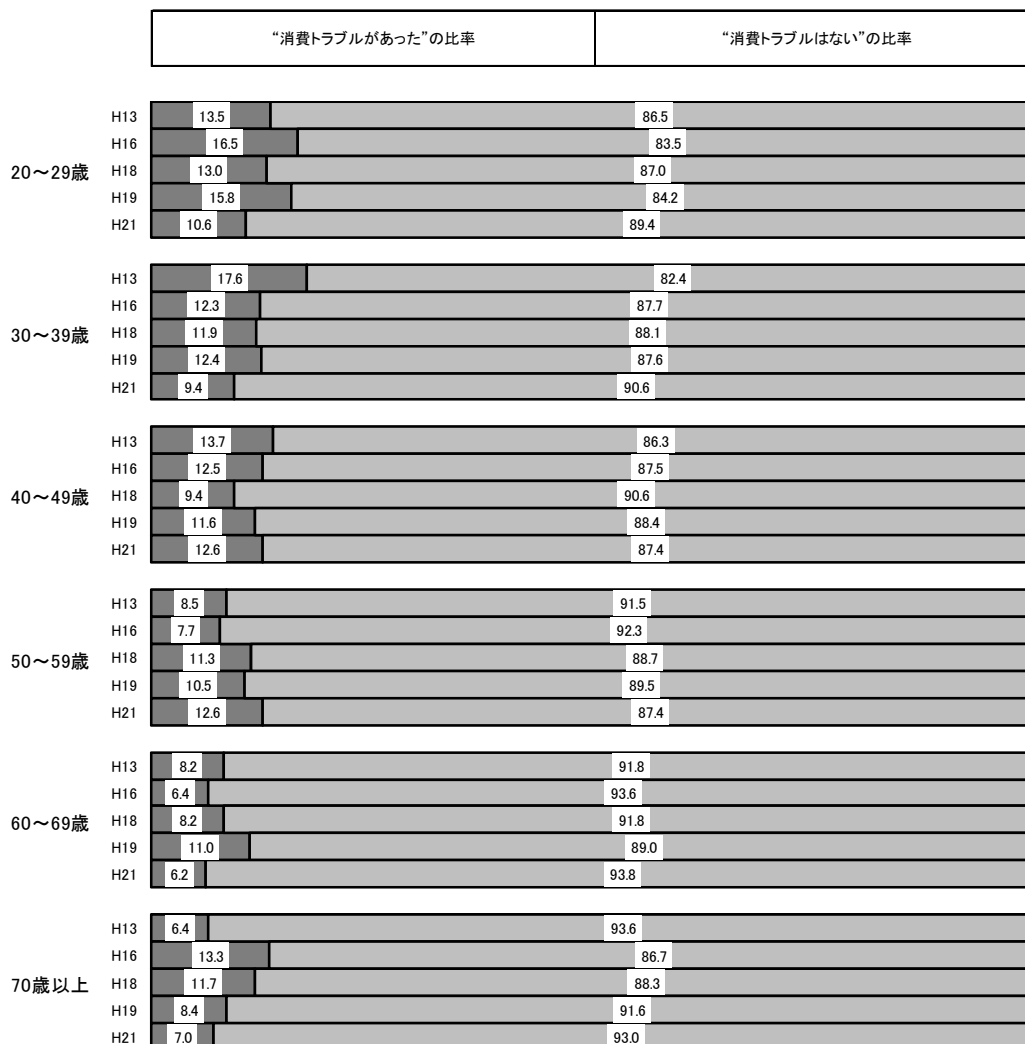
性別でみると、女性の方が男性に比べ“消費トラブルがあった”人の割合が僅かに高かった。男性は、前回より 4.2 ポイント減少がみられた。

【消費トラブル×性別】



年齢別にみると、トラブルにあっている人は、20 歳代、40 歳代、50 歳代で1割以上となっている。トラブルにあっている人について前回と比べると、40 歳代と 50 歳代で増加がみられる一方、20 歳代、60 歳代で 5 ポイント前後の減少がみられる。

【消費トラブル×年齢】



第4節 安全で快適な生活環境の実現

第6項 緑と花に親しむことができるようにします

めざしたい将来像：

生きものやみどりとともに暮らすために、みどりの市民力を推進することで、人と自然を大切にする思いやりの心をもって、豊かで潤いのある生活を実現する。

指標

緑地・河川などの自然環境に満足している人の割合

① 指標の説明

緑や水にふれあう機会が増すことによって、これらの自然環境に対する市民の満足度も高くなると考え、緑地、河川などの自然環境に満足している人の割合を指標とします。

② 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている。「地域・態度（評価）」

Q21-ケ 「緑地・河川などの自然環境」の項目

あなたが松戸市で生活する中で、次のことについてそれぞれの程度満足していますか。（1つに○）

- | | | |
|------------|--------------|---------|
| 1 十分満足している | 2 まあまあ満足している | 3 普通である |
| 4 やや不満である | 5 きわめて不満である | 6 わからない |

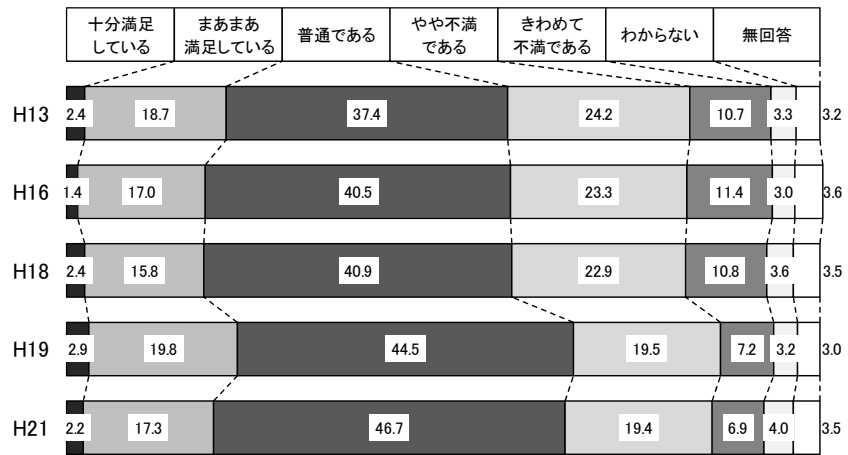
③ 指標の現状（値）

カテゴリー	H13年度	H16年度	H18年度	H19年度	H21年度
十分満足している	2.4%	1.4%	2.4%	2.9%	2.2%
まあまあ満足している	18.7%	17.0%	15.8%	19.8%	17.3%
計	21.1%	18.4%	18.2%	22.7%	19.5%

④ 指標の分析

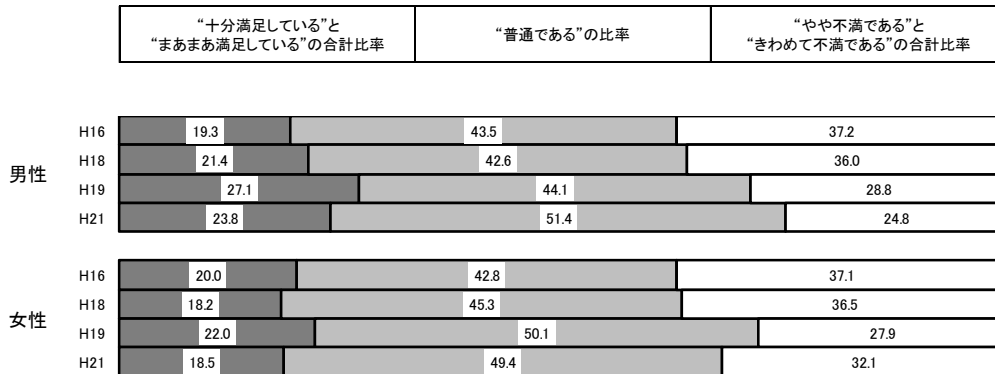
◆ 自然環境に対する満足度は減少

緑地や河川などの自然環境についての満足度は19.5%で、前回と比べると3.2ポイント減少した。



性別で見ると、“十分満足している”と“まあまあ満足している”を合わせた満足度は男性の方が女性より高くなっている。前回と比べると、男性、女性ともに、“十分満足している”と“まあまあ満足している”を合わせた満足度が減少している。

【自然環境×性別】



年齢別にみると、どの年齢層も“十分満足している”と“まあまあ満足している”を合わせた満足度が、2割程度にとどまっており、“やや不満である”と“きわめて不満である”を合わせた不満度の方が満足度を上回っている。前回と比べると、50歳代のみ“十分満足している”と“まあまあ満足している”を合わせた満足度で僅かに増加がみられる。

【自然環境×年齢】

		“十分満足している” “まあまあ満足している”の合計比率	“普通である”の比率	“やや不満である” “きわめて不満である”の合計比率
20～29歳	H16	20.5	37.1	42.4
	H18	18.8	39.0	42.2
	H19	24.4	38.2	37.4
	H21	19.3	51.0	29.7
30～39歳	H16	25.6	39.1	35.3
	H18	20.1	47.1	32.8
	H19	23.0	47.3	29.7
	H21	21.5	49.0	29.5
40～49歳	H16	14.2	39.7	46.1
	H18	14.0	42.6	43.4
	H19	22.2	46.2	31.6
	H21	17.7	52.1	30.2
50～59歳	H16	15.7	41.0	43.3
	H18	16.0	42.4	41.7
	H19	20.3	51.7	28.0
	H21	20.7	52.2	27.2
60～69歳	H16	19.4	49.1	31.5
	H18	21.6	45.3	33.0
	H19	25.6	47.3	27.0
	H21	22.0	49.4	28.6
70歳以上	H16	22.1	52.4	25.5
	H18	30.3	45.5	24.2
	H19	30.0	48.8	21.1
	H21	23.2	51.0	25.7

指標

身近で、緑が守られ、増えていると感じる人の割合

① 指標の説明

暮らしの中に緑があり、心豊かな生活を実現するため、身近で、緑が守られ、増えていると感じる人の割合を指標とします。

② 設問

この指標は、次の設問により期間を限定して直接的に聞いている。「地域・態度（評価）」

Q12 あなたは、身近で街路樹や緑地が守られ、増えていると感じていますか。（1つに○）

- 1 守られ、増えていると感じている
- 2 守られていると感じているが、増えているとは感じていない
- 3 守られていないと感じている

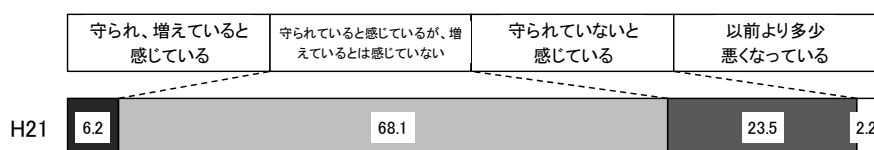
③ 指標の現状（値）

カテゴリー	H21年度
守られ、増えていると感じている	6.2%

④ 指標の分析

◆ 街路樹や緑地が守られ、増えていると感じる市民は1割未満

身近で街路樹や緑地が守られ、増えていると感じている人の割合は6.2%と低い割合であった。最も高かったのは、“守られていると感じているが、増えているとは感じていない”で68.1%となっている。



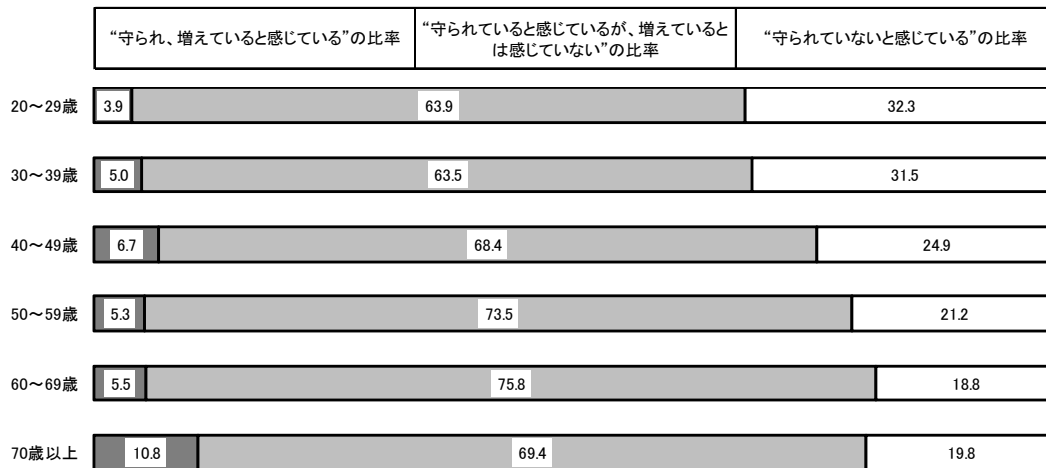
性別でみると、男性、女性とも、同様の結果で、大きな変化はみられない。

【街路樹や緑地×性別】

	“守られ、増えていると感じている”の比率	“守られていると感じているが、増えているとは感じていない”の比率	“守られていないと感じている”の比率
男性	6.1	70.5	23.4
女性	6.4	69.3	24.3

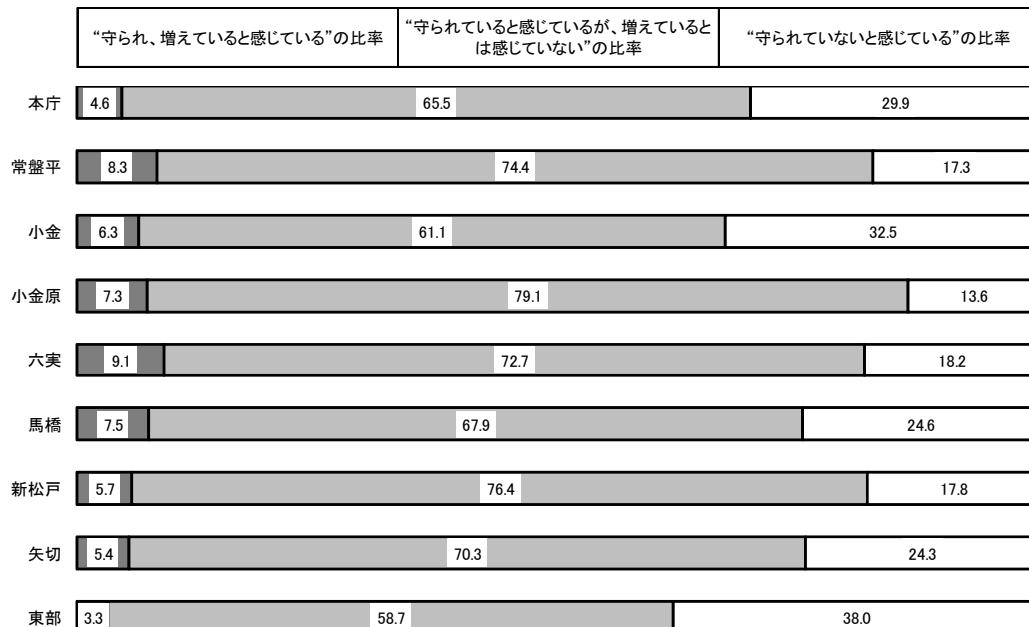
年齢別にみると、70歳以上で、“守られ、増えていると感じている”人が1割を上回っている。年齢層が高くなるにしたがい、“守られていないと感じている”人が減少傾向を示す結果となっている。

【街路樹や緑地×年齢】



地区別にみると、どの地区も“守られ、増えていると感じている”人が1割未満となっている。“守られていないと感じている”人をみると、東部地区が38.0%と高く、次いで小金(32.5%)、本庁(29.9%)が続いている。

【街路樹や緑地×地区】



第5節 魅力ある都市空間の形成と産業の振興

第1項 地域産業を振興し、豊かな経済活動ができるようにします

めざしたい将来像：

若者に魅力ある松戸のまちづくりに向けて、産・学・官・民・年代間の連携を継続的な取組にして、今ある資源を活かした、新しい松戸らしい地域産業を生み出す。

指標

快適・便利・賑わいがあると感じている人の割合

① 指標の説明

都市機能の強化は、快適性や利便性の向上となり、産業の振興と雇用の確保、観光資源の活用や商圈の拡大等による交流人口の増加は賑わいをもたらすものです。そこで、快適・便利・賑わいがあると感じている人の割合を指標とします。

② 設問

この指標は、「快適・便利・賑わいの4項目の満足度」を組み合わせで聞いている。「地域・態度（評価）」

Q21-イウキソ 「まちの賑わいや買い物の便」「通勤、通学などの交通の便」「道路、公園、下水道などの都市施設」「特色ある祭りや地域ぐるみのイベント」の4項目

あなたが松戸市で生活する中で、次のことについてそれぞれどの程度満足していますか。（1つに○）

- | | | |
|------------|--------------|---------|
| 1 十分満足している | 2 まあまあ満足している | 3 普通である |
| 4 やや不満である | 5 きわめて不満である | 6 わからない |

③ 指標の現状（値）

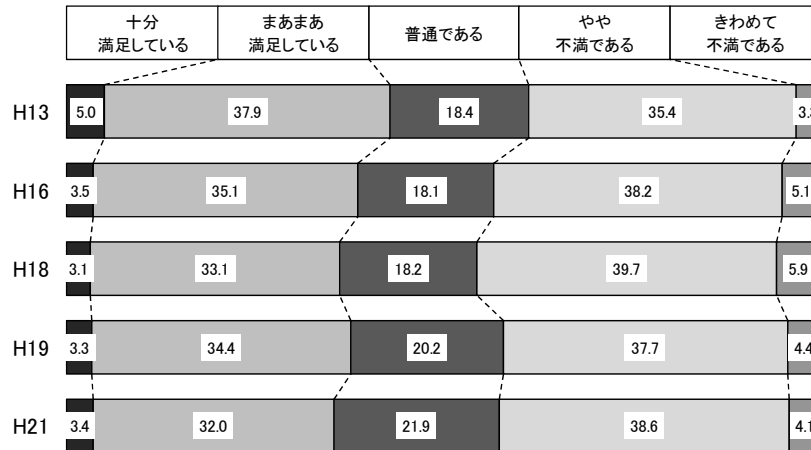
カテゴリー	H13年度	H16年度	H18年度	H19年度	H21年度
十分満足している	5.0%	3.5%	3.1%	3.3%	3.4%
まあまあ満足している	37.9%	35.1%	33.1%	34.4%	32.0%
計	42.9%	38.6%	36.2%	37.7%	35.4%

④ 指標の分析

◆ 快適・便利・賑わいの満足度は僅かに減少

日ごろ生活する中で、快適・便利・賑わいについて満足している人の割合は、35.4%で、前回より2.3ポイントの減少がみられる。これまでの調査で最も低い割合であった。

【快適・便利・賑わい4項目の総合満足度】



注) 快適・便利・賑わいの4項目の総合満足度については、次のような方法にもとづき算出している。

- ・ Q21 イ、ウ、キ、ソの4つの質問の選択肢に表1の評価点をそれぞれ与える。
- ・ 4つの質問の評価点の合計点を表2にしたがい分布をとる。

表1

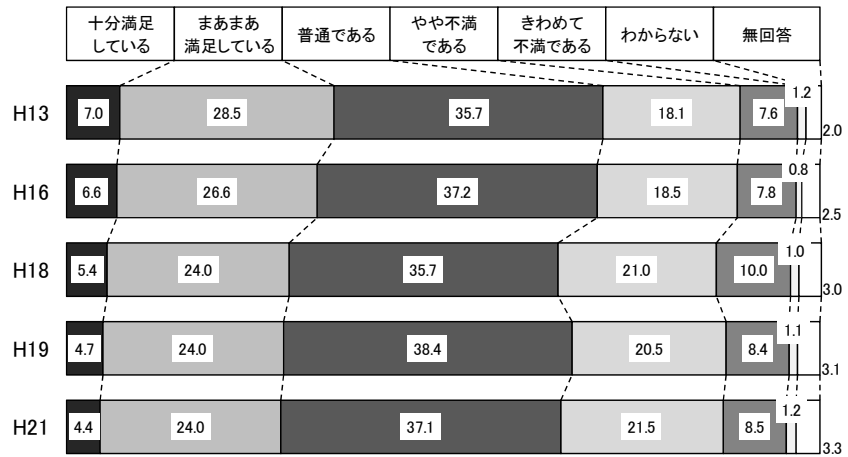
①「十分満足」	+2
②「まあまあ満足」	+1
③「普通」	0
④「やや不満」	-1
⑤「きわめて不満」	-2

表2

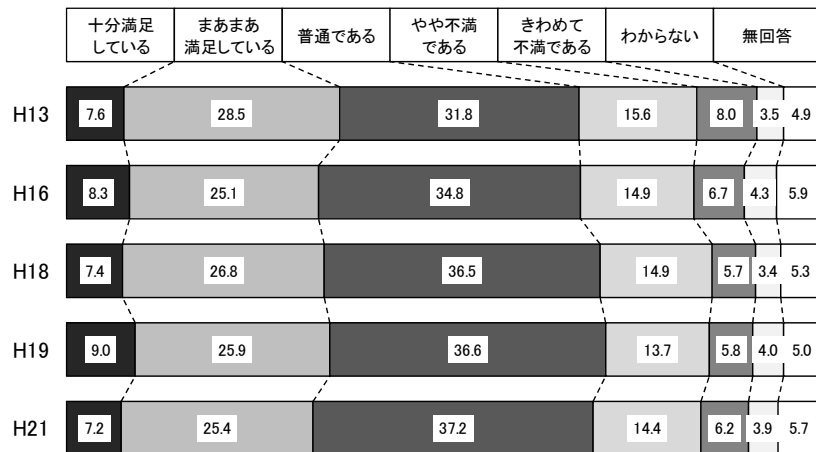
- | |
|--------------------|
| ① 5点以上(十分満足している) |
| ② 1~4点(まあまあ満足している) |
| ③ 0点(普通である) |
| ④ -1~-4点(やや不満である) |
| ⑤ -5点以下(きわめて不満である) |

「快適・便利・賑わいの4項目の満足度」に関する各項目ごとにみると、“十分満足している”と“まあまあ満足している”を合わせた満足度が前回に比べ増加した項目は、“道路、公園、下水道などの都市施設”、“特色ある祭りや地域ぐるみのイベント”であった。どの項目も普通と感じる割合が最も高くなっている。

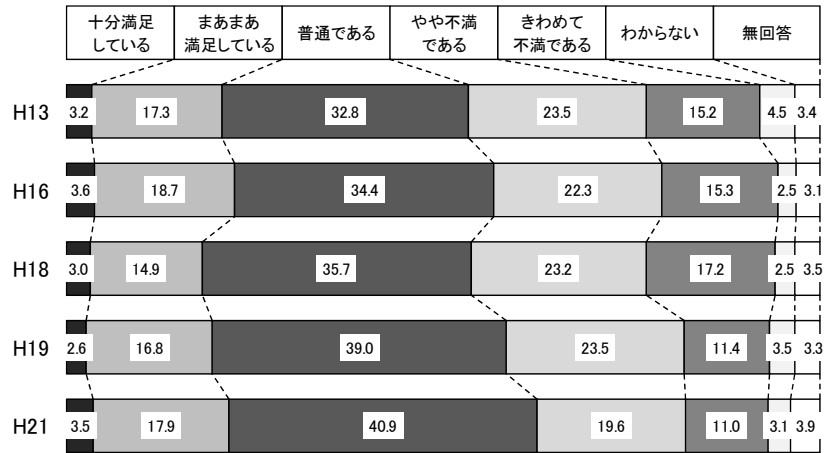
【まちの賑わいや買い物の便】



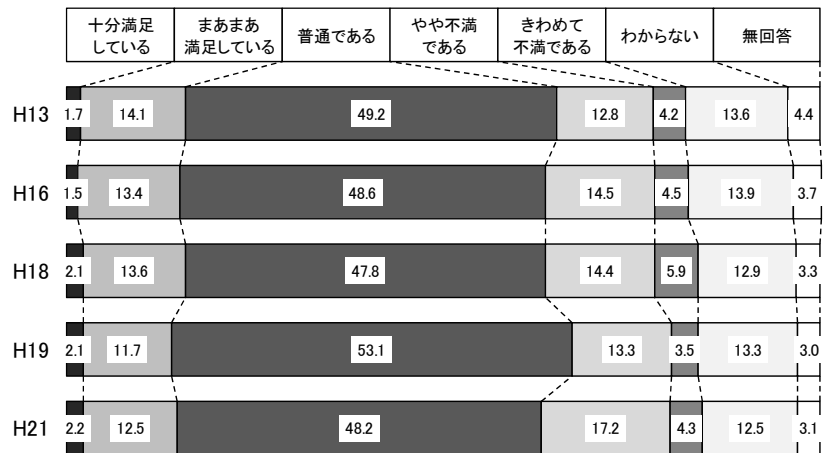
【通勤・通学などの交通の便】



【道路、公園、下水道などの都市施設】



【特色ある祭りや地域ぐるみのイベント】



指標

松戸の良さを伝えるために取り組んでいる市民の割合

① 指標の説明

魅力あるまちづくりに向けて、松戸の良さに気づき、その良さを他の人に伝えている市民が増えることが必要と考えられます。

そこで、松戸の良さを伝えるために取り組んでいる市民の割合を指標とします。

② 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている。「個人・行動」

Q11 あなたは日頃、松戸の良さを他の人に伝える活動をしていますか。(1つに○)

1 日常的にしている 2 ときどきしている 3 あまりしていない 4 全くしていない

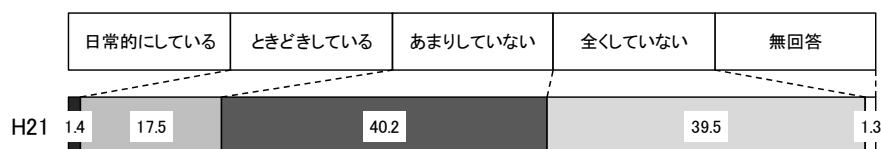
③ 指標の現状(値)

カテゴリー	H21年度
日常的にしている	1.4%
ときどきしている	17.5%
計	18.9%

④ 指標の分析

◆ 松戸の良さを他の人に伝えている市民は2割弱

日頃、松戸の良さを他の人に伝えている人の割合は18.9%であった。最も割合が高かった項目は“あまりしていない”(40.2%)で全体の4割を占めている。



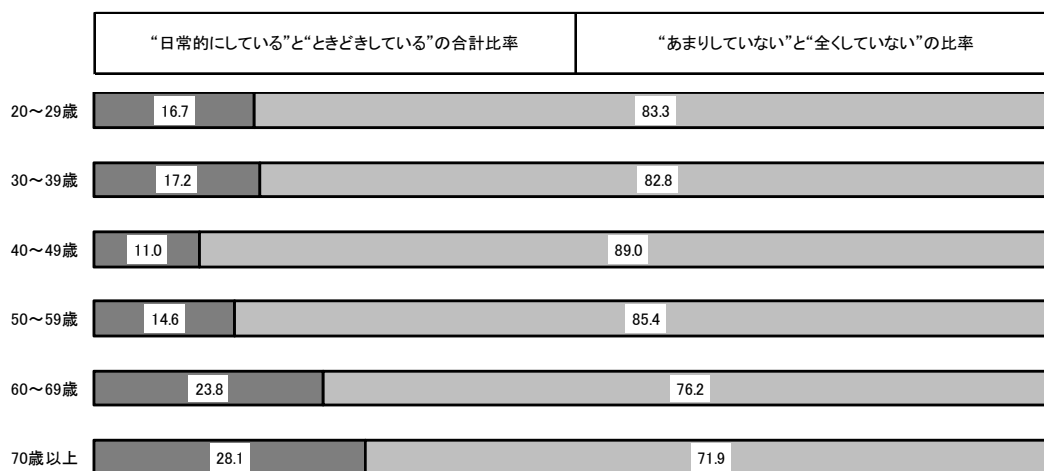
性別で見ると、男性が女性より松戸の良さを他の人に伝えている人の割合が僅かであるが高かった。しかしながら、伝えていない人の割合がどちらも8割前後を占めている。

【松戸の良さの伝達×性別】



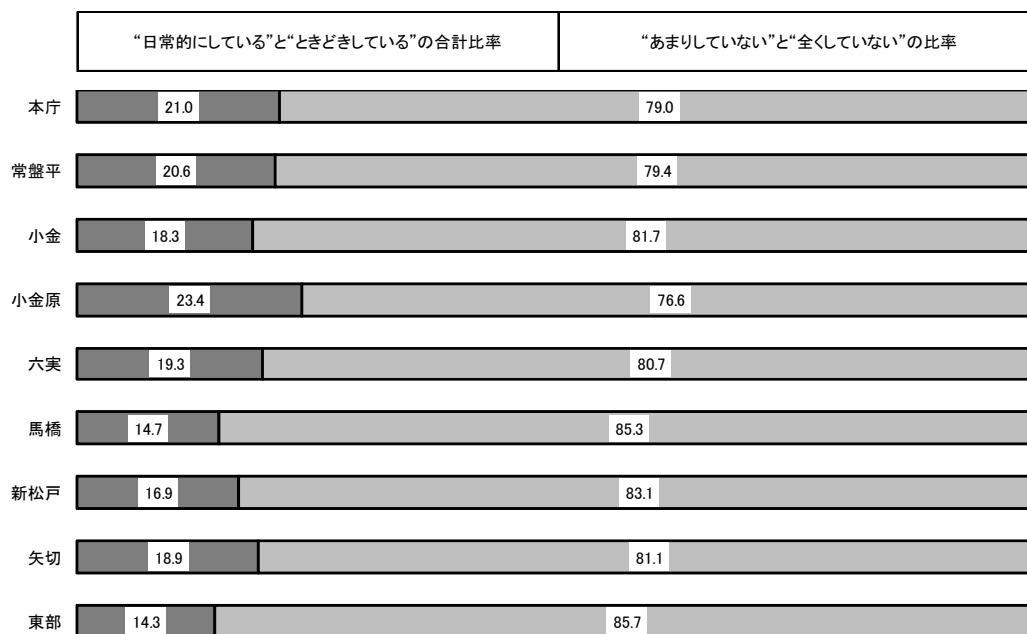
年齢別でみると、60歳代と70歳以上で松戸の良さを他の人に伝えている人の割合が2割以上となっている。最も低いのは40歳代で11.0%であった。

【松戸の良さの伝達×年齢】



地区別にみると、本庁、常盤平、小金原地区で、松戸の良さを他の人に伝えている人の割合が2割を上回っている。そのほかの地域は1～2割以内にとどまっている。

【松戸の良さの伝達×地区】



第5節 魅力ある都市空間の形成と産業の振興

第3項 ゆとりを感じるまちに住むことができるようにします

めざしたい将来像:

ふるさと松戸の共有化のために、産・学・官・民が連携することで、文化的で自然豊かなまちを実現する。

指標

安心やゆとりを感じている人の割合

① 指標の説明

住環境の拡大や自然環境の保全は、多くの人々にゆとり感を与えます。そこで、安心やゆとりを感じている人の割合を指標とします。

② 設問

この指標は、「安心やゆとりの6項目の満足度」を組み合わせ聞いている。「地域・態度（評価）」

Q21-アケコサシス 「保健・医療・福祉サービス」「緑地・河川などの自然環境」「空気のきれいさ、騒音・悪臭などの公害の少なさ」「まち並み、建物などまち全体の景観」「住環境のゆとりなどの住宅事情」「事故や災害に強い安全なまち」の6項目

あなたが松戸市で生活する中で、上記の6項目についてそれぞれの程度満足していますか。（1つに○）

- | | | |
|------------|--------------|---------|
| 1 十分満足している | 2 まあまあ満足している | 3 普通である |
| 4 やや不満である | 5 きわめて不満である | 6 わからない |

③ 指標の現状（値）

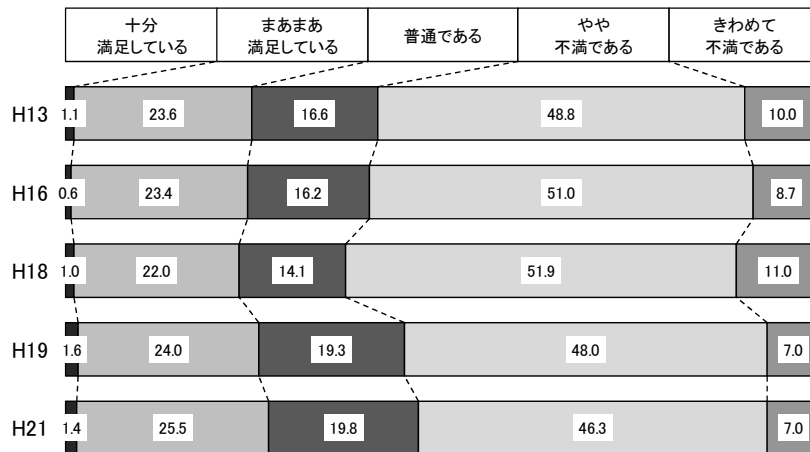
カテゴリー	H13年度	H16年度	H18年度	H19年度	H21年度
十分満足している	1.1%	0.6%	1.0%	1.6%	1.4%
まあまあ満足している	23.6%	23.4%	22.0%	24.0%	25.5%
計	24.6%	24.0%	23.0%	25.6%	26.9%

④ 指標の分析

◆ 安心やゆとりに関する満足度は年々増加

日ごろ生活する中で、安心やゆとりに満足を感じている人の割合は 26.9%で、前回から 1.3 ポイントの増加がみられた。この割合は、日常生活での保健福祉サービスや地域環境全般に関わる総合的な指標となっている。少子高齢化や環境の保全、地域安全の確保など、社会的背景も踏まえ増大するニーズ・課題への対応がさらに求められる。幅広い分野・対象への取り組みを今後も継続していく必要がある。

【安心やゆとりの 6 項目の満足度】



注) 安心やゆとりの 6 項目の総合満足度については、次のような方法にもとづき算出している。

- ・ Q21 ア、ケ、コ、サ、シ、スの 6 つの質問の選択肢に表 1 の評価点をそれぞれ与える。
- ・ 6 つの質問の評価点の合計点を表 2 にしたがい分布をとる。

表 1

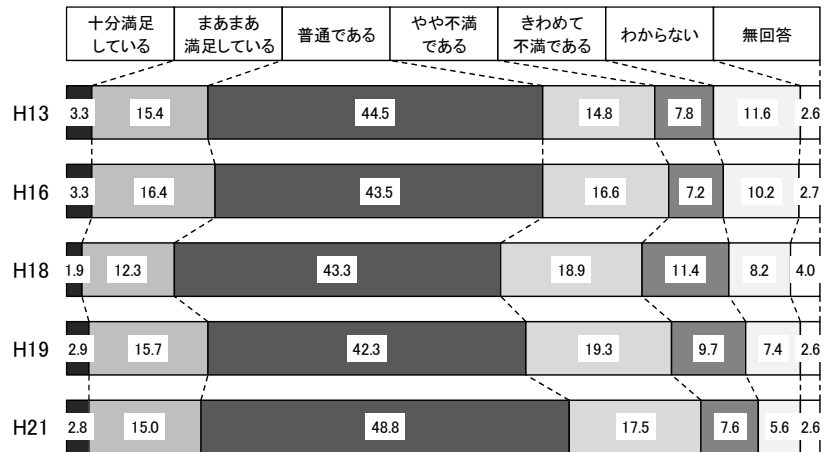
① 「十分満足」	+2
② 「まあまあ満足」	+1
③ 「普通」	0
④ 「やや不満」	-1
⑤ 「きわめて不満」	-2

表 2

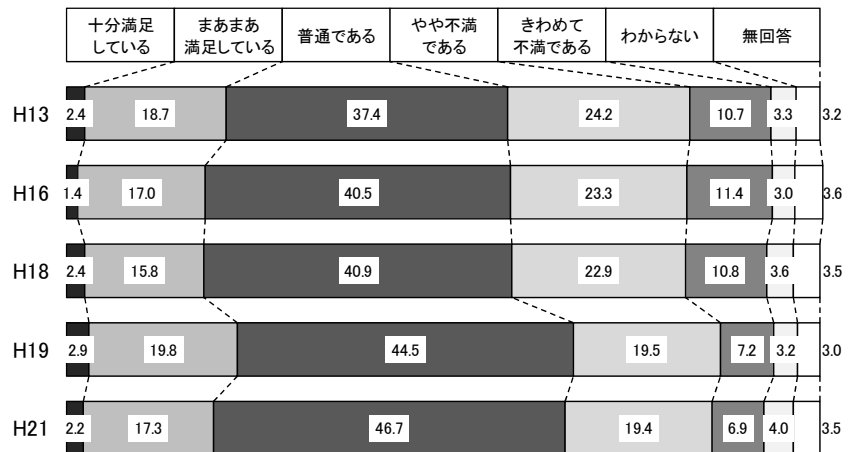
① 7 点以上 (十分満足している)
② 1~6 点 (まあまあ満足している)
③ 0 点 (普通である)
④ -1~-6 点 (やや不満である)
⑤ -7 点以下 (きわめて不満である)

「安心やゆとりの 6 項目の満足度」に関する各項目ごとにみると、“空気のきれいさ、騒音・悪臭などの公害の少なさ”のみ、“十分満足している”と“まあまあ満足している”を合わせた満足度合いが前回と比べ増加がみられ、そのほかの 5 項目ではやや減少している。どの項目も“普通である”が最も高い割合を示している。

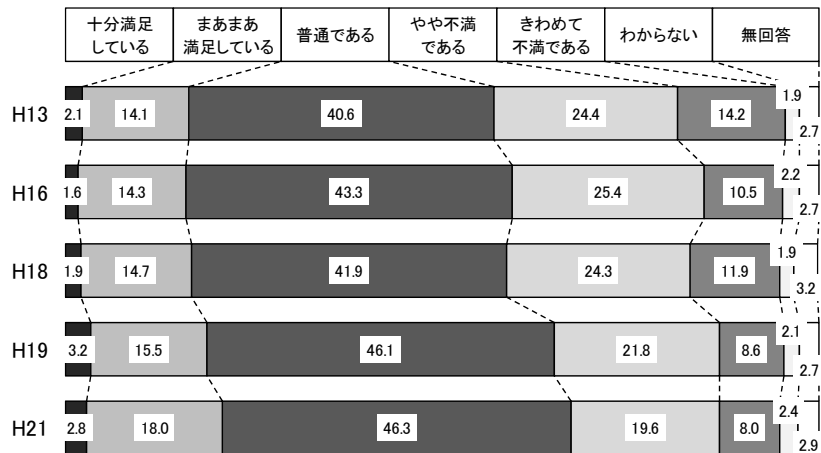
【保健・医療・福祉サービス】



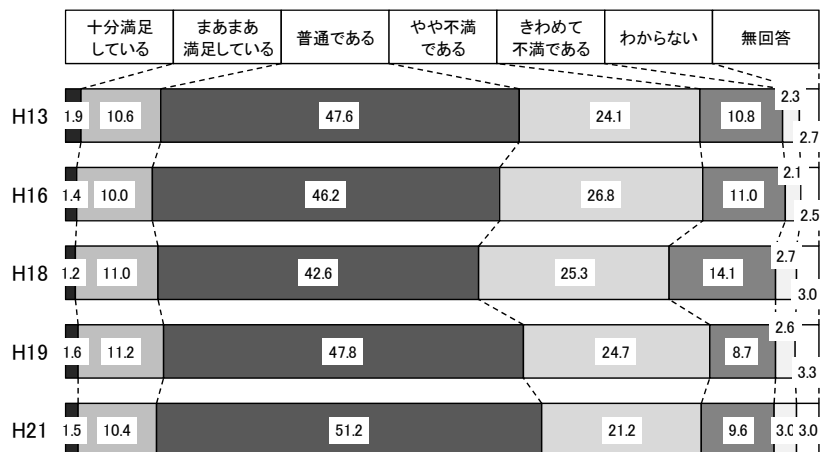
【緑地・河川などの自然環境】



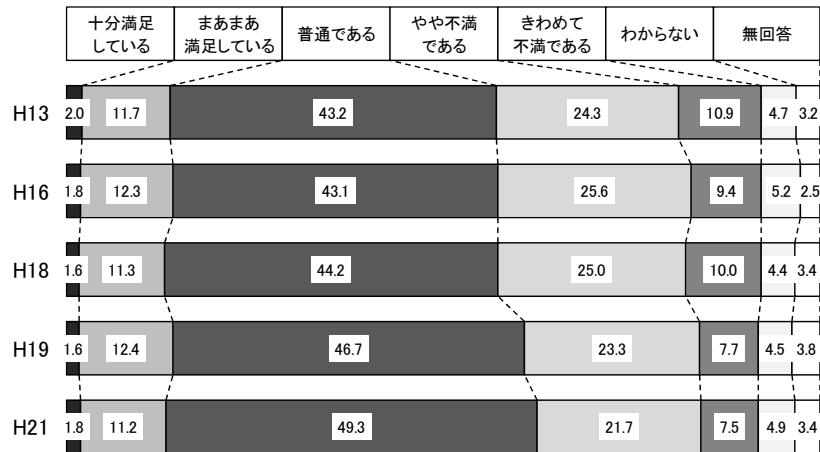
【空気のきれいさ、騒音・悪臭などの公害の少なさ】



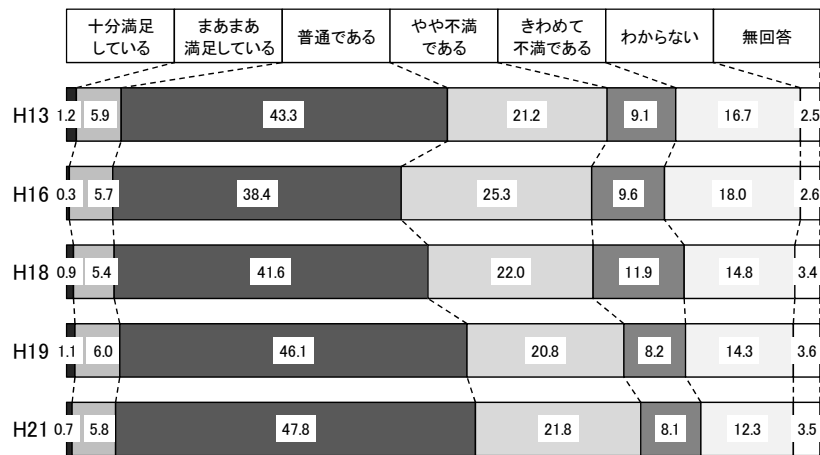
【まち並み、建物などまち全体の景観】



【住環境のゆとりなどの住宅事情】



【事故や災害に強い安全なまち】



第5節 魅力ある都市空間の形成と産業の振興

第5項 安全な河川に整備し、きれいな水とふれあえるようにします

めざしたい将来像：

清流とゆたかな自然環境の保持に向けて、川に親しめるような整備をすることで、市民の憩いの場を実現する。

指標

緑地・河川などの自然環境に満足している人の割合（再掲）

① 指標の説明

緑や水にふれあう機会が増すことによって、これらの自然環境に対する市民の満足度も高くなると考え、緑地、河川などの自然環境に満足している人の割合を指標とします。

② 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている。「地域・態度（評価）」

Q21-ケ 「緑地・河川などの自然環境」の項目

あなたが松戸市で生活する中で、次のことについてそれぞれどの程度満足していますか。（1つに○）

- | | | |
|------------|--------------|---------|
| 1 十分満足している | 2 まあまあ満足している | 3 普通である |
| 4 やや不満である | 5 きわめて不満である | 6 わからない |

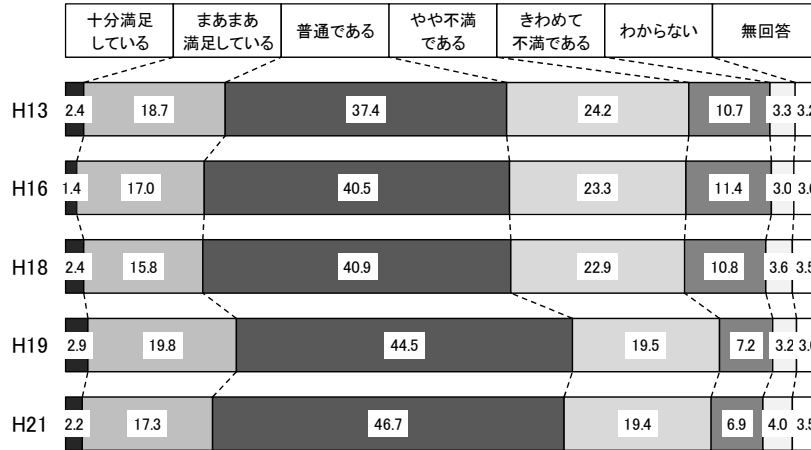
③ 指標の現状（値）

カテゴリー	H13年度	H16年度	H18年度	H19年度	H21年度
十分満足している	2.4%	1.4%	2.4%	2.9%	2.2%
まあまあ満足している	18.7%	17.0%	15.8%	19.8%	17.3%
計	21.1%	18.4%	18.2%	22.7%	19.5%

④ 指標の分析

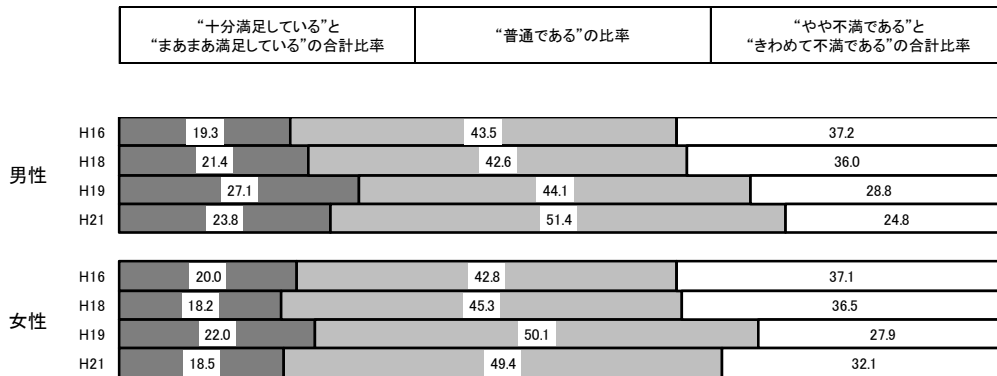
◆ 自然環境に対する満足度は減少

緑地や河川などの自然環境についての満足度は19.5%で、前回と比べると3.2ポイント減少した。



性別でみると、“十分満足している”と“まあまあ満足している”を合わせた満足度は男性の方が女性より高くなっている。前回と比べると、男性、女性ともに、“十分満足している”と“まあまあ満足している”を合わせた満足度が減少している。

【自然環境×性別】



年齢別にみると、どの年齢層も“十分満足している”と“まあまあ満足している”を合わせた満足度が、2割程度にとどまっており、“やや不満である”と“きわめて不満である”を合わせた不満度の方が満足度を上回っている。前回と比べると、50歳代のみ“十分満足している”と“まあまあ満足している”を合わせた満足度で僅かに増加がみられる。

【自然環境×年齢】

		“十分満足している” “まあまあ満足している”の合計比率	“普通である”の比率	“やや不満である” “きわめて不満である”の合計比率
20～29歳	H16	20.5	37.1	42.4
	H18	18.8	39.0	42.2
	H19	24.4	38.2	37.4
	H21	19.3	51.0	29.7
30～39歳	H16	25.6	39.1	35.3
	H18	20.1	47.1	32.8
	H19	23.0	47.3	29.7
	H21	21.5	49.0	29.5
40～49歳	H16	14.2	39.7	46.1
	H18	14.0	42.6	43.4
	H19	22.2	46.2	31.6
	H21	17.7	52.1	30.2
50～59歳	H16	15.7	41.0	43.3
	H18	16.0	42.4	41.7
	H19	20.3	51.7	28.0
	H21	20.7	52.2	27.2
60～69歳	H16	19.4	49.1	31.5
	H18	21.6	45.3	33.0
	H19	25.6	47.3	27.0
	H21	22.0	49.4	28.6
70歳以上	H16	22.1	52.4	25.5
	H18	30.3	45.5	24.2
	H19	30.0	48.8	21.1
	H21	23.2	51.0	25.7

第6節 都市経営の視点に立った行財政運営

第1項 市民ニーズに基づく行政経営を行います

めざしたい将来像：

50万市民の満足度向上のために、継続的な対話を経た力強い連携による政策の仕組みづくりをすることによって、経営基盤が強化され、安心して住みやすいまちを実現する。

指標

住み続けたいと思う人の割合

① 指標の説明

誰もが住みやすい環境形成が実現できれば、今後も住み続けたいと思う意向が強くなると考えます。そこで、住み続けたいと思う人の割合を指標とします。

② 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている。「個人・意向」

Q22 あなたは、これからも松戸市に住み続けたいと思いますか。（1つに○）

- 1 住み続けたい 2 できることなら住み続けたい 3 どちらとも言えない
4 あまり住み続けたくない 5 住み続けたくない

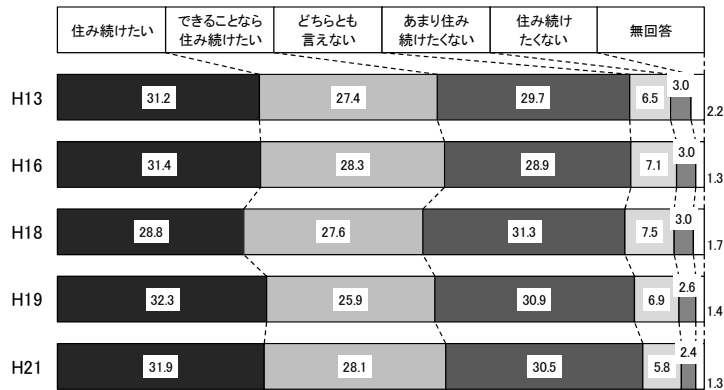
③ 指標の現状

カテゴリー	H13年度	H16年度	H18年度	H19年度	H21年度
住み続けたい	31.2%	31.4%	28.8%	32.3%	31.9%
できることなら住み続けたい	27.4%	28.3%	27.6%	25.9%	28.1%
計	58.6%	59.7%	56.4%	58.2%	60.0%

④ 指標の分析

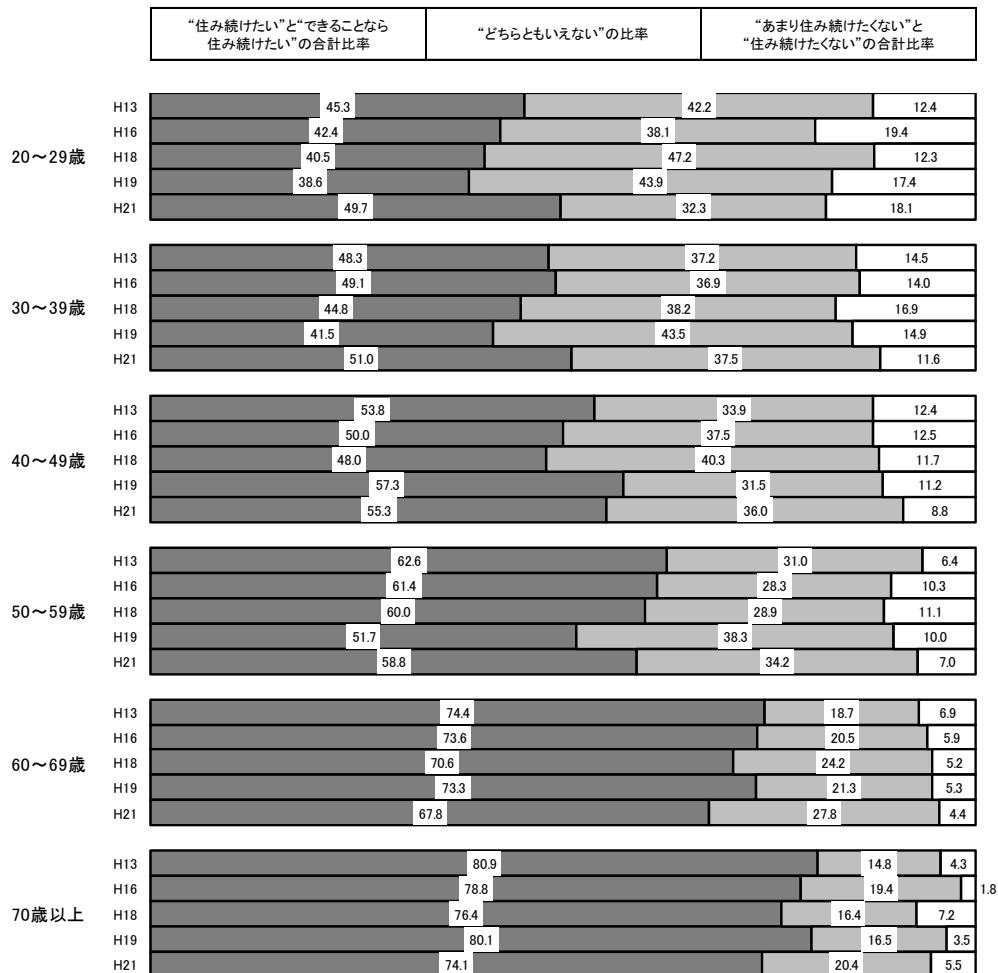
◆ 前回に比べ、定住意向に関する意識は増加している

“住み続けたい”の回答は、前回に比べ若干減少している。“できることなら住み続けたい”は増加しており、“どちらとも言えない”、“あまり住み続けたくない”、“住み続けたくない”は、減少している。定住の意思を示す人の割合は 6 割と高い割合を示している。



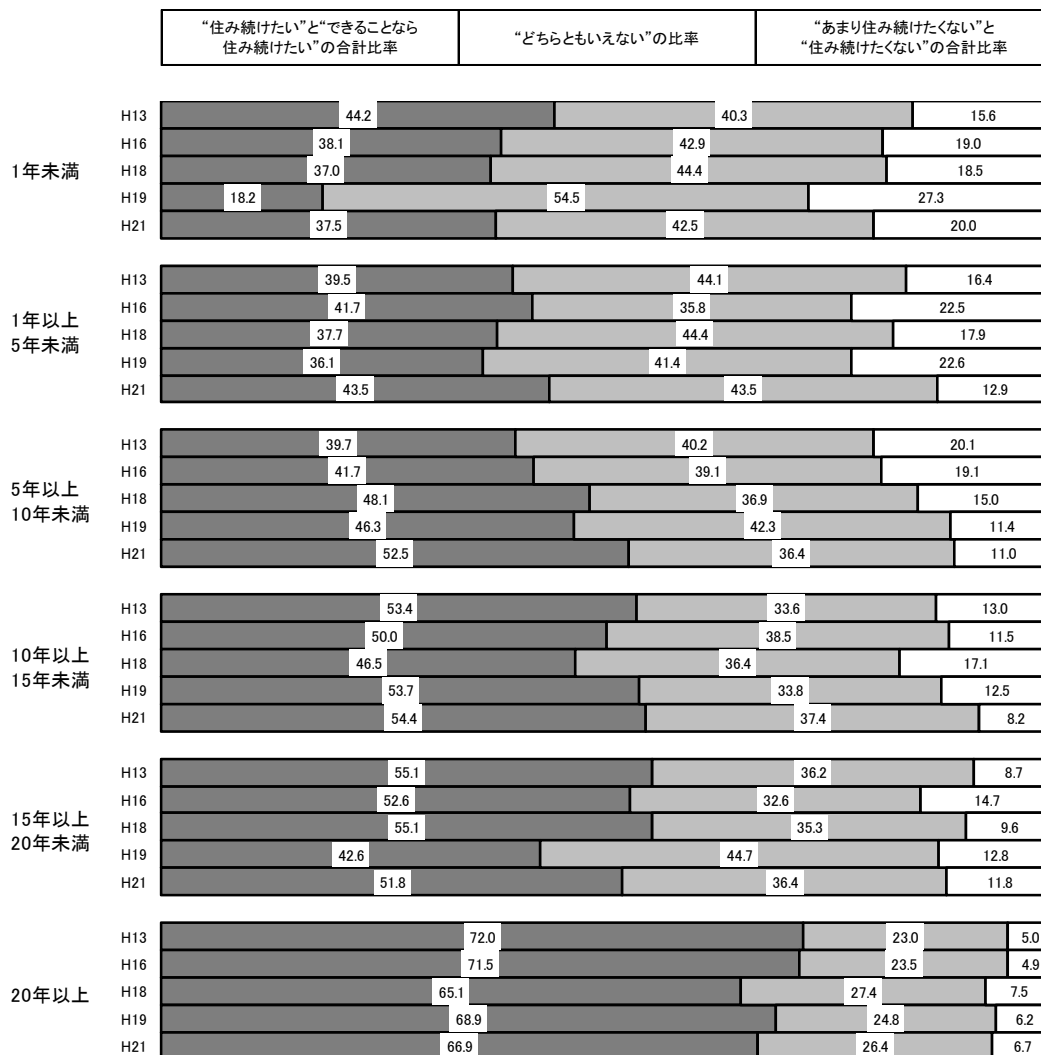
次に、年齢別にみると、“住み続けたい”と“できることなら住み続けたい”という意向が、年齢に比例して上昇する傾向は変わらない。前回と比較すると、20 歳代で 11.1 ポイント、30 歳代で 9.5 ポイント、50 歳代で 7.1 ポイントと大きく増加している。

【定住意向×年齢】



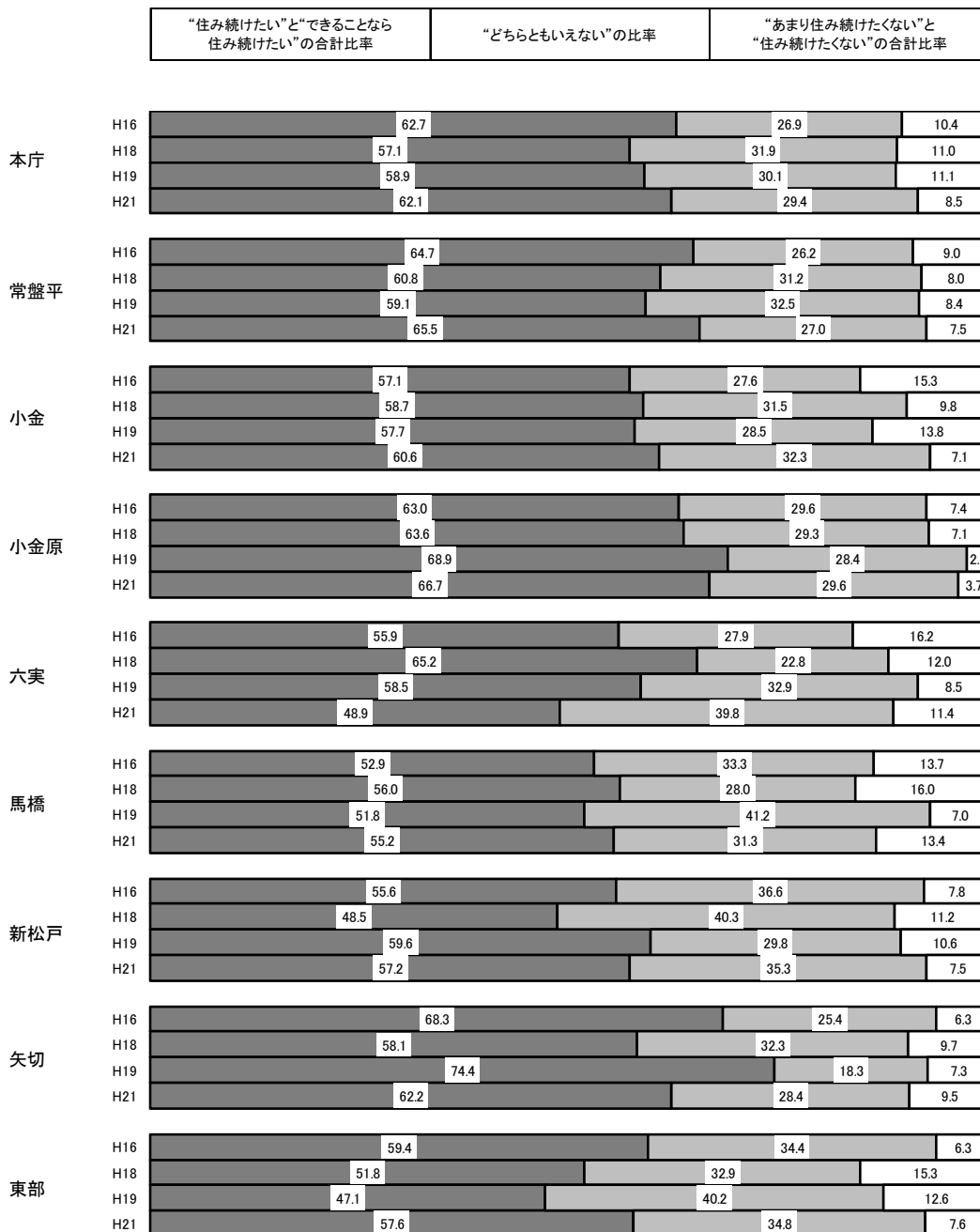
居住年数別にみると、居住年数が長くなるにつれて定住意向が強くなる傾向は前回と同様となっている。前回と比べると、1年未満、15年以上20年未満の人で“住み続けたい”と“できることなら住み続けたい”という意向が大きく増加している。

【定住意向×松戸市在住年数】



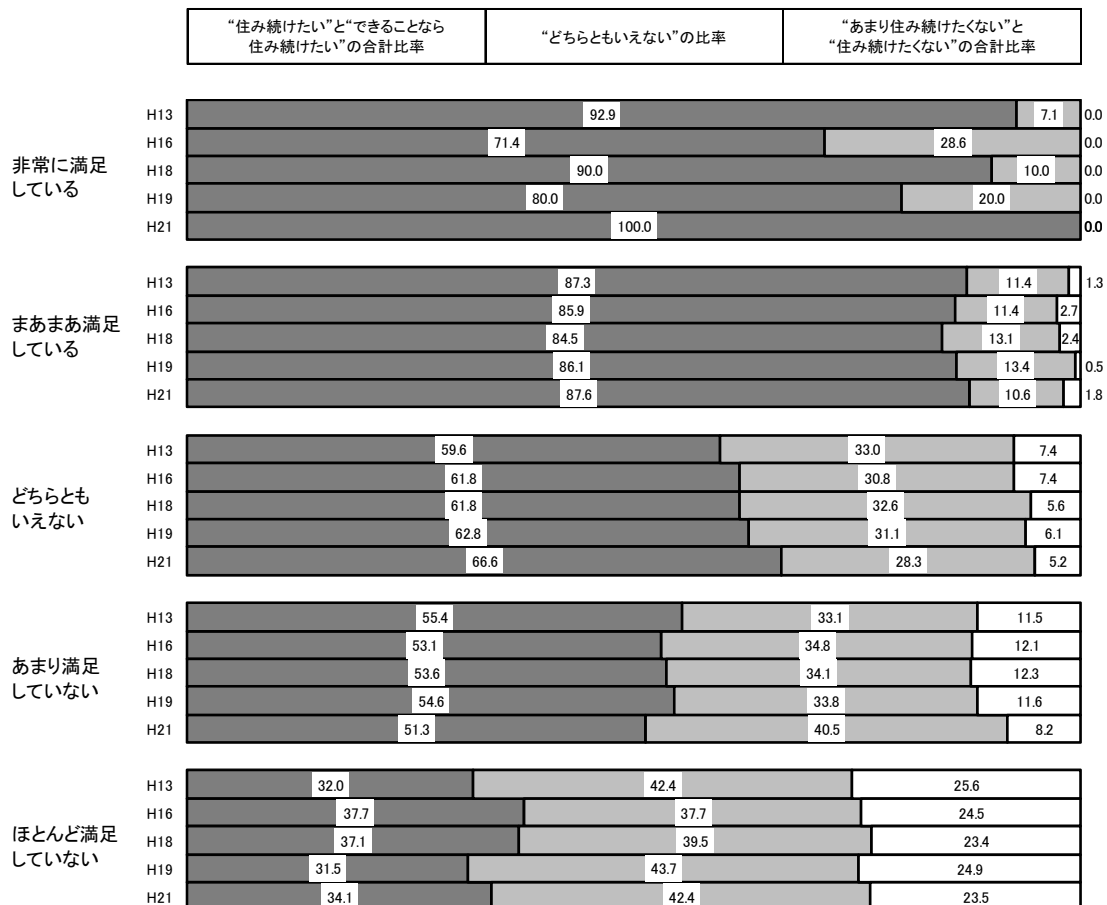
地区別では、六実地区以外で“住み続けたい”と“できることなら住み続けたい”が半数以上を占めている。六実地区は前回に比べ1割程度減少している。前回から“住み続けたい”と“できることなら住み続けたい”が増加している地区は、本庁、常盤平、小金、馬橋、東部地区であった。

【定住意向×地区】



さらに、現在の行政サービスの満足度との関係を見ると、前回と同様に、満足している人は住み続けたいとの意向が多数を占めるのに対し、満足していない人ほど、住み続けたくないという傾向が高くなっている。

【定住意向×税金の対価サービス満足度】



指標

行政サービスの改善度

① 指標の説明

市民の満足度向上のため、行政サービスが改善されたと感じる人の割合を指標とします。

② 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている。「個人・態度（評価）」

Q20 あなたは、全体として松戸市の行政サービスについて、どのように感じていますか。（1つに○）

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1 以前より非常に良くなっている | 2 以前より多少良くなっている |
| 3 以前と変わらない | 4 以前より多少悪くなっている |
| 5 以前より非常に悪くなっている | |

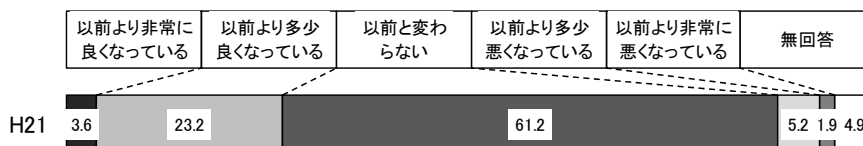
③ 指標の現状（値）

カテゴリー	H21年度
以前より非常に良くなっている	3.6%
以前より多少良くなっている	23.2%
計	26.8%

④ 指標の分析

◆ 行政サービスが以前より良くなっていると感じる市民は3割弱

松戸市の行政サービスが以前より良くなったと感じている人の割合は、26.8%であった。最も高かった項目は“以前と変わらない”(61.2%)で全体の6割以上を占めている。



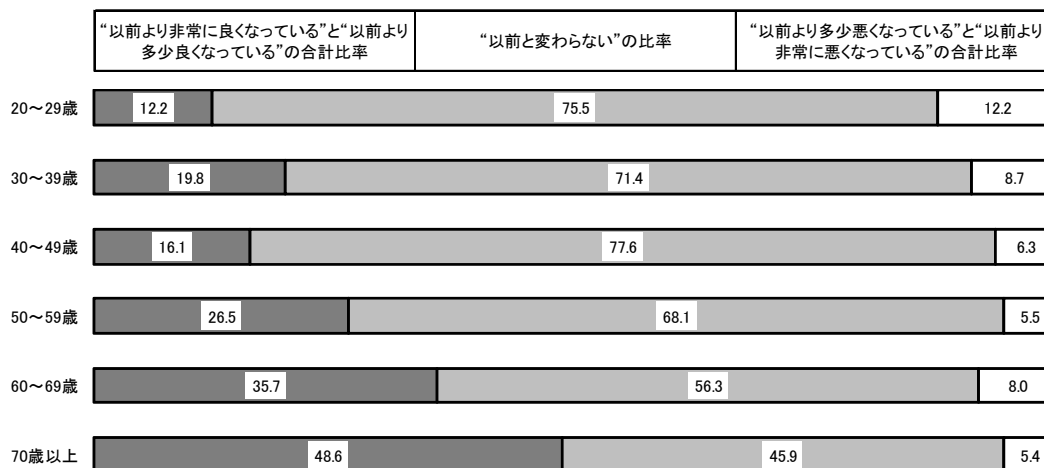
性別で見ると、男女による大きな違いはみられない。

【行政サービスの改善度×性別】

	“以前より非常に良くなっている”と“以前より多少良くなっている”の合計比率	“以前と変わらない”の比率	“以前より多少悪くなっている”と“以前より非常に悪くなっている”の合計比率
男性	28.7	62.5	8.8
女性	27.9	65.8	6.3

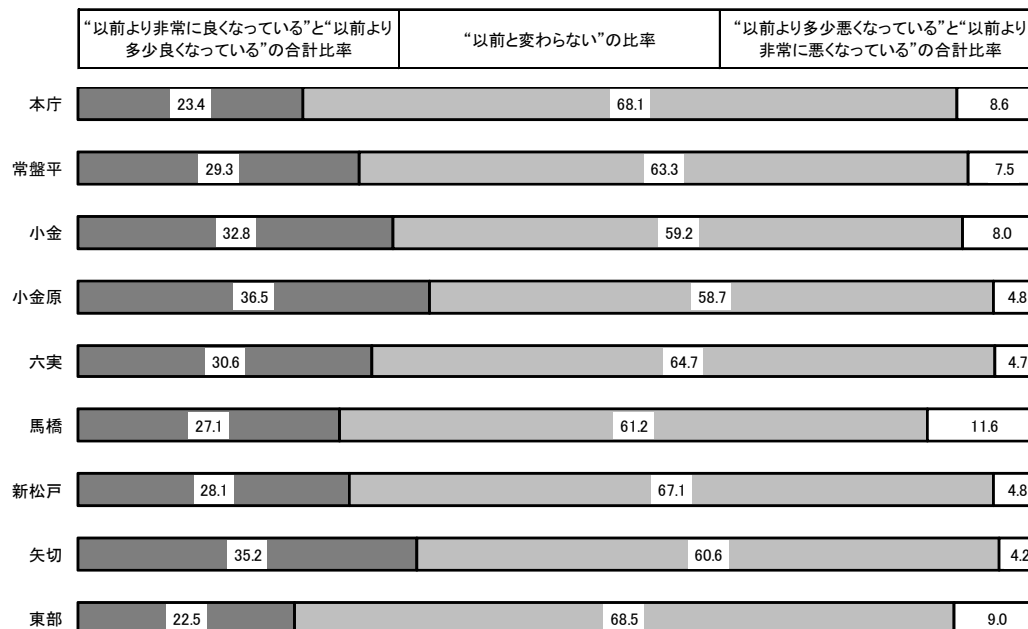
年齢別にみると、年齢層が高くなるにしたがい、以前より良くなっていると感じる人の割合が増加傾向を示し、70歳以上では全体の約5割を占めている。なお、70歳以上のみ、良くなっていると感じる人の割合が最も高い割合となっており、そのほかの年齢層では、以前と変わらないが最も高くなっている。

【行政サービスの改善度×年齢】



地区別でみると、小金、小金原、六実、矢切地区で、以前より良くなったと感じる人が3割以上となっている。なお、馬橋地区のみ、以前より悪くなったと感じる人が1割以上であった。

【行政サービスの改善度×地区】



指標

行政情報入手手段に係るホームページの割合

① 指標の説明

行政の取り組みに関心を持つ市民が増えれば、ホームページで松戸市の情報を入手する市民も増えると考えられます。そこで、行政情報入手手段に係るホームページの割合を指標とします。

② 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている。

F10 あなたは、松戸市の行政情報を主に何によって入手しているかお答えください。

(2つまで○)

- | | | |
|---------------|---------------------|---------------|
| 1 テレビ・ラジオ | 2 新聞・雑誌 | 3 広報誌（広報まつど） |
| 4 松戸市のホームページ | 5 各種パンフレット | 6 町会などでの集会や会合 |
| 7 市が主催する説明会など | 8 その他（ ） | 9 特にない |

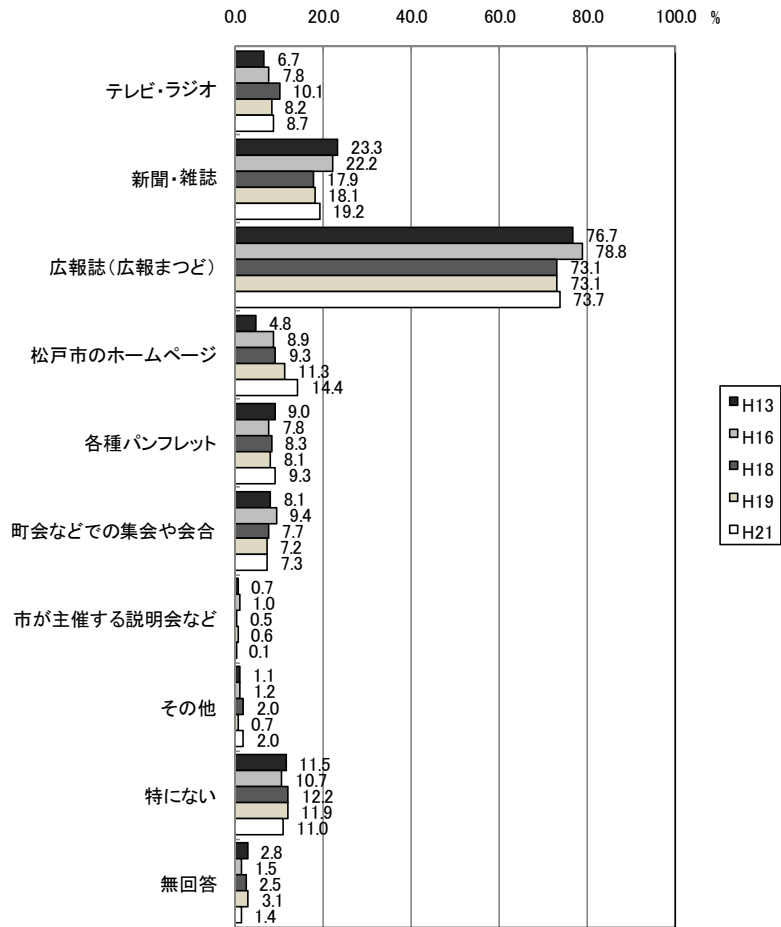
③ 指標の現状（値）

カテゴリー	H21年度
松戸市のホームページ	14.4%

④ 指標の分析

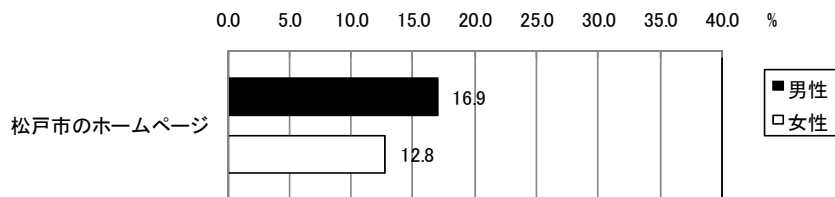
◆ ホームページから情報を入手している割合は14.4%

松戸市のホームページから行政情報を入手している人の割合は、14.4%であった。調査を重ねるにつれ、増加がみられ、H13と比べると、9.6ポイント増加している。



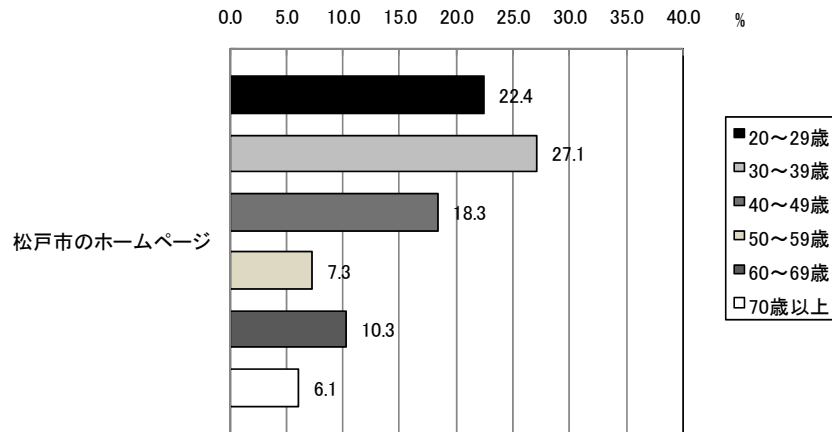
松戸市のホームページから行政情報を入手している人を性別で見ると、男性の方が女性に比べ 4.1 ポイント高かった。

【行政情報の入手手段×性別】



松戸市のホームページから行政情報を入手している人を年齢別にみると、若年層(20歳代、30歳代)で2割以上と高かった。年齢層が高くなるにしたがい、割合が減少している。

【行政情報の入手手段×年齢】



指標

インターネットを利用している人の割合

① 指標の説明

インターネットを利用できる環境にある人は、その双方向性を活かして、活発に外部とのコミュニケーションを図ることにより、社会における活動範囲が拡大するとともに、生活の質の改善にもつながっていくと考えられます。そこで、インターネットを利用している人の割合を指標とします。

② 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている。「個人・行動」

Q13 あなたは、ご自身でインターネットを利用しますか。(1つに○)

- 1 毎日のように利用している 2 時々利用している 3 たまに利用している
4 ほとんど利用していない 5 全く利用していない

併せて、付問(前問で1~3を選択した人のみ)により活用内容と利用媒体についても聞いている。

SQ1 あなたは、インターネットをどのようなことに活用していますか。(全てに○)

- 1 電子メールの送信によく利用している
2 メールマガジンやニュースなどのメール情報をよく受信している
3 いろいろなホームページを開いて情報を入手している
4 チケット予約やショッピング、オークション参加、株売買など買い物をしている
5 自分自身でホームページを開設し、情報発信している
6 その他()

SQ2 あなたのインターネット利用は、次の中のどれにあてはまりますか。(1つに○)

- 1 パソコンからのみ利用している
2 パソコンが主で、補助的に携帯電話を利用している
3 パソコン、携帯電話の利用がほぼ半々である
4 携帯電話が主で、補助的にパソコンを利用している
5 携帯電話からのみ利用している

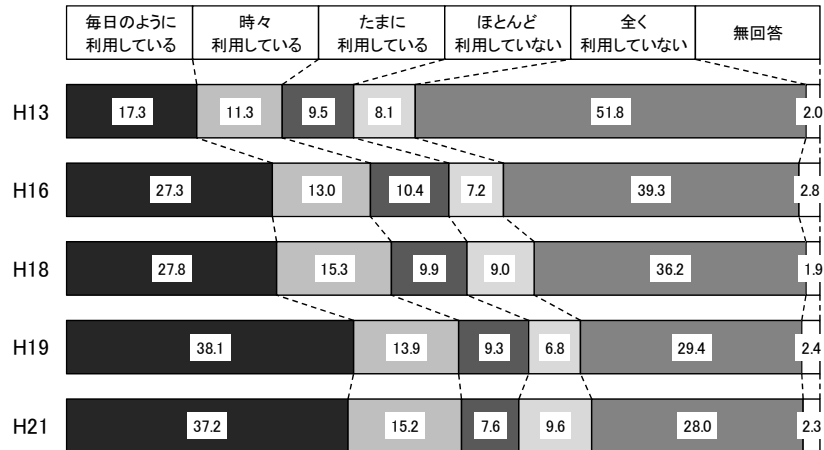
③ 指標の現状(値)

カテゴリー	H13年度	H16年度	H18年度	H19年度	H21年度
毎日のように利用している	17.3%	27.3%	27.8%	38.1%	37.2%
時々利用している	11.3%	13.0%	15.3%	13.9%	15.2%
たまに利用している	9.5%	10.4%	9.9%	9.3%	7.6%
計	38.1%	50.7%	53.0%	61.3%	60.0%

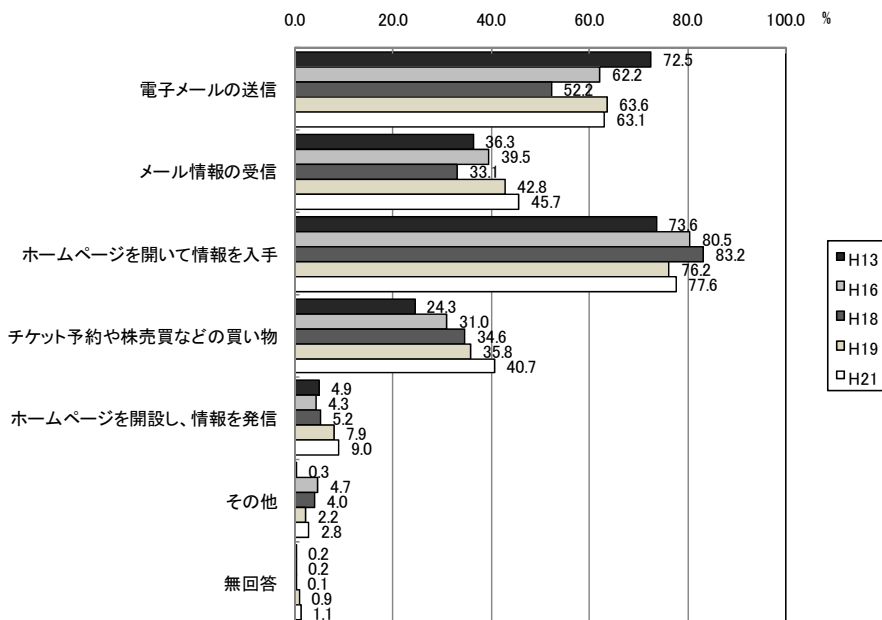
④ 指標の分析

◆ インターネット利用者層の拡大と、日常的な利用頻度の増加

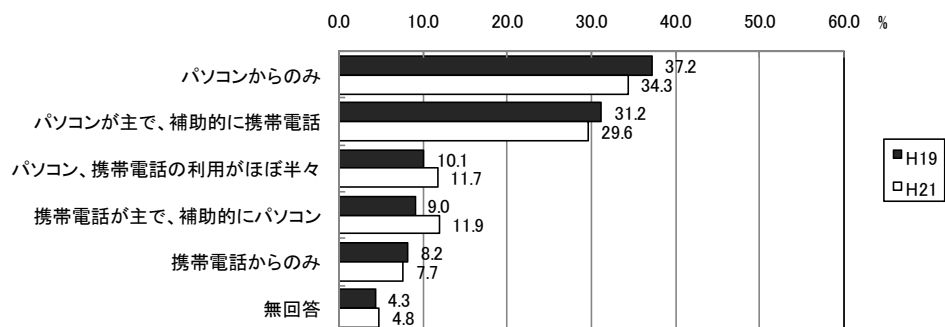
インターネットを利用している人の割合は前回とほぼ横ばいの結果であった。インターネットを利用している人が全体の6割を占めることから、インターネットが日常生活に密着した存在となりつつある様子がうかがえる。“全く利用していない”は年々減少傾向を示している。インターネットの利用者層が大きく広がり、日常的なライフスタイルとして定着しつつあるといえる。



インターネットを利用している人の活用方法としては、前回同様、“ホームページを開いて情報を入手”(77.6%)が最も高く、次いで“電子メールの送信”(63.1%)となっている。

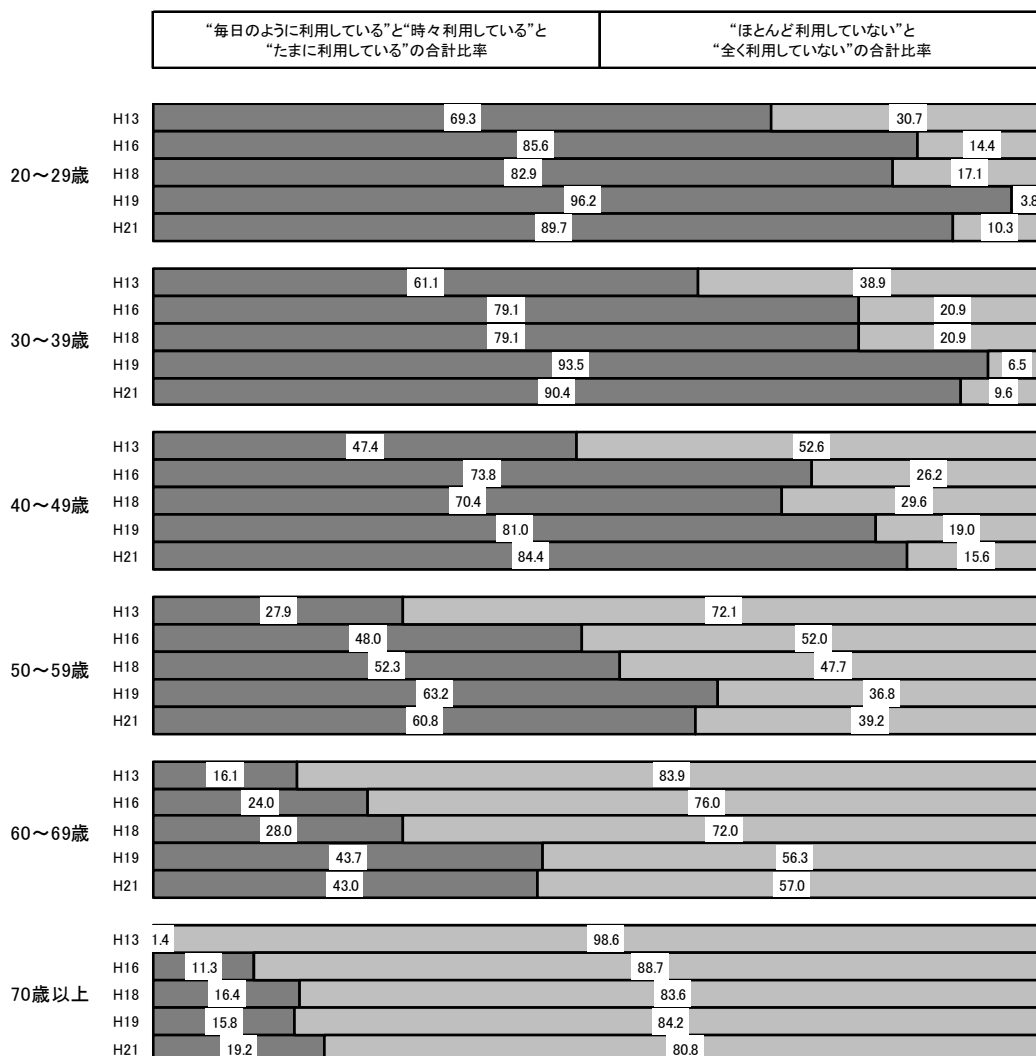


インターネットを利用している人の利用媒体としては、“パソコンからのみ”(34.3%)が最も高く、次いで“パソコンが主で、補助的に携帯電話”(29.6%)となっている。ただし、前回に比べ、携帯電話からの利用が増加していることがうかがえる。



年齢別にみると、前回同様、若中年層の利用が高くなっている。しかし、経年的にみると、50歳代、60歳代、70歳以上で利用している割合が年々増加傾向であることがわかる。

【インターネット利用×年齢】



性別で見ると、男性の方が利用する割合が高くなっている。女性で、前回調査よりやや減少がみられるが、経年的にみると、総じてインターネットの利用・普及は男女ともに進んでいる状況にある。

【インターネット利用×性別】

